



白樺の並木

花々に覆われた北の大地
 ラベンダー畑を歩く
 花畑と青空とのコントラスト
 小高い丘は作物ごとに区切られた
 緑や黄の紫のパッチワーク
 稜線にはポプラが点々と
 夏も白い雪を指く大雪山系
 風景は自分の足で探すもの
 丘の向こうはどんな景色だろうか
 ワクワクしながら歩いてみる
 脇の細い道をずらっと下りてみる
 暖やかな丘の稜線の美しさ
 拾ってきた家 五郎の石の家
 北の国 北海道の大らかな
 スローライフにあこがれる

ラベンダーの丘 (美瑛)

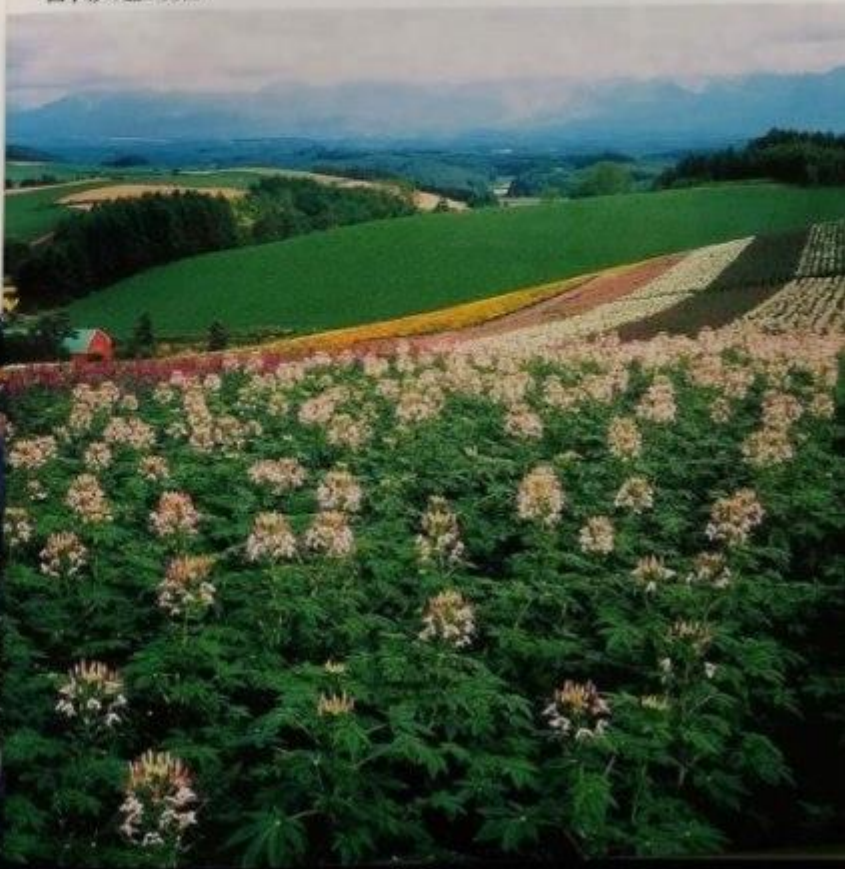
Photo essay

北の国



題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

四季彩の丘 (美瑛)



季節の



コオニユリ



木株の山道

ニッコウキスゲ



実景

盛夏

白馬・梅池自然園

撮影 武市通治



シラネアオイ

朝の木道





一切経山と五色沼 (吾妻連峰) 松田 敏男



シモツケソウ (伊吹山) 中川 光郎



景場平 (吾妻連峰) 松田 敏男



後立山縦走 (北アルプス・赤沢岳) 一芝 義雄

夏を彩る白い花 -大峰-

奥田 英一郎



ギンリョウソウ (室の窟尾根にて)



オヤマレンゲ (弥山と八経ヶ岳の鞍部にて)



ヤマシャクヤク (室の窟尾根にて)

●目次

表紙：松田敏男「鹿島槍ヶ岳」(北アルプス)

●作者プロフィール ●1940年、京都生まれ。京都府立芸術大学卒。1967年より山岳雑誌、山岳雑誌の編集者として、(京都平安堂、南アルプス山岳会、東京キョウリイ、他) 京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

新刊作 別冊 関西の山
04年7・8月 夏夏 第27号

沿線ハイキングガイド	85	新ハイ関西山行計画	90
サービスステーション	86	新ハイ関西山行報告	90
せせらぎ	86	編集後記・広谷実内	129
ガイド			
① 南高山 (湖北)	74	長宗 清司	74
② 蛇神山・大川入山 (南岳)	76	山形 隆之	76
③ 七面山 (大峰)	78	山形 隆之	78
④ 御金明神から鉢子ヶ口へ (南岳)	81	磯部 純	81
● コース			
● (山のレポート) 山の地名を歩く (高見山)	62	松永 恵一	62
● (山のレポート) 遺跡は人ごとではない	66	西尾 寿一	66
● (山のレポート) A山・時・夢・若狭富士青葉山	68	山本 久雄	68
● 旗振り通信の研究 ①	52	柴田 昭彦	52
● 旗振り通信の研究 ②	40	柴田 昭彦	40
● 旗振り通信の研究 ③	48	長坂 文男	48
● エリヤ別荘地帯研究			
● 高野参詣道を歩く (第六回)	26	磯部 純	26
● 六里ヶ峰 (龍神口)	28	磯部 純	28
● 龍神口	32	磯部 純	32
● 龍神口	33	磯部 純	33
● 龍神口	34	磯部 純	34
● 龍神口	35	磯部 純	35
● 龍神口	36	磯部 純	36
● 龍神口	37	磯部 純	37
● 龍神口	38	磯部 純	38
● 龍神口	39	磯部 純	39
● 龍神口	40	磯部 純	40
● 龍神口	41	磯部 純	41
● 龍神口	42	磯部 純	42
● 龍神口	43	磯部 純	43
● 龍神口	44	磯部 純	44
● 龍神口	45	磯部 純	45
● 龍神口	46	磯部 純	46
● 龍神口	47	磯部 純	47
● 龍神口	48	磯部 純	48
● 龍神口	49	磯部 純	49
● 龍神口	50	磯部 純	50
● 龍神口	51	磯部 純	51
● 龍神口	52	磯部 純	52
● 龍神口	53	磯部 純	53
● 龍神口	54	磯部 純	54
● 龍神口	55	磯部 純	55
● 龍神口	56	磯部 純	56
● 龍神口	57	磯部 純	57
● 龍神口	58	磯部 純	58
● 龍神口	59	磯部 純	59
● 龍神口	60	磯部 純	60
● 龍神口	61	磯部 純	61
● 龍神口	62	磯部 純	62
● 龍神口	63	磯部 純	63
● 龍神口	64	磯部 純	64
● 龍神口	65	磯部 純	65
● 龍神口	66	磯部 純	66
● 龍神口	67	磯部 純	67
● 龍神口	68	磯部 純	68
● 龍神口	69	磯部 純	69
● 龍神口	70	磯部 純	70
● 龍神口	71	磯部 純	71
● 龍神口	72	磯部 純	72
● 龍神口	73	磯部 純	73
● 龍神口	74	磯部 純	74
● 龍神口	75	磯部 純	75
● 龍神口	76	磯部 純	76
● 龍神口	77	磯部 純	77
● 龍神口	78	磯部 純	78
● 龍神口	79	磯部 純	79
● 龍神口	80	磯部 純	80
● 龍神口	81	磯部 純	81
● 龍神口	82	磯部 純	82
● 龍神口	83	磯部 純	83
● 龍神口	84	磯部 純	84
● 龍神口	85	磯部 純	85
● 龍神口	86	磯部 純	86
● 龍神口	87	磯部 純	87
● 龍神口	88	磯部 純	88
● 龍神口	89	磯部 純	89
● 龍神口	90	磯部 純	90
● 龍神口	91	磯部 純	91
● 龍神口	92	磯部 純	92
● 龍神口	93	磯部 純	93
● 龍神口	94	磯部 純	94
● 龍神口	95	磯部 純	95
● 龍神口	96	磯部 純	96
● 龍神口	97	磯部 純	97
● 龍神口	98	磯部 純	98
● 龍神口	99	磯部 純	99
● 龍神口	100	磯部 純	100

● 巻頭言

「紀伊山地の霊場と参詣道」が、今年の世界文化遺産登録に目前です。紀伊山地の霊場の中心は、吉野山・高野山・熊野三山(本宮・新宮・那智)、これらの霊場をつないで昔から利用された参詣道が、高野町石道・熊野古道(新伊路・伊勢路)と呼ばれているもので、また、吉野山から本宮へ山岳を越えて奥新宮行に歩かれた道は大峰道と呼ばれています。紀伊路の熊野古道はルートによって大辺路・中辺路・小辺路に分かれています。それにしても広大な地域がまとまって一括で登録されることになっています。

ハイキングを楽しんでいる私たちは、山頂ばかりを目指すのではなく、このような古道も歩いてみたいものです。私も例を5月連休に企画し、登録間近の大峰奥新宮を弥山から前鬼までたどってみました。1日の行程として手頃な距離であり、自然と景観の美しさにとても感激しました。山小屋(前坊・新宮小屋)も立派になり、道標も元備され道も階段が付けられるなど安全にも配慮してあります。世界文化遺産登録を機にこれらの古道を歩く例を計画しようと思っています。

新ハイ関西山 (代志) 村田 賢俊



地図の整理

生駒 豊峰

山に登るためには地図が必要である。日本百名山・三百名山・近畿百名山・関西百名山、さらに日本中の一等三角点を目標しているうちに、私の所有する地図の数は増えるばかり。そうになると、当然整理も必要になる。

京都出身の生物学者で、登山家の今西錦司博士の随筆を読んでいると、「地図の整理法」なる一文が目についた。

それによると、「最初は山行の度に所持した地図をまとめて収納していたが、後にその中の一枚を探すのに不便となり、地図屋式整理法にした」とある。

地図屋式整理法とは、その地図の所属する20万分の1地勢図(以下20万図)の名称と、その何

号かの番号順に整理する方法である。

5万分の1地形図(以下5万図)や2万5千分の1地形図(以下2万5千図)も、その左肩に所属する20万図の名称と番号が記載されている。

私の場合は、事業をしていたときに使っていた収納ケースが地図と同じ大きさで、地図を折らずに収納できたから、自動的に博士の言う地図屋式になっていた。

国土地理院発行の地図は、地図一覽圖(地図屋で無料でもらえる)があり、私は、この中の20万図の区画に上部の枠内から番号を記入し、この番号を5万図と2万5千図の右上に赤字で記入した。後は地図の左上の番号順に揃えてある。

さらに一覽圖の20万図・5万図・2万5千図の地図名の所に、所有している分だけ蛍光ペンで

色付けしている。これで所有している地図が一目でわかる。20万図1枚は、5万図で16枚、2万5千図はその四倍で64枚になる。

現在、20万図は130枚、5万図は1291枚、2万5千図は4338枚が発行されている。その他に1万分の1地形図(以下1万図)が297枚(平成14年10月1日現在)発行されているが、1万図は都市周辺が多く、まだまだ増加するだろう。

私が所有している地図を数えてみると、20万図が104枚、5万図が832枚、2万5千図が792枚、1万図が3枚あった。

もっとも同じ地図でも、新しい発行のものを買い足したり、間違えて重複したり、また現地の市町村や営林署でもらったもの、また私が20代に使用していた古地図も多数あり、収納ケース四段重ねで、二〇の引き出し

図が必要になる。

私が山歩きを始めた頃は、5万図が主体で、大方の山はそれと間に合っていた。しかし、道のないやぶ山など5万図だけでは登れない場合は、2万5千図を買い足して使用した。

現在ケースの地図の大半は、既に役目を果たして二度と見ることは少ない。また新しい地図が次々と発行されると、手持ちの地図は古くなるばかりである。

今や地図はCD化され、インターネットでは無料で取り出すことも可能で、記録もCDで保管できる。

もう地図の整理等は、古い方法だと実感はしている。



随想

(山の)

にいっぱいになっていく。ケースの高さは私の背丈程もある。引き出しの上段から、20万図と一覽圖。二段目から5万図を20万図の番号順に入れる。次いで2万5千図も同じ方法で収納している。地図の収集が目的ではないので、同じ20万図の中でも枚数の多いものや少ないものがある。

その他にもエアリアマップ(圖文社)などの地図帳が新旧合わせて100冊余り。現地で求めた台湾・韓国の一等三角点関係の地図が数100枚あるが、これらは収納し切れなくてダンボール箱に保管している。

さて、希望する山の地図を出すには、大体の位置がわかっているときはまず20万図上で探す。国土地理院から発行された20万図集(絶版)なら、一枚一枚地図を引き出す必要がなく便利である。この図集には、5万図の

名称が記載されていて、扉座に一覽表から地図の所在がわかる。

全く方面もわからないときは、『コンナイス日本山名辞典』(三省堂)で山名を探すと、20万図名と5万図名・番号が記載されている。

地図は経緯度順に表示しているだけに過ぎないから、目的の山が中央にくるとは限らない。そうすると、隣接する左右上下、さらに登路によってはその先まが必要なものもある。その場合、この方法では隣接する20万図に跨る地図が必要になり、全く違う引き出しを探さねばならず、少し面倒ではある。

有名な山々は、エアリアマップ等の登山地図を利用すると一枚にまとめられていて便利だが、日本全国をカバーしているわけではなく、縮尺も2万5千図には劣るので、コースの記載のない山を目指すときは詳しい地形



随想 山(のこころ)

低山・里山歩きの薦め

山田 明男

昨年の暮れに歩いた三河本宮山、元旦に歩いた伊賀霊山、1月3日の猿投山は、いずれも1等三角点の山で、標高は800m以下。これらの山には一般登山道のほかにも多くの袖道があり、無数のコースどりが可能である。これが里山の特徴で、昔から仕事道が発達してきて近年まで使われた証拠でもある。

猿投山へは2年程前から行っていて、いろいろなルート歩いてみたが、まだ全てのルートの半分にも満たないだろう。2月1日に15人の方を案内して猿投山の裏(雲興寺側)コースをひと歩きし、同じ所を通らずに15、程を歩いた。

このくらいの高さの山には、一般ルートのほかに袖道を併せて歩く楽しみと、地図を読む楽しさがある。ここを上げればそこに出られるはずと読んで歩けば、見知った場所に出る。これが地図読みの醍醐味である。しかしながら、初めてくだる尾根は、地図を読んで目的とした場所に着けるかと思えば、全く意に反した方向に行ってしまうこともあり、尾根下りの難しさを痛感させられる。間違えた場所を再度歩いて確かめ、次回からは間違えないよう頭に入れていく。

来年、愛知万博が開かれる予定の「海上の森」(かいしよのもり)は猿投山の西にあり、猿投山と同じように多くの袖道が見られる。万博の会場は隣の愛知青少年公園に移り、「海上の森」はほとんど手が加わらずに残されることと、私たち袖

道愛好者としては嬉しいかぎりである。

2月7日、鈴鹿山塊最北の松尾寺山も歩いてみたが、お寺への参拝道が周辺の集落からそれぞれ多くお寺に通じていた。鈴鹿山地では関町周辺の山々が標高500mに満たないものの、歩くにはとてもおもしろい所で、私の例登山行「鈴鹿百山1」で歩いた山がこれに当た

る。来年にはまた、この地域の山を歩きたいと思っているが、もっと多くの人が地図を正確に読めるようになって、地図とコンパスを持って里山をもっと自由に楽しんで歩いてほしいと願う。

もう一つの白倉岳登山コース

荒谷山

昭文社の「比良山系」地図上、安曇川の西側に白倉岳登山コースが赤色の実線で記載されている。荒谷山は白倉兩岳の南南東、直線距離にして約1・7、離れ、一般的な登山コース上には位置していない。

しかしながら、村井からの白倉岳登山コースでは、白倉兩岳の南方約250mで左へ直角に曲がり、朽木橋生に下山することになってくるが、その直角点から南方に尾根が続いている。「比良山系」地図上、直角点↓838m↓荒谷山↓573m↓久多市場線までのゆるやかなS字を描く尾根筋である。そこで、今回はちょっと欲張って、久

小山 誠次

京都北山

多市場線から北向きに尾根筋をたどり、荒谷山を経由し、白倉岳登山コースを経て村井に下山する計画とした。

9月7日の滋賀県の降水確率は南北ともに10%、20%だった。7時45分出町柳発朽木村行き京都バスに乗り、8時55分奥川梅ノ木に到着した。バスを降り、安曇川に架かる前川橋を渡り、久多市場線を500m西方に歩いてもう一つの橋である坂尻橋を渡った後、さらに300m歩き、ようやく取付口に到着した。

この山域は梅ノ木あたりから眺めていると、裾野は安曇川に面して切り立った崖状で、また針畑川に面しても同様で、

久多市場線からの取付口



それ故に久多市場線に対しては落石防止用金網が一面に張り巡らされている。そこで、いったいどこから取り付いたらいいのか思案し、以前実地にて調べをして、坂尻橋から300m西方に金網の途切れている箇所を見出していた。

準備を整えて9時12分山城に踏み入った。すぐに踏み跡のある急坂が続く。途中、木に赤ペンキのマーキングを見つけ



樹林の空間から白倉岳を望む

前回は歩いた北西尾根の全容がよく眺望された。
さて、荒谷山から白倉岳はちょうど北に当たるはずであるが、視界は全くきかない。また、荒谷山はゆるやかなS字状尾根のちょうど中間に当たり、まだ道中半ばなのであまり長居はできない。そこで、先を急ぐこととした。
荒谷山を出発してすぐにシクナゲの洞生地に突入した。やせ尾根の中央部分をシクナゲが占領しているため、少し低い所を捲いて迂回した。やはりシクナゲは踏貫するだけで、踏み込みたくな

い樹木である。
荒谷山付近以後はあまり高低差のない尾根筋を歩くことになるが、前半よりもやせ尾根の傾向が強くなり、尾根を右に外れたり左に外れたりしながら進んだ。と同時に、また造林公社の杉の植林が尾根の左半分を占めるようにもなった。
荒谷山出発後10分程して、遠景を遮断していた樹林に大きな空間があった。そこから白倉岳の乾然たる姿が眺望できる。なかなかの絶景である。白倉岳を南方向より見ることができるとは、この地点だけではないだろうか。というのは、白倉岳登山コースで朽木橋生に下山する途中では、相当にくだつてからでないと白倉岳を遠望できないからである。このあたりで標高800m位である。従ってほぼ水平位置からの眺望で、直線距離にして約2・3km離れていることになる。
そのまま道なりに尾根筋をたどって歩いてふと気づくと、垣間見える白倉南岳に続く南側の山々が右手に見え、かつ進行方向は磁石を見ると西を指している。立ち止まり一考した後、元来た道を1分間程引き返した。
地図上のピーク838mでは、主尾根



だが、だいぶ古そうである。とりあえずの目標は地図上の573m地点である。要は可及的に高所を目指し、分岐点を選択して登行するだけである。右手にはホームグラウンドの比良山系を垣間見ることが出来る。即ち、本コースでは終始武奈ヶ岳や約瓶岳を目的に当たりにすることに
最初は踏み跡程度だった山道も、途中では「道」と表現しうるほどにしっかりとしたものになり、時々先程の赤いペンキにも出会う。しかし、いつしかまた不明瞭となる。
本コースは基本的に尾根筋をたどるので、木々によって武奈ヶ岳が隠蔽されていても、露岩地帯でも溝状の道でも、普通に注意していれば尾根筋を外れること

はないはずである。先にゆるやかなS字状の尾根と表現した通り、出発地点から歩いて尾根筋のつたと思う頃、全体に左向きにゆるやかなカーブを意識することができた。
ようやく標高500mを超えたあたりで、木々の擦れる音を右方遠くに聞いたので、少し注視していると、木々の合間から樹上に一匹の猿を辛うじて見つけることができた。特に近づいて来ることもないので、こちらも無関心を装ってそのまま登行を続けた。
このあたりからは尾根が広くなり、自然林はブナ・ミズナラの広葉樹を主とし、時にマツも混合している疎林帯だ。本来道のない所を歩くので、時には足に枝が絡んだり、行手の枯木を取り除いたり、目前の枝を避けたり、太い倒木を乗り越えたりしながら進んで行く。すると偶然、やや坂になった湿地に可愛らしいクマベニタケを見つけ、カメラに収めた。こ

このあたりからは尾根が広くなり、自然林はブナ・ミズナラの広葉樹を主とし、時にマツも混合している疎林帯だ。本来道のない所を歩くので、時には足に枝が絡んだり、行手の枯木を取り除いたり、目前の枝を避けたり、太い倒木を乗り越えたりしながら進んで行く。すると偶然、やや坂になった湿地に可愛らしいクマベニタケを見つけ、カメラに収めた。こ

私達におまかせ下さい。お待ちしております！



●詳しくはホームページを見て下さいね。

登山用品専門店

とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.yoshimisports.co.jp/>

JR天王寺駅北出口
より東へ強歩5分

のような出合いが、緊張しながら初めての山道に踏み込んだときに、一瞬の安らぎを与えてくれる。
ようやくあまり明瞭な形状ではないが、ピーク573mと思われる地点に達した。出発してから1時間余りである。ここまでおおむね高度250mを稼いだことになる。標高だけでいえば、荒谷山までの半分である。
カヤの大木を見ながら、15分程歩くと、造林公社037の標識があり、尾根の左半分は杉の植林地帯となった。進路はその境界線をとるが、ユズリハの群落になった。登路は、時に自然林側のほうが歩きやすかったり植林側のほうが歩きやすかったりするが、いつの間にか、周囲は再び自然林ばかりになっていった。ミズナラの大木も目にするのができたし、足許のシロオニタケやハナビラタケが目を楽しませてくれた。
そして、出発後2時間程してようやく荒谷山(812・1m)山頂に達した。山頂はちょっとした広場で、東方への展望が開けているだけで、山頂そのものは人工構造物が散乱し、お世辞にもきれいな場所とは言いがたい。東方には約瓶岳と

気軽に楽しむ

スイスでピクニック!

散策しながら **スイスの大自然を満喫!**

ファミリーでもご参加いただけるやさしいルートづくりで
スイスアルプスの魅力をたっぷりお楽しみいただけます

ハイキングほど歩きたくないけどスイスの大自然の中でのんびりと遊びたいというお客様のご要望にお応えした商品です!
「みらっと」スイスに行ってみませんか?

コーススケジュール	
1日目	関空→3-0yP 経由→チューリス橋 チューリス泊
2日目	バレンベルグ野外博物館で スイスの文化・建築物を見学 昼はバーベキュー グリゲ 初泊
3日目	終日：ピクニック (山岳ガイドと過ごす1日) グリゲ 初泊
4日目	終日：自由行動 3つの「大自然満喫アツ」 をご用意しております (料金別添) グリゲ 初泊
5日目	氷河特急に乗りマッターホルンの街 71駅泊
6日目	終日：自由行動 3つの「大自然満喫アツ」 をご用意しております (料金別添) 71駅泊
7日目	71駅遊覧をお楽しみ下さい 初泊
8日目	バスにてチューリスへ 空路、3-0yP 内乗り継ぎ 帰国の途へ 機中泊
9日目	関空着

旅行代金【2名1室利用/お一人様】 298,000円～458,000円
 【出発日】 6月3日(木)～ 9月23日(木)まで毎週木曜発
 【最少催行人員】 15名 【添乗員】 同行
 ハイキングに精通した係員が、ご希望の場所にお伺いしご相談に応じます。
 ご旅行のことならお気軽にお申し付けくださいませ!

資料請求は下記まで

郵船トラベル株式会社 **711-ダイヤル:0120-819-215**

■大阪 〒541-0053 大阪市中央区本町3-2-6 711-本町ビル7階
 TEL:06-6251-9143 FAX:06-6251-9190 e-mail:kog@ytk.co.jp

■神戸 〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-2-18 郵船航空福本ビル
 TEL:078-251-7611 FAX:078-230-6488 e-mail:kkc@ytk.co.jp
 ホームページ: http://www.ytk.co.jp

は西方に向かっていている。そして、支尾根が北方に向かうことになる。もちろん、ここは北に向かうべきであるが、ピーク838mからは北方にいったんくぐって行かなければならず、早目に気づいて幸いであった。今までたどって来た尾根筋と連続している山容は西に向かっている。本日一番の誤りやすい箇所であった。

後は白倉南岳南方の直角点を目指して進むのであるが、もう迷うことはない。進路途上で大きな杉に出会ったが、ちょうど村井からの白倉岳登山コース途中で出会う大杉と同じ程度の威厳を呈している。そして、12時50分ようやく直角点に到達した。やれやれである。

筆者が到着する1分程前に登山者が朽木橋生にくだつて行ったようである。熊除けの鈴の音が周囲に響いていた。

さて、空腹を覚えてきたので、白倉南岳を経て白倉中岳山頂の有名な独特の形状をした大杉の前で、13時17分運まきながらの昼食にした。食事中、大きなヤマヒナガエルのそのそとあいつつに米てくれた。お世辞にも愛嬌のある顔とはいえないが、一応カメラに収めた。ここで、

約30分間の休憩をとった。
 昼食休憩後は白倉岳を目指し、10分後に到着した。やはり「飯が減っては軍はできぬ」を実感した。白倉岳山頂にはだれもいなかった。比良山系に目を遣り、ここで初めて武奈ヶ岳の全容を木々に邪魔されることなく、明々白々と眺望できた。午前中は武奈ヶ岳の山頂にはガスがかかっていたが、いつの間にかすっかりと消散している。

さて、いよいよ後は下行が主となるが、急坂の登行も新しく設置されたロープを把持しながら滑らないように注意深く進み、間もなく小川への分岐点に達した。これから鳥帽子岳の最後の登行を残すだけとなった。鳥帽子岳からはゆるやかな山道をくだり、大杉でちょっと休憩して大木に敬意を表した。下行途中で山腹をトラバースする道だけが幅狭くなっていることに気づいたのは、本日予定通りの行程に満足し、楽しい下山路であった。松本地蔵に礼拝し、村井バス停にくだつたが、これから後の道のほうが狭く、石がゴロゴロとして、少々歩きにくかった。15時58分無事に村井バス停に到着した。里のおばさんに自動販売機の場所を尋ね

て、スポーツ飲料1杯を飲みほした。16時24分安曇川駅行きの江若バスに乗り、17時14分のJR新快速で京都に戻った。村井からの白倉岳登山コースでは、白倉南岳の南方約250mで左に直角に折れることは既述したが、下山コースとは別に、本来の白倉岳連峰の山塊はむしろ先の直角点より南方にさらに続き、ピーク838mまで連続していると捉えたほうが、白倉岳を理解しうるうえでよいだろう。筆者のわずかな観察でも、植生上は連続しているからである。

本日のもう一つの白倉岳登山コースは、健脚向きではあっても、野趣に富んでいるといえよう。(平成15年9月7日歩)

▲コースタイム▼
 梅ノ木バス停(15分) 取付口(1時間6分) ピーク573m(14分) 森林公社037の標識(47分) 栗谷山(41分) ピーク838m(9分) 大杉(24分) 直角点(10分) 白倉岳(16分) 小川への分岐点(2分) 鳥帽子岳(15分) 大杉(45分) 松本地蔵(25分) 村井バス停

△地図▽昭文社「比良山系」

新ハイ例会・自然観察山行

大日三山と室堂から弥陀ヶ原

鷲見守康

北アルプス

ここ数年、すっかりと梅雨が明けたという記憶がない。この年も結局梅雨明けはお預けとなり、7月18日、雨を覚悟の気落ちした状態で岐阜を出発することになった。

八郎坂から大日平

観光バスで立山駅に到着したのは、早朝の4時頃。駐車場にバスを止め、そのまま仮眠した。5時頃から登山客が動き始め、駅付近が次第に賑わいできた。6時からの朝食を予約していた駅構内のレストラン「アルペン」も店を開き、5時半に様子を伺うと「もう準備できました」との返事。朝食は決定食であった。

朝食後、再びバスに乗り、立山ドライブウェイを走った。雲は厚く、ガスも立ち込め、断続的に雨も降り。雨が本降りなら、直接「称名滝」までバスで行き、歩く距離を短縮するつもりでいたが、どうも小雨模様だ。予定通り弘法バス停で降りた。

弥陀ヶ原から八郎坂をくだり、称名滝へと向かう。八郎坂はけっこうな急坂だが、深山の植物が豊かで美しい。弥陀ヶ原よりいい。弥陀ヶ原とか雲の平とか五色ヶ原とか、その呼び名からハイカーの間では「花園」のように想像されて人気の高い台地も、実のところ植相としてはそれほどのもではない。種類からい

天狗平から望む大日三山



ば、こうした谷とか崖地とかのほうがいい。ちなみに、ヒカリゴケは北アルプス

この八郎坂で私は出たい植物があった。群類のヒカリゴケだ。富山県の天然記念物になっているらしいが、岩の隙間を覗いても見当たらなかった。やっぱり、時間をかけてそのつもりにならないとなかなか見つかるのは難しいのかもしれない。ちなみに、ヒカリゴケは北アルプス

境の中尾側のコースが見事である。花を観察しながら歩いていくと、滝音が次第に大きくなり、やがて称名滝が姿を現した。厚さ500メートルの溶岩台地である弥陀ヶ原をV字に削り込んだ称名川が一気に落下する称名滝は落差350メートル、日本一の落差をもつ滝である。滝の



大日三山・室堂・弥陀ヶ原付近略図

音が称名を唱えるように聞こえるということから名が付いたというこの滝は、称名川と常盤寺川とが合流する地点、立山駅のある千寿ヶ原で誕生し、百万年をかけて上流に後退してきたのだという。滝見台は工事中で、仮設の滝見台が用意されていた。滝の迫力はやはりすごい。仕大な自然の響みに圧倒されるばかりだ。

称名滝の右に見えるのは「ネハン滝」のようだ。500メートルの岩肌を流れ落ちるのだが、夏は水濁れて見られないというのだから、運がいいといえるべきか。称名滝へ降り切ると、今度は、溶岩台地の壁を登る。急登の上に雨脚が強くなってきた。まっすぐ登ると「牛ノ首」と呼ばれる稜線に出た。やせ尻根のような牛ノ首をさらに登ると、やがて大日平だった。平原のような大日平には木道がのびている。雨もやみ「ヤレヤレ」といったところである。

気分が落ち着くと腹が空いてきた。隊列の後からも昼食休憩をしたいとの声が上ががるが、集団が腰を下ろす適当な場所はない。お昼の休憩はしないんですか。「場所がないんです」とやりとりしているうちに、前方に大日平山荘

らしき山小屋が見えてきた。

正午過ぎ大日平山荘に到着。雨もやんでいるので、外のテーブルで昼食とする。立山の山小屋では珍しくはないが、大日平山荘にも風呂がある。1人5分の時間制限付きではあっても、やはり風呂に入るといい。部屋は、混雑を心配して個室扱いを依頼しておいた。けれど、宿泊客が少なく、就寝する頃には他の部屋の利用もかまわないとの案内があり、私は1人移動して六畳の部屋を独占した。

大日三山縦走

翌日も空にはどんよりと雲が垂れ込め、山はガスに隠れていた。気分は暗れないが、小屋の若い主人の見送りに励まされ

大日岳の南斜面を仰ぎながら沢筋を登って行く。高山の花が姿を見せ、やがて何とシラネアオイが咲いていた。雨に打たれてはいるが、大きなやわらかなグリーンに、気品ある淡紫色の大きな花をのせたシラネアオイは独特な存在感がある。同じく花の大きなキヌガサソウは東洋的だけれど、シラネアオイはどこか西

洋的な雰囲気を持ち、深山で初めて対面すると少し戸惑う。しかし、シラネアオイは世界中のどこにもない日本の特産種である。その群を抜く美しさとあわせ、わが国の山岳だけに生き続けてきた歴史を思うと感激もひとしおだ。

大日平山荘から3時間ほどで稜線に立ち、大日小屋に着いた。相変わらずガスが巻き、見晴らしはない。風もあり、じつとしてると寒いくらいだ。早速、大日岳を往復する。大日小屋を出発する頃から、時々ガスが切れ、北側の見晴らしがきくようになった。日差しも出て、天候回復への期待が生まれる。私の心づもりでは、奥大日岳で昼食とする予定であったが、中大日岳を越え、奥大日岳との中間地点あたり、多人数が腰を下ろすことのできる場所で昼食休憩とした。昼の時間には多少早かったものの、これがかえって幸いした。この後、天候は一気に悪化してしまったのである。

13時過ぎ、奥大日岳を通過。三角点のある山頂は、稜線から北に20分ほど離れているため、再びガスの巻いた稜線登山頂を見落としてしまったメンバーもいたようだ。そして、ここから緩御前小屋ま

での3時間、風雨にさらされる辛い縦走が始まった。

雨は次第に本降りとなっていった。当然、今まで傘をさしていただけのメンバーも上下の雨衣を着用した。ところが、私は雨衣がとんと苦手で最後まで傘だけで押し通したのだが、これが大失敗。風も強くて雨は横殴りに降りかかるばかりか、ハイマツなどの灌木の雨滴でズボンびしょ濡れ、やがて靴の中まで水が浸透し、ズグズの状態になってしまった。激しい雨のため、やがて登山道は川と化し、濁流が発生した。小さな濁流なので、身の危険を感じるほどではないものの、歩きにくいし辛い。

16時15分、緩御前小屋に到着。濡れ物の後始末に追われ、宿泊客がなかなか落ち着かず、雨の日の山小屋はこたえ返していた。

室堂へ

翌朝も雨であった。小南横木だがメンバーの体力などを考慮し、縦走を中断して室堂に降りることとした。朝から室堂に降りるとなれば、きょう一日は時間にかんりのゆとりがある。たまには山小屋

に朝遅くまで逗留するのでもいいではないかと、この時間を利用して、濡れた装備を乾かした。

8時過ぎ小屋を出発。長い雷鳥坂をくだり、雷鳥沢でティータイム。雨は上がり、青空ものぞくようになった。頭は雲に隠れたりするものの、立山三山が夏の太陽に映え、秀麗な山容を見せるようになった。

観光気分で雷鳥沢から地獄谷へ。その後、いったん荷を解こうと、きょうの宿泊予定のみくりが池温泉に立ち寄ったが、チェックインは早くても正午過ぎにしてほしいとのこと。では、ということでも全員の自然保護センターを見学した。自然保護センターには、以前から個人的に関心があったが、山歩きが目的だと、そうした時間は一切削り込んでしまうので、こんな日でなければ見学できない。

バスセンター内のレストランで昼食をとり、正午過ぎのみくりが池温泉にチェックイン。午後からは自由時間とした。男性陣の多くは、温泉に入浴後宴会。女性陣を中心に、花好きのメンバーはこの自由時間を利用して室堂自然観察会に参加した。

(平成15年7月18日〜22日歩く)

▲参考タイム▼

(18日 雨) (集合) JR岐阜駅 23・00 (バス)

(19日 曇り時々雨) (バス) 立山弘法

バス停 7・15 八郎坂 称名滝滝見台 9・

15 30 大日岳登山口 9・55 牛ノ首口・

10 大日平山荘 12・15 (泊)

(20日 曇りのち雨) 大日平山荘 6・30

大日小屋 9・15 30 大日岳 9・40

大日小屋 10・10 20 中大日岳 10・35

中間地点 11・15 (昼食) 11・45 奥大日

岳 13・10 緩御前小屋 16・15 (泊)

(21日 曇り時々雨) 緩御前小屋 8・05

雷鳥沢 9・20 地獄谷 室堂散策 (昼

食) 16・00 のみくりが池温泉 12・00 (泊)

(22日 晴れのち曇り) みくりが池温泉

6・40 地獄谷 7・40 天狗平 7・40

獅子ヶ鼻岩 8・45 一ノ谷 9・10 20

弥陀ヶ原ホテル 9・50 10・10 (バス)

グリーンハルーク 11・30 (入浴・昼

食) 13・00 (バス) 岐阜駅 17・20 (解散)

(地図) 昭文社「立山」

室堂から弥陀ヶ原

最終日、空は見事に晴れ上がった。6時40分、みくりが池温泉を出発。再び地獄谷にくだり、天狗平に向かう。一昨日歩いた大日連山がまぶしく輝いている。大気は清浄ですがすがしい。平坦な道が続き、適足のようになびりした気分が歩いた。

まもなく、緩岳の眺めがよい地点になり、ティータイム。何度眺めても、緩岳の風格に満ちた威容はすばらしい。だからこそ、時々、例登山行で緩岳を歩きたいという提案をいただくことがある。しかし、緩岳は危険のため例登山行では取り上げられないこととなっている。

天狗平から弥陀ヶ原に続く道は、ずっと平坦な高原コースで、それこそスニーカーでも歩けるような印象があるが、一ノ谷という、観光客が安易に入り込むとちょっと危ない険しい箇所もある。

獅子ヶ鼻岩から須場の急降下となった。身体が落ちていくような一気の下りである。くだりきると雪渓である。踏み跡は対岸に続いているが、雪は腐り、へたをすると踏み抜きかねないような感じである。

「すみません! ここを渡るのせうか」対岸に軽装の中年ペアが姿を見せ、声を上げた。「そうです!」と私が答えても躊躇している。山慣れではないないようだ。こちらから渡っていくと、「こんな険しいなんて、道を間違えたかと思いました。私たちでも行けるでしょう」と女性の方が不安そうに言う。「これだけの集団が歩いているのですから大丈夫ですよ。険しいのはこのあたりだけです」と応じると安心したようだった。

対岸に渡り、あちこち崩れかかった雪渓の端をへつるように歩きながら、私は一度雪を踏み抜いてしまった。なんとか雪が穴のまま体重を支えてくれたのでよかったが、雪が崩れたら、谷底へ転げ落ちただろう。全員の無事を確認し、一ノ谷の流れに泳みながら休憩した。

谷川から急斜面をトラバース気味に登ると、目の前に弥陀ヶ原が広がった。この立山で「カキ田」と呼ばれる湿原の池塘群が視界に入る。

遠くに、大日山荘の立つ大日平も見え、再び満足気分となり、談笑しながら、10時前、バスの待つ弥陀ヶ原ホテルに到着した。

行き当たりばったり

夏の北海道南部の山々へ

北海道

高島 伸浩

敦賀から新日本海フェリーの苫小牧行き航路が新設された8月(99年)、マイカーに布団を積んで山旅に出発した。

前年、幌尻岳へ行ったが増水で徒歩でできなかった。いわば雪辱登山である。

日本海の海岸美を堪能して2日目の夕刻苫小牧港に着岸。お客さんは北海道のあちこちへ散らばってゆく。

自分は東へ向けて走る。スーパーで明日の食料を調達し、食堂で夕食。テレビが一週間続いた雨の被害を伝えていた。いやな予感として振内宮林署へ問い合わせると「福平川の増水が激しく、林道もずたずたです」とのこと。あっちゃー、またあかなんだか！。林道歩きの節約に、

折りたたみ自転車まで用意してきたのにまた振られた。

いきなり計画の変更を余儀なくされる。機雲碑で日本一早い日の出を見てアホイ岳に登ろうか、いやそれでは後の山行がうまくいかないし、と日高北部の山から下がることにした。

日高町から日勝峠を越え清水町へ。新得町のトムラウシへの標識を懐かしく見る。「佐幌岳」(1060m)の登山口、サホロスキー場の一面で車道の段取り、近くのリゾートホテルの温泉で入浴。降るような満天の星を仰いで眠る。

北海道の朝は早い。4時半に目覚めた

らすでに白樺の葉を透かして強い日差しがある。佐幌岳へははっきりした登山道はなく、ゲレンデの斜面が続いているだけ。動物除けの電気柵に触れてドンッと感電し、いっぺんに目が覚めた。今度は慎重にくぐる。

ゲレンデだから樹木はなく、ウスキソウや黄スマレが一面に咲いている。始めに目にした動物の糞はべちゃーと広がっていたので熊のかなと思ったが、次から次と固まった馬糞があちちにもこっちはもある。斜面を利用して馬を放牧していたのである。親子三頭が「おはよう」と囁入者を見ていた。

山頂手前で少し樹林があり、それを抜けると360度の展望。岩や方位盤のある頂上であった。狩勝峠からの登山道が続いている。北に十勝岳・トムラウシがよく見える。

ここは日高山脈の北端、南に登り損なった幌尻岳も頭を出している。はるか西に芦別岳・夕張岳が他よりぐんと高い。これから登るオダッッシュ山や日高の山々を前にして朝食とする。下山はコースを変えてくだったがやはり馬糞だらけ。別名馬糞岳とでも呼べそうだ。上り1時間30

分、下り1時間。

「オダッッシュ山」(1098m)へ向かう。気温はすでに33度。新得町のJR根室線をくぐり山裾へ着く。ガイドブックのそれらしき所から登り出したが、上から車が下ってきて、ここは登山道ではないと言う。引き返して車を進めろ、ちよっと先に標識があった。人と会ってよかった。そのまま上がっていたらとんでもないミスをするところだった。

8時30分再スタート。シラビソ林のなかを沢に沿って歩く。9時30分、少々バテて寝転ぶと葉影がまぶしい。前峰直下は斜度がきつクロップ場だ。前峰からなららかな尾根を10分進むと頂上へ着いた。

この山頂も広く「佐幌岳」と同じような見晴らしだが、少し南下したので日高の山並がより近づいてくる。記念写真とビデオをパーンして、同じルートを下山する。上り2時間20分、下り1時間20分。

一週間降り続いた雨が上がり、本格的な暑さが容赦なく照りつける。清水町で昼となった。ラーメン店へ飛び込む。クーラーがあると思いきや、無い。冷たいビール

ルをごくごくこくとあつという間。コクがあり美味い味噌バターラーメンを汗たらたからで食べた。

午後の山として「ベケレベツ山」(1533m)へ向かう。日勝峠の除雪ステーションに車を置き、登り出す。きょうの山は三つともだれとも会わず1人っきりであった。ササ原をかき分けると樹林帯。森は静かだが常に右下に日勝峠へ走る車の騒音がする。だから熊はいないだろうと安心して歩けた。

それにしても暑い。同じようなゆるい斜度が直線的に続く。母の胎内と名付けられた巨石の間を通る。コバイケイソウやハクサンシヤクナゲが目立つ。退屈しのぎにササの新芽を数えながら引き抜いていく。1343mのコブに15時20分に着く。南に本峰が見えるが往復に2時間かかるのでタイムアップとする。東に帯広の街が広がっていた。

道の駅「樹海ロード日高」で夕食し、近くの沙流川温泉へ入浴し身体をのばす。

地図にて明日の山を「風不死岳」と「樽前山」と決め、支笏湖畔へ走る。「青年の家」前庭で車泊。今夜も満天の



佐幌岳から夕張岳・芦別岳方面を望む

星だ。

きのうは酷暑のなか三つも山に登り、少々疲れが残っている。支笏湖から樽前山・鬼不死岳の登山口の七合目までは車で上がれる。駐車場へ着くとすでに支笏湖を歩いている人がいて、北九州からワゴン車で来たと言う。北海道を旅しているとそんな人によく会う。自分も支笏湖をして5時40分「鬼不死岳」(1102m)へ向かう。樽前山の溶岩流の壁を登る。きょうも朝から暑い。樽前山を見上げながら樹陰で朝食。樽前山は標山だが鬼不死岳は樹木が繁っている。しかし、急登や巨岩の岩登り、ロープ場とけっこうきつい。見晴らしのさくピークに着いたが頂上ではなかった。頂上は目の前にあったが、行く手は欄がしてあり通行止。このピークからは支笏湖も鬼不死岳もその山頂に阻まれて見えない。はるか西に羊蹄山が、そしてすぐ南に紫煙たなびく樽前山。写真とビデオを済ませ、急な山道をくだる。

山腹から樽前山の外輪山屋根へ上がり徐々に火口に近づく。天気は快晴なれど足の筋肉が疲って快適とはいえない。真を撮り、下山する。上り2時間10分、下り1時間10分。下山後京極町へ向かう途中で大雨に遭う。午後はワイズ温泉でゆっくりする。明れていけば露天風呂から目の前に羊蹄山が迫っていることだろう。羊蹄山からの清冽な水が大泉に噴き出している「噴き出し公園」で、冷たいおいしい水をたっぷり飲み、岩内町へ向かう。雨上がりの夕陽に照らされた港で車泊。夏祭りの提灯がいっぱい揺れていた。

翌日は、天候が回復して早朝から爽やか。ニセコでまだ登っていない「チセヌプリ」(1135m)と「イワオヌプリ」(1116m)を目標。国道456号線にある登山口は標高830mで、標高差300m程。今は死火山だが、噴火した時の大きな溶岩がゴロゴロ。よじ登ったり岩むした岩から岩へ飛び移ったりで、見た目より楽ではない。山容はササとダケカンバが混交し、いかにもニセコらしい。「チセ」とはアイヌ語で「家」という意味。「ヌ」は「の」、「プリ」は「山」北側から見ると家形に見える山なのである。頂上は平坦な草地に標識と大きなケ

外輪山最高峰の東山(1024m)山頂は一等三角点と小さなケルンのみ、しかし下を見ると異様に盛り上がった噴火丘(ドーム)や、火口壁に囲まれた火口原が目飛び込んでくる。噴火丘や噴火孔への道が通っている。

快晴とはいっても千歳市の方は雲海に包まれていた。あの下は涼しいだろうな、目の前に広がる支笏湖の中に頭を突っ込み水をがぶがぶ飲みたいほど暑い。七合目の駐車場へ戻るともう満車。そして車の外も中も灼熱地獄。登山靴を脱いで一目散に下界へおろす。

午後の予定も決まらず道中「フォレスト276」でビールとあつあつの牛丼の昼食。以前泊まった「ホロホロ山荘」へ予約を入れる。前庭にて洗車。連日の山行で疲れた身体を休めようと昼寝をするも、ここにも冷房設備がない。およそ冷房の観念がないのであろう。身体を冷やそうとホテルのプールへ飛び込む。夕食はバイキング。家族連れで満員だ。毛ガニ・タラバガニ・越前ガニの三種盛り、チップや甘エビなどの刺身、庭で焼いている肉・ジャガイモ・トウモロコシ・シシャモ・ホタテ貝など何でもあり。大浴

ルンがあり、東にアンヌプリ、さらに奥に羊蹄山が朝焼けに照らされていた。西へ目を転じれば岩内町や日本海が望める。南側に大湯沼温泉の赤い屋根が見えた。上り1時間、下り40分。

イワオヌプリ(硫黄山)の登山口は五色温泉である。硫黄の川に新しい橋がかかって登りやすくなっていた。硫黄のにおいのする露岩の間を少し登ると灌木帯に入る。この山は多くの人が登るので道がはっきりしている。今回初めて他の登山客といっしょになった。灌木が切れると赤茶けた硫黄の露岩が現れ、大きなクレーターのような気溜まりが頂上に立った。10時半というのに気温は上がって35度。スタチコで記念写真。下山後新装なった五色温泉の露天風呂に入ったのはいうまでもない。上り1時間20分、下り45分。羊蹄山は前山の「イワオヌプリ」に隠れていた。ニセコにはまだ登っていない「昆布岳」「シヤクナゲ岳」「ニトヌプリ」があるのでいづれ登りたい。

午後は海水浴や、積丹半島のいくつかの温泉を楽しみ、「積丹岳」の登山口で漆黒の間、無音の中でぐっする眠る。

場は六種類の岩風呂で単純泉。おかげで筋肉も柔らかくなり身体の疲れもとれた。

翌日は雨模様。車をさらに西へ走らせる。羊蹄山の東南にある「尻別岳」(1107m)に登ろう。頂上から羊蹄山の美しい富士山形がすぐ近くに見える。喜茂別町の276号線から登山口へ車を進めるも、広い林道がぬかるんでぐちゃぐちゃ。スリッパして前へ進まない。条件がよければ四合目まで入れるとあるが、一合目まで入れない。靴が半分泥に埋まる。しかも天気は泣きべそ状態。熊も出てきそうな雰囲気。手を叩いたり高声を発したりしながら歩く。終点の四合目からは樹林帯へ入る。けっこう斜度がきつい。下草が濡れていて合羽を着るが、蒸し暑い。シャツが合羽の下でベトベトだ。ダケカンバの間から喜茂別の町が現れる。小さなジグザグを切りながら直線的に登る。九合目から右へ直角に曲がり最後の急登を頑張ると広いササ原の頂上だ。しかし雲のなかで羊蹄山はおろか何の景色も見えない。ただ山頂を極めたという達成感のみである。標識を入れて写

きょうは積丹半島にすくくと立つ「積丹岳」(1255m)。朝日が眩しく5時に目が覚める。周りは樹高の高いエゾマツの林であった。

深い森へどんどん入って行く。沢に沿って登り、フンベツの沢、テントの沢などを横切るが、深い樹林で見晴らしがない。ピリカ台から少し開けてきた。ハイマツの前方に山頂が覗いている。そこから徐々に景色が変化するが、ギラギラの太陽に樹陰に入るとホッとす。最後の直登に汗するとポツと頂上に出る。

狭い頂上は小さな岩がゴロゴロ。北側はスパッとえぐれていて身を乗り出すと危険だ。すぐ近くに糸別岳が手招きしているが道は塞がっていた。眺望はすばらしい。真っ青な空と日本海。振り返ると遠く羊蹄山やニセコ連山。上り2時間40分は一番長かった。下り1時間45分。

下山後、午後は再び海水浴。絶壁の岩場と昆布が揺らめく島武意海岸の水はどこまでも澄んでいた。

帰路は小樽からの船旅を楽しんだ。まだまだ見所いっぱい北の海道。またまた行きたい北海道である。

(平成11年8月歩く)

新ハイ関西77号

標高△△77mの山

- 劔御前 (2777m) 北アルプス
- 烏谷山 (1077m) 比良山地
- 銚子ヶ口 (1077m) 鈴鹿山地
- 滝谷山 (877m) 鈴鹿山地

劔御前

劔岳を描くという目的で、お盆休みの終盤に劔沢にテントを張った。第一の目的の山は別山だった。別山からの劔岳は、多くの写真から想像して劔岳展望の一等地ではないかと思っていたが、想像を上回る眺めの、すばらしい山頂だった。優美にして端正な岩と雪で構成された劔岳の姿は、山岳展望の決定版といっても差し支えない美しさだった。からも暗れ上がった透明な空のもと、青みがかかった岩肌が重なり合う間に、平緩谷や長次郎雪沢がまぶしく輝いていた。

別山だけでも十分満足いく感動があったが、日程に余裕があったので、翌日は劔御前に登った。今回の山行の付録という軽い気持ちだったが、少し角度を変えただけに、劔岳の西壁の荒々しい別の貌が見られ、意外な収穫があった。雪は岩に隠れて岩だけの構成だったが、前日の端正な姿とは打って変わり、原始的で豪快な姿が印象深かった。

劔御前そのものは、草原やお花畑があった、変化に富んでいた。そして何よりもよかったことは、人が少なくて劔岳の見事な眺めをひとり占めしているような至福感に浸れたことだった。
(平成11年8月18日・19日歩く)



鳥谷山北西尾根より堂満岳を望む



銚子ヶ口

鈴鹿山地のほぼ中央の位置にある銚子ヶ口には四度登っている。そのうち、岩井さんと山頂の西南方向にある水舟ノ池まで往復した5月の山行と、高橋さんと堀向山まで2日間かけて縦走した12月の山行が特に印象深い。

5月の時は登山道のそこかしこにイワカガミが咲き、池の端にはハルリンドウが咲き乱れていて、麗しい春の風情が満喫できた山行だった。

一方、12月の山行は山頂を越えたあたりより広がる草原から行く方向を眺めた時の、霧水でおおい尽くされた白くて繊細な自然林の山並の美しさに感動した。御在所岳から南岳にかけての深い山々の連なりは、鈴鹿山地の中で特にすばらしい展望の一つではないだろうか。

- △コースタイム (平成7年5月5日歩く)
- △コースタイム (平成9年12月13日・14日歩く)
- 紅葉尾 (2時間30分) 銚子ヶ口 (2時間30分) 水舟ノ池往復 (2時間) 紅葉尾 (5月の山行)
- △地図▽昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

鳥谷山

鳥谷山は北比良と南比良とを結ぶ主線上の小さな高まりだが、縦走路からほんの少し外れているので、立ち寄る人は少ない。人の少なさに魅力を感じて、1人用テントが一張り張れる程の狭い頂きで一夜を明かしたり、時高さんと北西側の尾根を往復して、だれにも出会わないコースどりを楽しんだりした。山頂に着いて初めて琵琶湖を一望するというのも、比良の山らしからぬ新鮮な味があった。北西尾根は自然林が大半で、樹間より眺める堂満岳の姿もめずらしく、植林が全く視界に入らない眺めは格別の美しさがあった。
(平成11年4月29日歩く)

- △コースタイム
- 坊村 (3時間) 鳥谷山 (2時間) 坊村
- △地図▽昭文社「比良山系」

滝谷山

鈴鹿山地の最南峰の御池岳の西側をゆったりと流れる御池川は、ひと昔前までは明るい谷歩きの良い所だったと聞くが、私を知る頃は林道が出来ていて、昔日の面影を想像することすらむずかしい程の姿となっている。その源流の時、ミノガ峠には簡単に車で入れるようになって、滝谷山というあまり知られていない山に、半日行程の手軽なコースとして、登ることができるようになった。

会の5人のメンバーで、夏が始まる暑い頃に出かけた。峠からすぐに広葉樹林のなかに入り、夏といえども緑陰が続くあんが涼しい細径が通じていた。樹間より御池岳が高く望まれたり、名前がわからないままの白い花が咲いていたいたりして、静かな山行が楽しめた。

- △コースタイム (平成12年7月2日歩く)
- △コースタイム
- ミノガ峠 (2時間) 滝谷山 (1時間30分) ミノガ峠
- △地図▽昭文社「雲仙・伊吹・藤原」

濁河温泉から

御嶽山

小林 稔

曾木

9月初旬、御嶽に行った。これが四回目の御嶽山行であるが、過去三回はすべて岐阜県御嶽温泉から剣ヶ峰までの往復コースだった。過去二回御嶽山行に同行してくれたO君が、腰痛で山には同行できないが温泉には行こうと言ってくれたに甘えて、濁河温泉を出発し、長野県側にくだるコースを歩いてみようと思っ

た。2日、13時頃、彦根からO君の車で濁河温泉に向かう。彦根インターから名神高速に入り、小牧インターで降りて、中山七里を通過って濁河温泉の覚明荘に16時すぎ着いた。覚明荘は濁河温泉の入口にある。最初

に濁河温泉に行った時、前もって町役場に「濁河温泉の宿舎で一番安いのはどこですか」と問い合わせた宿である。1泊2食付きで8000円。しかも、濁河温泉の宿舎にはすべて露天風呂がある。過去三回の山行時にも一回はここに泊まった。

覚明荘には露天風呂しかない。車の運転で疲れ気味のO君をせっついて露天風呂につかった。露天風呂から見る夕焼けが美しかった。

宿泊客は、われわれ2人ともう1人、この人は御嶽からくたって来たらしい男の人で、3人のみ。鴨なべ(もちろん鴨の切り身がいくつあるか数えられるようなもの

えてくれた。前もって何の情報も得ていなかったので主人の言葉を信じるしかない。O君とも話をし、明日は黒沢口の中の湯に下山することに決めた。夕食をすますとすぐ寝た。

3日、4時に起床した。もちろんあたりは真っ暗である。庭下の明りをたよりに着替えをし、4時40分覚明荘を後にした。しばらくは、ヘッドランプをたよりに

歩く。開夜に輝く星の数が増えてきた。5時近くになれば、あたりは徐々に明るくなっていく。飛騨頂上に向かう森のなかの道を、山上からの朝日に照らされて

歩いていくと、生命力みなぎる神秘的な感動を覚えた。太陽が昇ることにこれほどの感動を覚えたのは初めてだった。7時、八合目で休憩する。ここからしばらく登ると森林限界を超える。左手に乗鞍岳の優美な姿が見え出す。その右手には笠ヶ岳もはっきりと見えた。

飛騨頂上近くまで来る



摩利支天山と北に見える乗鞍岳



だったが)をつつきながらビール一本と日本酒一合を2人で飲む。前もって明日の昼食に握り飯をつくってくれるよう宿に頼んでおいたので、宿の主人(20代くらいの男の人)が私に話しかけてきた。問題は下山道である。私が「開田にくだる道は歩くつもりだ」と言うと、主人は、開田から山頂への道は歩く人がほとんどいないので、廃道同然になっていると教

と、ゴム長靴をはいた若い男性が山からおりて来た。この人が、きょう山で会った最初の人だった。ゴム長をはいて山を歩く人だから、相当の健脚だろうと思いがあいつを交わした。後で思うと、飛騨頂上小屋の人ではなかったらうか。8時、飛騨頂上に着いた。9月とはい

え日差しが強く、頂上小屋近くの石碑の陰で食事をとった。はるか西の雲海の向こうに白山が望まれた。振り返ると、三ノ池が朝日に照らされてコバルトブルーの水をさらさらと輝かせていた。飛騨頂上小屋は以前来た時は改修中だったが、すでに新築成っていた。とても美しいトイレが併設されており、利用者がトイレの維持・管理のための協力金を入

れる木箱も置かれていた。小屋の入口は開いており、だれもいないのかと思っ

船の姿が見えてきた。その奥に山頂が赤く輝く山が見えた。同定することはできなかったが、黒部川源流部の山ではないかと思った。

坂を登り切った所に小さな社がある。ここが賽の河原にくだる道と摩利支天山との分岐点である。摩利支天山に向かうハイマツにおおわれた道を行く。すると道の向こうに雷鳥が現れた。雷鳥は私の存在にまったく気づいていないのか、私の前をにわとり同然の歩き方でゆっくりに歩いていく。しばらく見ていたら、ハイマツの下に姿をかくしてしまった。

9時15分、摩利支天山に着いた。山頂近くまで来て、急に坂が下りになったので変に思っただけ返った。山頂を示す標識が目に入った。この日のような好天の日であれば標識を見逃さずに済むだろうが、ガスがかかっていたら見逃して変な所に迷い込む危険があると思った。

山頂は、1人坐るのがやっとという広さしかない。剣ヶ峰では人が多くてゆっくりにできないと思い、ここでしばらく眺望を楽しむことにした。

30分ほど休憩した後も来た道を引き返し、賽の河原を越えて10時20分に二ノ

池小屋の前に着いた。小屋は9月ですでに閉まっていた。二ノ池のそばに行き、水に手を浸し、顔をゆっくりに洗った。

御嶽のよさは、この二ノ池と三ノ池の美しさに尽きると私は思う。この水の色を見てみると、心まで洗われる気持ちになる。二ノ池や三ノ池で折りをささげている人を見ると、なるほどと思える。御嶽が聖地となった理由のひとつが、これらの池なのだと思ふ個人的に思っている。

二ノ池から剣ヶ峰に登る道を歩き出すと、白装束の人が1人、おぼつかない足取りでくたてて来た。その人は、少し恥ずかしそうな様子で二ノ池に向かっていた。また少し登ると、今度は白装束の夫婦連れがおどて来た。9月になると白装束の人めっきり少なくなる。

11時、剣ヶ峰に立った。どれだけの人がいるのかと思っていたが、5、6人ほどしかいなかった。田の原方面にある噴火口を見ると、煙がかすかに昇っていた。握り飯をひとつ食べ、さあくだらうかと思った時、携帯電話を操作している若い女性を見て、O君に電話をかけることを思い立った。見事につながり、14時すぎに中の湯に着けそうなことを伝えた。O

はロープウェイで来たのでわかりません」との返事だった。なるほど、この道もロープウェイを利用すれば田の原から登るのとは変わらないのだと思った。

石室山荘からしばらく下った所に、休憩している1人の男の人がいた。その人は、「ロープウェイ駅に向かうバスが9時にしかなかったため、この時間でこんな所までしか来られなかった」とこぼ



二ノ池から剣ヶ峰

した。「きのうは木曾駒ヶ岳に登り、木曾駒から見えた御嶽のすばらしさに圧倒されて、この山に登る気になった。秩父からなので簡単には来れない、話の種づくりのつもりで登っている」とのことだった。この先の山小屋は空いているかとも尋ねられたので、覚明堂と剣ヶ峰のそばの小屋が空いていると教えた。

男の人は、3日の水が入っているというザックを担ぎ上げると急坂を登って行った。私はその時初めて、その先に剣ヶ峰の鋭峰がそびえていることに気がついた。なるほど、白装束の人たちは、この鋭峰を指して「六根清浄」と唱えつつ山を登っているのかと思った。

13時、女人堂に着いた。この小屋といい、覚明堂・石室山荘といい、山小屋の大きさに圧倒される。女人堂近くには石碑・石仏が累累とある。

このままではとても14時には中の湯に着けないと思い、またO君に携帯で連絡をとった。

女人堂からしばらくくだると樹林帯となった。あえぎあえぎ登ってくる2人の中年の女性に出会った。次に、道のそばで休憩をとっていると、長い杖を持った

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!

- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

君は、御嶽山を下から見ると雲の中になっているので、雨でも降っていないかと思わねてくれた。「いやいや、確かに山のまわりはガスが立ち込めたけれど、空からは太陽が照って暑くてたまらないよ」と、その時は答えたが、しばらくするとあっという間に日は陰り、雲行きが怪しくなってきた。

11時30分に剣ヶ峰を出発する。覚明堂、石室山荘の前をくだって行った。中の湯にくだる道を歩くのは初めてだったので、登って来た夫婦連れに、「この道は中の湯に行きますか」と尋ねると、「私たちが

若い男女一組が走るようにしてくだっていた。その後も何人かに追い抜かれてしまった。少し疲れが出ているのかなと思いつつ、とにかく自分のペースを守るようにと気をつけた。

くだっていったほとんどの人は、ロープウェイの駅に向かった。14時45分、中の湯に着いた。ここにも大きな小屋があった。

15時、O君は私を迎えに来てくれた。その後、三岳村が経営する木曾温泉に向かい、その宿舎で一泊した。

3日目は、馬籠をぶらついた後、帰路に着いた。(平成14年9月3日歩く)

- ▲参事タイムV
- 鴻河温泉 覚明在 4・40ー1八合目7・00ー飛騨頂上8・00ー摩利支天山9・15ー二ノ池小屋10・20ー剣ヶ峰11・00ー女人堂前13・00ー中の湯14・45
- △地図▽昭文社「御嶽山」(寄泊)
- 鴻河温泉「覚明在」
☎0576(62) 3099
- 木曾温泉「ホテル木曾温泉」
☎0264(46) 2700

伊吹山三合目だけの花巡り

湖北

田中 明

昨夏の北アルプス山行は、計画日がことごとく雨や台風の影響をまともに受けたため、三つも予定変更を余儀なくされたり、中止となった。

そんな年ではあったが、シーズン初めの7月は雨天ながら、新ハイ山行の立山を十分楽しんだ。もう一回は花のラストシーズンの8月後半半となってしまったが、かけ込みで白馬岳から朝日岳への花巡りの縦走ができた。しかしながら、これではやはり北アルプスの花巡りは物足りない。

夏のハイシーズンに計画倒れになったストレスを解消する方法はないものかと思案していたところ、伊吹山三合目の山

野草観察会の催しが目に飛び込んできた。

これだ、伊吹の花とじっくり心遊ばせるひとときはこの時しかない、それにこの観察会に参加することで〇〇ホテルさんにも感謝の意が表せるだろうと、躊躇することなく予約した。

かねてよりこのホテルさんには登山時にトイレを借りたり、自販機での飲み物の調達や前のベンチを利用してもらい、何かにつけてお世話になっていた。

真夏とはいえ相変わらず気温は上がり、空模様もパッとしないどころか当日は雨の予報が変わってしまった。新ハイとは違い雨中であっても決行である。

生だが、花のそばにいくとマイク片手にしっかりと花の妖精たちを披露してくださる。

さあ始まった。期待感から興奮しているわが身がおかしいくらいだ。ノカンゾウ・タムラソウ・クルマバナに続いて、おもしろい花卉のハマウツボ科オオナンバンギセルを見て「昔の大人がくわえていたたばこのキセルに似ていますよね、でもきょうの皆さんはキセルなんて見たことないほど若い人ばかりですね」なんて、ユーモアたっぷりにお世辞も忘れない花解説が、降りしきる強い雨の中でもどんどん続いていくのだ。

そのうち、私も初見のシソ科キセウタの前に来ると小躍りして耳をすませた。10時以下の狭卵形の葉には毛があり、葉脈に淡紅紫色の2〜3つの腎形花を数個つけ、花冠の上に白毛が多い様子を臨に見立ててキセウタと言われているとの、詳細な説明が聞きたれた。

みんなわれ先にかメラを向けるが、降りしきる雨の中だけに足元までどっぴり濡れながらの、まるでびしょびしょ撮影会の様子である。

「先の台風10号により、ここ伊吹山も

オオナンバンギセル



もっともこれだけ何回も山行の中止が続くと、雨をいとわず参加することができた。

私は、伊吹山へはゴンドラを利用せず、いつも三宮神社から歩き始めることにしているが、今回はゴンドラ・山野草弁当・薬草風呂がセットのため、いつもの登山装備は必要なく、カッパとカメラだけの軽装で身軽なもので。

頂上のみならず、三合目も大きなお花の被害を受けました」と、先生は手入れに一方ならぬお世話をされてきただけに残念でならないと泣くような顔で話される。

「花の命のはかなさを知り、われわれ人間が植物を感じみ合い、自然環境を守る心を強く持たないで次世代に引き継ぐことはできない。一つ一つできることから皆さん自身も考えていた方がいい」とやさしく話され、花を愛するその人、そのものであることがはつきりと感じられた。また、さらなる植物への保護の大切さが思われ、身の引き締まる思いがした。

台風の被害は多数あり、花が風でなぎ倒されたりもしたが、特にユウスゲの花弁は油虫の大量発生によりほとんど仮死状態にまで追い込まれてしまったとのことと、見るも無残であった。

そうはいっても暑い夏も後半に入り、今はワリガネニンジン・コバギボウシ・イブキセリモドキ・オミナエシ・センニンソウ・キンミズヒキ・ツルリンドウ・ワレモコウやゲンノショウコなどの秋花が、どんどん咲き出している。



キセウタ

だが本来なら、晴天時は三点セットであったとしても三合目までは歩きたい。なぜならその間にも可愛い花たちに出会えることを知っているからである。だがきょうはいにくの強い雨のため、ゴンドラ利用もやむを得ない。

三合目のホテルへ入ると20〜30人が雨中にもかかわらず、花への期待にどの顔にもこやかだ。見知らぬ人たちが交わすあいさつも気持ちがいい。思いが同じであればこれほどまでも打ち解けられるのだろうか。

予定通り11時のスタートである。これまでの登山時に花の開花状況等を教えてもらったり、あの花はどこに咲いていますかなどと尋ねたことのある、当ホテルのMさんが先生役である。もの静かな先

海外山旅



山本正喜氏と行くリマンダ・ロスタ頂と
アソホセリ国立公園 11日間

リマンダ・ロスタ山本氏と旅します。氏はス
ポーツ・トレーニングの研究にとりまわし、特に
高山病に対する研究に功績を残しています。「
登山の運動生理学」などの著書も執筆し、ヒマ
ラヤのO.C.M.峰や南アコンカグアにも登頂
されています。

期間 8月20日(金)~30日(月)
代金(大阪) 588,000円



紅葉のアスカマツキンリー展望
ハイキング三珠&オーロラ 6日間

有名なマツキンリー山の展望地であるクスギリ
ツツや、紅葉の素晴らしいツインピークス周辺、
クワッパス周辺を訪ねます。タルキートン湖
氷大池、南緯マツキンリー山の登山基地の湖、
絶好のロケーションです。既ばオーロラに期待
です!

期間 9月7日(火)~12日(日)
代金(大阪) 358,000円

スコキーロッジに泊まる
カナディアントレッキング 8日間
バンフ国立公園とオースターの緑のエリアです!
電車の道沿いと素晴らしいトレイルが待っています

期間 8月21日(土)~28日(土)
代金(大阪) 478,000円

イエローナイフの黄葉ハイキング
とオーロラ 6日間
イエローナイフに3泊して日中は黄金色に輝く
黄葉ハイキング、夜はオーロラを賞してみます。

期間 9月9日(木)~14日(火)
代金(大阪) 358,000円

夏山シーズン到来です! 北アルプス・南アルプス・八ヶ岳

7/17日-21日	ゆつたり荒川三山 から赤石岳縦走	104,000円	7/30日-8/2日	白馬岳・菅茶臼・ 朝日岳縦走	86,000円
7/17日-20日	氷河公園から横ヶ岳	79,000円	7/30日-8/3日	ゆつたり光岳から 蟹岳縦走	104,000円
7/18日-21日	白馬三山縦走 白馬大雪山と黒岳	69,000円	7/31日-8/5日	ゆつたり表層縦走 新岳から横ヶ岳	118,000円
7/23日-28日	黒岳縦走 家の平・水島岳・黒岳	126,000円	8/6日-8/8日	甲斐駒ヶ岳と仙丈ヶ岳	69,000円
7/24日-27日	エグゼの山原白馬岳縦走	23,000円 58,000円	8/6日-9日	ゆつたり駒ヶ岳から 黒岳縦走	83,000円
7/24日-28日	花の薬師岳と黒部五郎岳	99,000円	8/6日-10日	立山から花の五合ヶ岳 を経て黒岳縦走	99,000円
7/22日-26日	ゆつたり黒見岳・ 間ノ岳・北岳縦走	98,000円	8/12日-15日	黒見岳・間ノ岳・北岳縦走	85,000円
7/29日-8/1日	ゆつたり南八ヶ岳縦走	75,000円	8/12日-15日	荒川三山から赤石岳縦走	94,000円
7/30日-8/1日	白馬岳から白馬大池縦走	48,800円			

お電話・FAX・お手紙にて
ご請求ください! 山歩き&ウォーキング
総合カタログ 2004年4月
2005年2月 送料無料

お問い合わせは... 山旅専門旅行会社
アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 邦コンド保協会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ http://www.amuse-travel.co.jp
E-mail: amuse@amuse-travel.co.jp
☎ 06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

登山時はハナイカダの葉飯、ヨモギ・
ツリガネニンジン・イブキフウロ・トウ
キ・ゲンノショウコなどの天ぷら盛り合
わせや、シロザ・ツユクサなどの酢味
漬物など、まさに山野草観察会にふさ
わしいお弁当をおいしくいただきながら
の和気あいあいのひとときであった。
午後も雨、いっこうに降りやむ気配は
なくとも、先生はそそくさと花を求めて
先を進まれる。
地をほうような小さなアリノトウグサ
は、知らない人なら平気で踏みつけてし
まうだろう。
古くから秋の七草として『万葉集』に
も登場するマメ科のハギは、われわれ登
山者ならすぐにヤマハギやナンテンハギ
を思い浮かべるだろう。そのマメ科ハギ
属の仲間でもあるメドハギについての説
明もうれしい。なぜなら昔段あまりに地
味な花だけに通りすぎ、見過してしまっ
たのである。メドハギは他にも変種がい
くつかあるが、日本全土に分布するこの
メドハギだけでも覚えておきたい。
因みに秋の七草は、ハギ・ススキ・ク
ズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ
そしてキキョウである。とりわけ自生の

フジバカマはなかなかお目にかかれなく
なっているのが淋しい。三合目でもこの
花とキキョウの二つはなさそうだ。
さらにはコマツナギやヒメヤブランな
ど、普段ではあまりにも小さな花のため
気づかずにいるものにまで解説が聞け、
濡れる足元などお構いなく聞く人たちは
メモを取るなど、みんな一言一句聞き漏
らすまいと熱心な観察ぶりである。
もちろん植生されたのか疑問視される
ものの、久しぶりの対面である鮮やかな
黄色一色のオミナエシも元気に咲き競っ
ている。
黄葉といえばダイコンソウはみんなに
注目されない花だが、ここではオオダイ
コンソウが分布の南限のようできれいに
咲いている。全体に毛が多く丈が1尺に
まで高くなる。
初夏は賑やかだった樹木花たちも今で
はすっかり実をつけている。ニシキギ科
ニシキギ・コマユミやカバノキ科オオバ
ヤシャブシさらにはウリハダカエデ・エ
ゴノキ、この伊吹山に多いモクセイ科ミ
ヤマイボタノキたちの果実はまだ青々と
している。

これらの果実は10月から年末にかけて
A参考V
ゴンドラ利用で伊吹山三合目へ上がる。
三合目一帯の山野草観察として花解説を
聞いた(11時~15時30分まで)。その後、
個人的に主たる花の写真撮影を行った
(15時30分~16時30分)。そして薬草風呂
に入浴後、ゴンドラで下山した。
△地図▽昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

これからの果実は10月から年末にかけて

真つ赤や黒い実になってこよう。またそ
の頃の樹木の果実の様子を観察するのも
これまた楽しいものである。
本日観察できた草本、木本合わせて60
種を超えたが、この花や実たちはそれぞ
れの顔を変えながらまた一年を過ごす。
見る時季により違った状態に出会えるの
で植物観察は休む間もなく続けることが
必要である。幸いにも今年からはいつで
も山行が可能な生活となり、わが意を得
たりとニンマリ。の昨今である。

さあこれからは三合目だけの花巡りを
楽しもう! (平成15年8月17日歩く)

生きる希望の眺めを歩く

天狗岩南尾根から記念碑台

六甲

木村 太郎

阪急岡本駅界隈は六甲山登山の行き帰りに時々寄り道している。桜の季節がきたので、水上越の小説「桜守」で知られる世部前ゆかりのササベ桜を見物するため、久し振りに桜守公園がある岡本駅に足を向けた。

今年は季節めぐりが早く、ササベ桜はもう満開に近かった。水没した御母衣ダムから実生苗を移植された照蓮寺桜と荘内桜は七分咲きであった。兵庫の民謡に、「梅は岡本、桜は生田、松のよいは淡川」と歌われている。桜守公園のササベ桜も美しく、桜は岡本と歌詞に付け加えたいほどだった。

岡本駅に引き返し商店街を抜け、表通

りのJR摂津本山駅前からの路線バスで終点の満森台に向かう。バスは神戸市の「太陽と緑の道」市街地版の「山麓リギンの道」を通り、桜並木の西谷川沿いを走った。満森台からの寒天山道と天狗岩南尾根は、六甲南市街と六甲山上とを最

短で結ぶ登山道になっている。六甲ケーブル山上駅に登る寒天山道は粘土質で乾くと凝固し、雨が降るとぬかるんで登りにくい。一方の天狗岩南尾根は、寒天橋から長い階段道が続く。天狗岩に立つと東方に東お多福山から凌雲台、西方に記念碑台から摩耶山までのパノラマが広がる。

天狗岩のすばらしい眺めのとりことなっ

登り着いた天狗岩



た私は、いつも天狗岩南尾根を登っている。少しでも階段歩きを減らすため寒天橋をさけ、満森台から西山谷への導入路をたどる。第二千丈谷ダムを通り過ぎた地点で迂回した天狗岩南尾根に取り付く。春先なら西山谷の河原にミツマタの黄色、山道に入るとスミレの紫が目を楽しませてくれる。

昭和40年代に書かれた、神戸市在住の

陣舞臣の短編小説「六甲山心中」は、満森山を舞台にしている。この世に希望を失くした若い恋人同志が、心中する場所を探し、六甲山上から明け方の満森山へおりに来たことから物語は始まっている。

登山口の満森台付近で、小説の恋人たちは殺人事件に巻き込まれ、犯人に殺される出来事に遭う。恋人たちの様子をあやしんだ売店の人の通報のおかげで、運よく命が助かることになり、生きる姿勢を取り戻すという筋書きである。

恋人たちがさまよい歩いた道が、これから歩く天狗岩南尾根だと小説に記されているわけではない。だが天狗岩を思わせる山中の岩場で足を滑らせた恋人を若



者が助け起こすという場面もある。六甲山上から満森山へ出たという描写を読めば、恋人たちの歩いた道は天狗岩南尾根かも知れないと分析できるのだ(寒天山道が石切道の可能性もある)。

須磨アルプスの高倉山や油コブシへ続く鶴甲山と同じように、満森山も神戸市の新しい都市開発のため傷つけられた山である。神戸港の人工島ポートアイランド埋立て工事のために、標高385mの満森山は80%削り取られ、跡地は住宅団地として開発されたのである。

天狗岩南尾根の忘れてならない特徴とは、住吉川西山谷と大月地獄谷を両脇にかかえていることだ。表六甲特有の明るい谷相がハイカーを酔わせる女王のような谷を、やせてはい

も露かせる勇ましい尾根なのだ。林を抜ける海からの風を背に受け、ササ地を行けばベンチのある休憩地にたどり着く。

「六甲山心中」の恋人たち航太郎と牧子の2人は、満森山の探士

場で生き埋めにされかけた時、白い船体と黄色いマストが林立したポートアイランドの幻影を見る。メルヘン調の赤や緑の色彩のまぶしい屋根をのせた建物が立ち並ぶ、新しい海上都市の輝かしい未来の想像図が若者の脳裏に浮かんでくる。

死ぬかもしれない出来事に遭遇した時はじめて、未来に絶望していた若者が未来の街の姿に羨望を覚える。「もし生きられたら、ここに住んでポートアイランドで働こう」と生を希求する。死にたくない生きていたいという、心中志願の若者に情熱を取り戻させる契機になったものがある。

若者の急なる心変わりには、あたたかく明るい新しい街と光る海辺の風景に出会ったことにある。その光景がこの時、天狗岩南尾根から振り返った眼下に広がっている。小説の恋人たちには、生きていくための「希望の眺め」に見えたのである。

尾根道に巨樹があるわけでもなく特別な山の花があるわけでもなく、何の変哲もない雑木林が続くだけ。その芽吹き間近の雑木林では、ものみな生まれ変わる



記念碑台・グリーン像

のもあり、六甲ガーデンテラスというリゾートが凌雲台に出来ている。ヨーロッパの古城にあるような見晴らしの塔が立ち、回る十国展望台の跡地は、見晴らしの丘として芝生を植えて憩いの広場になっている。

六甲山上がいまほど開発されていない時代には、六甲山へ登るといふことに遊びの要素は少なかつた。自然界のなかに身を寄せて素直に感動し、風の調べに雲の動きに一喜一憂し、頂上を目指して登られていただろう。その当時の人々の「山への憧憬」だけは今日とて、無くし

ろうか。記念碑台の高台に来て通過儀礼のように4等三角点にタッチする。六甲山を開拓したグリーン像を顕彰する記念碑は、昭和30年7月に再建されたものである。もとの記念碑は明治期に立てられたが、戦時中に取り壊されている。思まわしい戦時下の爪痕は、のどかな山上にも残されていた。

冬が終わり、自然保護センターも明日4月から開館する。夏になれば記念碑台には、六甲の名花アジサイがいっぱい咲く。記念碑台の石段を降りると、そこは山の街である。山の学校・山の郵便局・山の喫茶店、都会の街区と寸分たがわぬ街が出現している。神戸居留地の外国人に「六甲山、汝うるわしの幻よ」と表現され、愛された六甲大通りを歩く。

神戸ゴルフ倶楽部を通り凌雲台の方向へ。まさしくここは雲を凌ぐ六甲山上の高地なのだ。阪神間で最も空に近い六甲山脈の長い大層根なのだ。回る十国展望台が取り壊され、六甲天文通信館の見学もできなくなり、凌雲台も寂しくなった。

減じるものがあれば新しく生まれるも

季節がきて、甘餓っぽい追憶を蘇らせる。萌え木の匂いに酔い、忘れ去っていた青春の日々に胸を揺り動かされ、「想い出の季節を我は愛す」と独白したくなる。さすがに六甲山上への最短路、あつという間に天狗岩の岩場が前方に見えてきた。突き抜ける青い空、香しすぎる甘い風、空中高く走るロープウェイ。三連目の成人式を迎える年代になっても、恋に恋したころのような若い気持ちにさせる。ササ群を倒して地獄谷への下り口を覗いてみたが、だれも登ってくる気配はない。今、天狗岩は私ひとり占有だ。

天狗岩から六甲オリエンタルホテルは指呼の間。ここから六甲スカイヴィラ前庭の小径を登れば、六甲全山縦走路に出られるのだが、きょうはもう急坂は登りたくないわがままな気分。そこでサンライズドライブウェイを記念碑台まで歩くことにした。

ケープル山上駅からの道と交差する所で、私はなつかしい感情にとらわれる。わが子がまだ幼かった頃、幾度か六甲山カントリーハウスで開かれた運動会へ家族連れでピクニックに来たからだ。花の種を山に播いて帰ったが、根付いたのだ

たくはない。根岸派の歌人で学者でもあった花田比露思は、明治の終わりがころ六甲山麓の魚崎に移り住んでいた。戦後に福岡商大で長もつとめていたが、魚崎時代には「武陣短歌会」を立ち上げ、歌誌「しほざゐ」を大正4年に創刊している。そのころ神戸の魚崎には伊沢秋海・西田風丸たちがいて、「田園詩社」という文学結社をつくっていた。

花田比露思は自らの関西根岸短歌派と「田園詩社」の活動とを結び、新たな文学拠点として歌誌「しほざゐ」を世に出した。同誌には釈道空や川田順といった後年大家になった歌人たちも参加しており、のちには世に知られた歌誌「あけび」に発展していった。

花田比露思は歌集「さんげ」を大正11年に世に問うている。その歌集に六甲山行の歌が収められてあり、当時としては大変めずらしい山行短歌といえる。

うららかに春の日は照る灘の山
やまふところのかけりかなしも
(大正3年「六甲津上」より)

六甲山麓に住む花田比露思は、作歌のかたわら時間があれば家近くの山歩きを

楽しんでたようだ。時には歌の世界を広げるためか、友人たちとも山を歩いたようである。

街にあってひたに恋へりし秋山に
今日こそ登れ心晴れつつ
(大正4年「六甲津上」より)

魚崎の田園詩社の同人たちと登山した時の短歌である。大正初期はまだ近代登山運動期であり、いま思えば歌人たちは何を求めて山へ登ったのか、何を語り合っていたのか興味のあるものがある。ただ純粋に「山への憧憬」をいだけ、六甲山を目指したということだけは、六甲途上の歌からうかがい知ることができ。 (平成16年3月31日歩く)

Aコースタイム▼
阪急岡本駅(5分) 桜守公園(10分) JR 摂津本山駅前(阪急バス15分) 湖森台(10分) 天狗岩南尾根道取付(40分) 休憩地(20分) 天狗岩(30分) 記念碑台(40分) 凌雲台見晴らしの丘(10分) 石切道出合(1時間) 石切場跡(30分) 湖森橋(バス12分) JR 摂津本山駅前
△地形図▼
2万5千11西宮・宝塚・有馬・神戸首都

ろうか。記念碑台の高台に来て通過儀礼のように4等三角点にタッチする。六甲山を開拓したグリーン像を顕彰する記念碑は、昭和30年7月に再建されたものである。もとの記念碑は明治期に立てられたが、戦時中に取り壊されている。思まわしい戦時下の爪痕は、のどかな山上にも残されていた。

冬が終わり、自然保護センターも明日4月から開館する。夏になれば記念碑台には、六甲の名花アジサイがいっぱい咲く。記念碑台の石段を降りると、そこは山の街である。山の学校・山の郵便局・山の喫茶店、都会の街区と寸分たがわぬ街が出現している。神戸居留地の外国人に「六甲山、汝うるわしの幻よ」と表現され、愛された六甲大通りを歩く。

神戸ゴルフ倶楽部を通り凌雲台の方向へ。まさしくここは雲を凌ぐ六甲山上の高地なのだ。阪神間で最も空に近い六甲山脈の長い大層根なのだ。回る十国展望台が取り壊され、六甲天文通信館の見学もできなくなり、凌雲台も寂しくなった。

減じるものがあれば新しく生まれるも

オリジナルザック
登山と山道具のアドバイザー

クック
ザック
専門
用品
の
アドバイザー

中型ザック紹介

◆ワイルドミユウ◆



＊カラー レッド×モノクロ
ネイビー×モノクロ
マゼンダ×モノクロ
ミント×モノクロ

＊容量 45ℓ
＊重量 1800g
＊素材 高強度ナイロン
＊価格 ¥15,000

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

山小屋2〜3泊。シンプルで、フロン
トポケット、腰裏にも使えるようにシ
ングルプレートフレームを内蔵し、ア
クティブな山行に最適。立降状態で身
体にフィット。



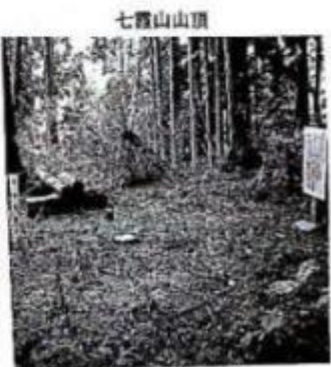
イモック
山道行くらぶ

7月18日(日)
赤田山・大観山頂
水鏡の滝と雲取峠
和歌文山(1344m)
詳細はお問い合わせください
Y652-0100 神戸市東灘区日吉町2丁目5番5号
カノバビル2F
TEL (078) 021-5851
FAX (078) 021-3528
営業時間/10:00-19:00 受付日/日曜日

高野参詣道を歩く (第六回)

⑧ 捻草越道

長坂文男



七霞山山頂

『紀伊徳風十臣』に、「摩尼谷より川合の橋(河合橋)へ出て、七霞を過ぎて高野へ行くを捻草越といふ。高野より大峰山上の本道とする。」と記されている。高野からさらに天辻峠、阪本を経て大峰山と結ばれる。しかし高野山と大峰山を結ぶ、本道(本街道)であるという記述は信じがたい。大峰口より距離が長く、アップダウンのあるこの道が、本道とは考えにくいからである。

捻草越の途中にある七霞山は、古くからよく知られた山で、『紀伊国名所園会』や『日本山録』高瀬式編纂 明治39年』にも紹介されている。昭和45年に西高野から七霞山頂まで林道が開かれ、北側山麓の産谷からの林道と結ばれた。車

で登れる山となり、ハイカーはほとんど見かけなくなった。

コースガイド

JR和歌山線の五条駅前から、東高野行きバスに乗り、西高野の中橋(バス停)で下車する。バス道を50分ほど戻り、十字路を左折し舗装林道を進む。林道が右へ曲がる所で、左へ進み地道に入る。コヤマキの苗木畑を過ぎ、ヒノキの植林のなかを登り、再び舗装林道に出る。

曲がりくねった林道をゆるやかに登ると、北東方向が開け、西高野の集落後方に防城峯(768m)が見える。七霞山の奥尾根に出てアカマツ林のなかを進むと、右に伐採地があり、北から北東方

池)の破線道も、西にのびる支尾根の途中で途切れているが、道は支尾根を南へ廻り込み続いている。やがて大きな伐採地に出る。

751mピークの西、標高560m付近の西側に伐採され、急峻なV字谷の底に丹生川の白い流れが見える。南寄りには山道を横切ると、長さ100mに及ぶ大規模な崩壊地がある。コンクリートで固められ、スチールネットにおおわれており横断不可能で、崩壊地下端の急斜面を掘り越えしたが、通過に20分ほどかかる。いずれ迂回路が設けられると思うが、くれぐれも注意してほしい。

伐採地の外れから暗い杉の植林地を進み、急斜面をジグザグにくぐり、丹生川に架かる河合橋に出る。少し北側で、丹生川に支流の清川が合流する。橋を渡った所には、弘法大師石仏を祀った小祠がある。

河合橋から清川(摩尼谷)沿いの園道371号を歩くことになる。奥の院時登り口まで約6km、標高差370mのゆるやかな登りが続く。清川橋のたもとで、杖ヶ敷・聖原集落への町道が分岐する。南海りんかんバスのバス停があり、朝7

時台と夕方17時台の1日2便、高野山駅まで運行している。

点在する平家の民家を左下にしながら、園道を進むと林・南集落があり、南集落の外れに、突然の夕立に見舞われた弘法大師が、濡れた衣を干したと伝えられる「弘法大師御衣干岩」がある。木柵の中に、黒っぽい大岩が御神体のように祀られている。

園道を南へ歩いた所に、奥の院登り口がある。石の階段から取り付き、よく踏まれた山道を登る。西ヶ峰集落へ続く町道を横切り、尾根の南側を歩いて進むと奥の院峠(摩尼峠)に出る。ここで大峰口と合流し、奥の院林道、高野山公園墓地を経て、奥の院前バス停に着く。

(平成16年3月20日歩く)

△コースタイム▽

中橋集(1時間) 七霞山頂(七霞山往復10分) (1時間10分) 伐採地(40分) 河合橋(40分) 清川橋(1時間) 奥の院登り口(30分) 奥の院峠(25分) 奥の院前バス停

△地形図▽
2万5千高野・聖谷貯水池・高野山



捻草越道付近略図

に入る。七霞山南西尾根の西側を捲く山道を進み、三叉路に出る。倒れた古い道標があり、左に下筒香へくだる道を見送り右をとる。ヒノキの植林のなかを進むと、再び三叉路がありこも右をとる。左の道は植林の作業道で、尾根に出て行き止まりとなるので注意。

右の巻き道は初めはよく踏まれていますが、次第に踏み跡程度の道となり、灌木が道を塞ぐようになる。2万5千地形図「聖谷貯水

高野参詣道を歩く

⑭ 六里ヶ峰 (龍神口)

龍神口は高野七口の一つで、高野山の南西、龍神村湯本(龍神温泉)を起点として、高野山大門に至る参詣道である。高野山と熊野を結ぶ信仰の道として古くから開け、修験道や巡礼者が往来した道であった。

鎌倉中期の文永十一年(1274)には、時宗を開いた一遍上人が、高野山からこの道をたどり、中辺路に出て熊野本宮へ向かったことが、「一遍聖絵」の短い詞書からわかる。

また護摩壇山の北西の叢ノ茶屋峠(叢ノ茶屋峠)付近に、かつて山岳信仰の拠点として栄えた日光神社があったが、明治四十年(1907)に山麓の清水町の八幡神社に合祀され、社殿は焼き払われ

た。現在は跡地に大正十一年(1922)に建てられた遙拝所の小堂が残るだけである。

表題の「六里ヶ峰」は龍神口の中間に位置する尾根道のことだ。六里ヶ峰・六里越ともいう。登り口の龍神村殿垣内から花園村新子まで道のりが(六里)あることからこのように呼ばれ、六里ヶ峰という特定のピークがあるわけではない。

六里ヶ峰の古道は、昭和初期にはブナ・ナラ・クリなどの広葉樹が生い茂り、落ち葉に埋もれた山道が続いていた(近畿の山と谷・増補改定版 1936年)。しかし昭和55年(1980)に高野龍神スカイライン(高野山から和歌山県南部の龍神村に至る観光・生活道路)が開通し、護摩

重畳とした奥高野の山並 (展望台から)



壇山以北は大部分がスカイラインの道路となり、歩く人はいなくなった。

現在六里ヶ峰の南部(護摩壇山から龍神温泉手前の大熊まで)が、ハイキングコースとして整備されているので紹介する。下り主体の割合なコースであるが、交通の便が悪い。なお逆コースの場合日帰りは無理で、龍神温泉に泊る必要がある。六里ヶ峰を含む龍神口の古道全般

については、『高野参詣道1(歴史の道調査報告書Ⅱ)和歌山県教育委員会編 1980年』に詳しい。

コースガイド

高野山ケーブルの山上駅、高野山駅前から10時5分発(平成15年10月現在)の南海りんかバスに乗り、高野龍神スカイラインを通り、約1時間で護摩壇山バス停に着く。

ごまさんスカイタワー横から、秋には黄葉がすばらしいブナ・ミズナラ・サラサドウダンなどの自然林のなか、遊歩道を15分ほど登り、護摩壇山(1372m)に着く。



あずま屋の休憩所がある山頂は灌木に囲まれ、展望は期待できない。長らく和歌山県の最高峰とわれてきたが、近年護摩壇山の東700mにある通称耳取山(NHKのテレビ中継塔がある)が、護摩壇山より10m高いことが国土地理院の現地測量で判明し、平成13年1月1日発行の2万5千地形図(平成12年部分修正測量)に、1382mの標高点が表示された。

また、護摩壇山の山名の由来は、この山は古くから真言密教の行場であり、護摩壇が設けられていたことによる、あるいは源平の合戦に敗れた平維盛がこの地に隠れ住み、山頂に登って護摩を焚き将兵を占ったという伝説から生じた、の

二説がある。

山頂を後に石畳の遊歩道をくだり、高野龍神スカイラインを横切り、森林公園入口広場の左端から遊歩道に入る。よく整備された木の階段道で、ブナ・ミズナラ・モミ・ツガ・サラサドウダン・ヒメシャラなどの自然林のなかを歩く。三叉路は左をとり少し登ると、展望台のある小ピークに出る。

展望台から北に、ごまさんスカイタワーの右に円頂の護摩壇山、テレビ中継塔のある耳取山が並ぶ。南東方向眼下に、林間広場総合案内所の赤い屋根が見え、針尖岳の鋭峰のなかに大峰山脈が眺められる。展望台横には、四隅が大きく欠けた3等三角点(1304.2m)があり、標石上面の十字がかるうじて確認できる。

展望台ピークを後に西へくたると、正面に雨曇観測塔が立つ城ヶ森山が見える。山頂前を府下(和歌山市)から龍神温泉に至る龍神街道の古道が通っており、一度歩いてみたいコースである。少しくたるとT字路があり左へ進み、林間広場の進入道路に出る。車道を道なりに歩き、林間広場入口のT字路は右をとり、未舗

近江湖西の山を歩く

【新刊】

草川啓三著 A5判並製 一九九五円
若狭へとつづくいくつもの峠道、壮快な気分が歩ける高野の山、巨木の残る山深い山、山スキーの出来る山稜など、関西の奥座敷的な山域を美しいカラー写真とエッセイで紹介する。

近江の山を歩く	草川啓三……二〇〇円
近江百山	近江百山会……一六五円
近江湖北の山	山本武人……二〇〇円
近江朽木の山	山本武人……二〇〇円
好評発売中	草川啓三……二〇〇円
鈴鹿の山を歩く	尾尾寿一……二〇〇円
鈴鹿の山と谷(1)の西尾	尾尾寿一……二〇〇円
京都滋賀南部の山	内田嘉弘……二〇〇円

近江の山を歩く	草川啓三……二〇〇円
近江湖北の山	山本武人……二〇〇円
近江朽木の山	山本武人……二〇〇円
好評発売中	草川啓三……二〇〇円
鈴鹿の山を歩く	尾尾寿一……二〇〇円
鈴鹿の山と谷(1)の西尾	尾尾寿一……二〇〇円
京都滋賀南部の山	内田嘉弘……二〇〇円

★表示の価格は5%税込です
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

装の林道五百原線を南へ進む。1227
辺ピークの東側には、昔は六里ヶ峰唯一
の水場「水呑」があったというが、今は
林道工事で跡形もない。

林道は自然林と植林の混成林のなか、
ほぼ古道上を通過しており、尾根上のピー
クはすべて東側を境にしている。時折東側
の視界が開け、奥高野の重畳とした山
並、その後方に大峰山脈が遠望できる。
やがて右に衣掛岩を見る。一見何の
変化もない黒っぽい岩であるが、弘法大
師が急坂で大汗をかいたので、この岩に
衣を脱いで掛けたという伝説がある。衣
掛岩から400ほど歩くと林道は右へ
曲がるが、直進する山道が古道である。
植林の尾根の急な下りが続き、やがてT
字路の立石に着く。

江戸後期の文政元年(1818)に建
てられた石道標があり、正面「右りうし
ん道」、左側面「もし大水の時ハ此方へ
まわるべし」と刻まれている。江戸時代
龍神道をつくった殿垣内の日高川に、丸
木橋が架かっていたことは、「紀伊国名
所図会後編」の挿絵からわかる。左側面
の銘は、大雨の時は川が増水して危険な
ので、立石から直接大熊へくだる尾根道
(迂回路)をたどるようという意味であ
る。なお立石の地名はこの道標に由来す
る。

くだる。やがて小谷を渡り、杉・檜の植
林のなかをつづら折りにくだると、奥道
美里龍神線に出る。
奥道歩き大熊に出てもよいが、古道
は殿垣内の集落内を通過している。日高川
に架かる吊橋を渡り、50ほど進むと殿
垣内の氏神、八幡神社がある。殿垣内は
日高川右岸の緩斜面に10軒ほどの民家が
点在する山村である。高野山からの龍神
街道と、和歌山からの龍神街道が合流す
る所で、大正の頃まで旅館が二軒あり、
人々の往来も多かったというが、現在で
はとも想像できない。
また、龍神氏一族が居住した所で、
(殿屋敷)の地名も残っているという。龍
神氏の祖、和泉守は殿三位頼政(平安後
期の武将・歌人)の子孫で、戦乱を避けこ

の地に来て、龍神氏と称したという。
殿垣内から奥道に出て、青田の集落を
通り、大熊の集落に入ると右に龍蔵寺
がある。かつては龍神氏の菩提寺で、室
町中期の応永三十一年(1424)銘の
棟札と、同時期の如来画像が残されてい
る古刹である。

龍蔵寺から小学校の横を通り、少し歩
いた三叉路に旧大熊バス停がある。ここ
から予約制バスで龍神温泉へ向かう。な
お大熊はバス停が二つあり、護摩壇山か
ら龍神温泉行きのバスに乗り換える場合
は、旧大熊バス停から三叉路をくぐった奥道
脇の大熊バス停からなので、間違えない
よう注意。



奥道の護摩壇山遊歩道

日高川の上流部にある龍神温泉はいつ
だれによって発見されたか古い文献もな
く不詳であるが、伝説では1300年前
役行者が発見し、弘法大師が龍神
王の夢のお告げによって浴場を開いたこ
とから、龍神温泉と呼ぶようになったと
いう。江戸初期には、紀州徳川家初代の
徳川頼宣の庇護のもと、浴場を整備し温
泉宿が建てられる。その後も代々の藩主
が入湯保養し、発展してゆく。現在は群
馬県の中温泉、鳥根温泉の湯の川温泉と
共に(日本三美人の湯)と呼ばれてい
る。

今回は日帰りであったが、時間に余裕
があれば泊してみたい温泉である。
龍神温泉から紀伊田辺行き定期バス
に乗り換え、JR南都駅に向かう。さら
に特急に乗り継ぎ帰阪する。
(平成15年10月24日歩く)

- ▲コースタイム▼
南海高野山駅(バス1時間10分)護摩壇
山バス停(15分)護摩壇山(40分)展望
台(20分)林間広場入口(1時間10分)
林道分岐(25分)立石(45分)奥道(35
分)旧大熊(バス12分)龍神温泉(バス

- 1時間46分)JR南都駅
▲地形図▼2万5千護摩壇山・龍神
▲コースメモ▼
○高野電線スカイラインは平成15年10月
1日から無料開放され、一般国道とな
った。
○高野山駅から護摩壇山、護摩壇山から
龍神温泉間のバスはそれぞれ1日2便、
4月1日・11月30日運行、冬季運休(要
予約)。
南海りんかんバス
☎0736(56) 2250
龍神バス
☎0739(22) 2100
○旧大熊から龍神温泉へは1日3便(日
曜・祝日運休)。(要予約・龍神バス)。
○龍神タクシー
☎0739(79) 0118
○龍神温泉からJR南都駅・紀伊田辺駅
間は1日7便、通年運行。龍神温泉最終
16時52分発のバスは、JR南都駅で新大
阪行き特急くろしお32号・18時43分発に
乗り継ぎできる(平成15年10月現在)。
○龍神温泉には旅館・民宿・国民宿舎な
ど12軒ある。
龍神観光協会
☎0739(78) 2222

高野参詣道を歩く ⑮ 梁瀬道

梁瀬道は龍神口の脇街道で、北溪(現
有田市港町)や湯浅・山保田(現清水町付
近)からの高野参詣道である。各地から
の道は清水町で合流し、有田川沿いを進
んで花園村梁瀬に至る。梁瀬からは尾根
を登り、辻ノ茶屋で龍神口と合流し、高
野山の大門に入る。

本街道の龍神口が、人口の希薄な日高
郡の奥地からの参詣道であるのに対し、
梁瀬道は海岸沿いの町や村、有田川流域
の村々からの参詣道であり、参詣者は多
かったという。「清水町史 1995年」
にも、「戦前ごろまでは徒歩による月参
り講が多かった」と記述されている。
現在、北溪や湯浅から梁瀬までの道は
大部分が車道で、ハイキングの場合は、

登りが始まる梁瀬が出发点となる。交通
の便であるが、南海本線の和歌山市駅前
高野山の千手院橋、JR紀勢本線藤並駅
から、花園(梁瀬)まで有田鉄道バスが
ある。いずれの便も花園に着くのが、昼
の12時台と少し遅いが、京阪神から何と
か日帰りできる。

コースガイド

南海和歌山市駅前から、9時45分発
(平成16年3月現在)の有田鉄道バスに乗
車する。バス停は駅前の大通りを渡った
左側にあり、札立峠を経て清水で後続
のバスに乗り換え、12時15分終点の花園
(梁瀬)に着く。
梁瀬は花園村の中心地で、役場や小学

校がある。
花園村の名
称は、高野
山の寺院へ、
仏前に供え
る椀を供す
る地であっ
たことによ
り出たこと
による。有
田川に架か
る梁瀬大橋



花園から梁瀬道(中央の尾根)を望む

古道は林内歩道として整備されており、
歩きやすい。杉の植林地の尾根をつづら
折りに登り、イラスト入りの道標の少し
先に、幹が途中で二又になった大きな松
がある。その前が平坦地になっており、
小休止するのによい所である。
やがて山道は尾根のやや西側を捲く道
となり、木の間から有中の集落の後方に、

天狗岳の双耳峰が見える。2万5千地形
図「梁瀬」に、「熊野古道」と間違った
注記のある尾根道を進み、舗装林道に出
る手前で東側が少し開ける。高野龍神ス
カイラインの通る尾根の後方に、大峰山
脈が眺められる。

舗装林道に出た所に「森林空間総合案
内板」と書かれた大きな案内板があり、
林道を右へ10分ほど歩くと、左に有中へ
通じる山道がある。山道を20分ほど登っ
た所に、明治二十三年の路のある小さな
地蔵石仏と、昭和九年に建てられた「弘
法大師一千百年供養」と刻まれた供養塔



梁瀬道付近地図

がある。

林道に戻り、高野谷へくだる支林道を
右に見て少し歩き、龍神口の通る新子か
らの車道と出会う。右をとり、石垣の残
る山林事業所跡の空地を左に見て進むと、
トイレやあずま屋のある広場がある。そ
の手前の未舗装の林道に入り北へ向かう。
961坪ビークの手前右に伐採跡があり、
左の植林されていない小空地が旧辻ノ茶屋
跡である。

梁瀬道と龍神口が合流する所で、江戸
期から明治年間にかけて茶屋があったと
いう。一升ビンや茶碗の破片が散乱して
いて、ここが茶屋

跡とわかる。山道
を北へ進み、車道
(新道)に出る手前
が新辻ノ茶屋跡で
ある。大正初年頃
に建てられ、昭和
四十年頃まで営業
していたというが、
今はただ杉の植林
された平坦地があ
るだけである。
アップダウンの

ない車道を北へ歩くと、車に出会うこと
はほとんどない。西側が開け、天狗岳や、
龍門山から飯盛山の山並、後方に和泉山
脈が眺められ、単調な車道歩きを補って
くれる。久木集落からの山道が右から合
流する久木辻を過ぎ、曲がりくねった車
道歩き、湯川辻に出る。

さらに花坂へくだる舗装林道や、消防
救助訓練場を左右に見ながら進むと、内
子谷川から車道が合流する。ゆるやかに
登る車道を歩き、大門の200坪手前で、
右にある石段を上ると熊野辻で、「助の
地蔵」と呼ばれる地蔵を祀った小堂があ
る。

傍らに「右龍神道、左熊野道」を示す、
古い石道標一基が立っている。砂利道の
林道を歩き大門に入る。大門から高野山
駅前までバスの便があるが、便数は少な
い。千手院橋まで20分歩けば便数は多い。
(平成13年11月11日、16年3月27日歩)

- ▲コースタイム▼
- 花園(50分) 二又松(40分) 林道分岐
(1時間) 旧辻ノ茶屋跡(10分) 新辻ノ
茶屋跡(50分) 湯川辻(40分) 大門
△地形図▽ 2万5千 梁瀬・高野山

連載

若狭の奥山・庄部谷山へ

若狭

磯部 純

「庄部谷山か、奥美濃の山へ行きませんか？」と山科の大兄からの電話があったのは久し振りのこと。奥美濃は遠いという印象があったので、即、「庄部谷山へ行きましよう」と返事をした。3ヶ月前に湖北東鞍岳へ登って以来、和瀬の彼の空いた日を選んで土倉岳・安蔵山に登ろうと計画したが、いずれも雨にたたられて山行は中止。「この3人で山へ登ろうとすると、必ず雨になる」とボヤいていた矢先のことだった。

庄部谷山へ登ると言ったものの、その山が野坂山地にある山とは知っていたが、正確な位置がわからない。早速調べると、野坂山から三國山・赤坂山・大谷山と連

なる山並の西、大御影山・三重嶽の北、雲谷山の東に位置する山とわかった。しかも、ガイドブックに載っている山ではないうえ、敦賀の山岳会の人にもあまり登られていない山のようで、登山路は期待できそうにもない。当然、やぶ漕ぎ山行となるが、登るルートは行く道中で大兄と決めることにした。

7時30分にJR堅田駅に到着。大兄といっしょに、守山の彼の車に乗る。和瀬で1人を乗せて敦賀へ向かった。この日、九州の西を大型台風が通過するとの予報があったが、まだ近畿圏に影響はないようだ。ただ、比良の山頂は厚い雲におおわれ、大谷山や赤坂山・三國山の西にも

送電線鉄塔から美沢・若狭湾を見る



灰色の雲が広がっていて、雨に降られなかが心配だった。国境の時からくんだり、新定田の国道8号線と161号線合流点西にあるコンビニ前に着いたのは8時50分。岐阜の彼との待ち合わせ時間に20分も遅刻してしまった。これでこの日いっしょに登るメンバーは、山科の大兄、和瀬、守山の彼、それに岐阜から駆けつけてくれたあの人の5人となった。

ここから二台の車は敦賀から国道27号線を西へ走り、河原市から南へ入って新庄集落南、二本の送電線の間、「どんぐり倶楽部」と書かれた店の看板手前の広場に駐車する。来る途中の車の中で、庄部谷山の西にある、標高804mから南にのびる尾根を横切る送電線巡視路を利用して登ろうと、話がまとまったからだだった。

9時30分、道を300m程北へ戻り、「火の用心」と書かれた標識から杉林の小道へ入る。入口付近には4等三角点、点名「庄ム谷」139.3mがあったが、しっかり地形図を見ていなかったので踏



んではない。杉林を抜け少し登ると、山裾に沿って水路が通っている。水路を廻り込んで斜面を登ると第一番目の鉄塔だ。道は斜面にのびていたが、東へのびる送電線の方向とは違ったので、その道を登るのはやめる。東斜面に巡視路を探すが見つからず、結局、東斜面をくぐり水路へと出た。始めから鉄塔へ登らずに、水路をたどればこの谷へ着いたのだが、最初からタッチロールだった。

谷を渡ると「火の用心」の標識が立っていた。その方向は水路の方を指していたが、それを見誤り、上にのびている小道を登ってしまう。始めは巡視路だと思えた立派な道も、廻り込んで谷へ入ると草が道をおおい、いつしか道は消えてしまった。この時になって道を間違えたとわかったが、先頭の大兄は平然とした顔で右手の急斜面を登り出す。

先程の第一鉄塔で尾根を送電線が走っているのを見ていたので、昔も黙ってそれについて登る。小枝につかまりながらジグザグに登るが、絶えず足元から小石が転がり落ちていく。少し油断すると足を滑らせそうな急斜面だった。

ようやく尾根にのるとそこは伐採斜面で、上には送電線が走っていた。伐採斜面といっても伐採されてから時間が経つのか、背丈程のやぶが一面に繁っている。それを掻き分けて登ろうとした途端、胸まくりしていた腕を次々に引っかけ血が滲み出す。血止めにタオルを腕に巻くが、たちまち白いタオルに真っ赤な斑点が……。やっとの思いで、二つ目の鉄塔まで登った時にはもうヘトヘト。もらって飲んだジュースが何と美味かったことか。

鉄塔の上部斜面には、どこから来たのか巡視路があった。登り口は下の水路にあったのだろう。あたりは伐採斜面で後を振り返ると、すぐそこに雲谷山がどっしりと横たわっている。道にはダイコンソウの花が咲き、林の際にはトリカブトも花を開いていた。薄日のなか、台風の影響か風が強し、頭上の送電線がゴウゴウと不気味な音を鳴らしていた。

送電線は谷を結んでいるので、第三鉄塔から尾根を登ることにするが、登り始めてすぐ道に出た。やはり登山道があったと思つたのは間違いで、それは廻り込んできていた先程の巡視路。こんな道があるならと尾根を登るのをやめ、巡視路をたどることにした。道は急斜面のブナ林を横切つてのびている。一度谷へくだると、そこには巡視路の橋架け作業をしていて人がいた。その人にこの巡視路が上の鉄塔へ向かうことを確認し、助まされ先へ進む。尾根への上とジグザグの登りだけで、足は踏み外すと滑ってしまいそうになる。汗が滝のように顔から流れ落ち、シャツは泳いだようにビしょビしょ。気がつくといつも先頭を歩く岐阜の彼の姿が、後に遅れて見えなくなっていた。第四鉄塔でひと息入れ、やっと尾根まで登った。ここまで2時間弱かかっている。空を見ると日は陰り、今にも雨が降りそうな空模様。風も強くなり、いやに雲の流れが速い。後には若狭湾の海が光り、尾根の向こうには赤坂山・三國山が黒々と横たわっていた。

ここからゆるい尾根歩きとなるが、山

との別れを惜しんで、45分も山頂で過ごす。最後の守山の彼の合事が済むのを待つて下山とした。時間は13時35分だった。

下山のルートは、「登ったルートをくだるのが無難」と言う人もいたが、大兄と打ち合わせて、標高点804計から西へくだって、標高点518計の尾根へのり、送電線巡視路の助けを借りてくだることとした。もし、登ったゆるい尾根を送電線鉄塔まで戻り、そのまま南へ尾根をくだれば、尾根の外れにある標高583・3計の点名「黒谷」も踏めると、家で地形図を見た時に考えていたのだが、そんな考えはとくにどこかへ消え失せていた。

標高点804計のピークまで戻り、西の尾根にのろうと斜面をくだる。木の根元にはいたる所にナツエビネが花を開いている。斜面には小さな木が生えていて、それを避けてくだりやすい所を選んでくだって行くと、自然に右へと振ってしまった。どうも斜面が急過ぎると思つた時は、目の前に尾根はない。どうやら西へくたらずに、北西へくたってしまったようだ。ここで落ち着いて、地形図で位置を確認すると、尾根を70分程南へ向か

頂までは標高差約200計、距離にして2kmはありそうだ。林に突っ込むと、このあたりは雪が多いのか、細い木々は全て斜めに生えている。ビッシリ生えている木の間を、右に左に抜けて進むのは思いのほか疲れる。二つ目のピークにのるあたりまで来ると、斜めの木も少なくなってきた。やぶも少なくなってきた。キンミズヒキやツリガネニンジンの花も目に入る。大きくはないものの、ナツエビネもあちこちに花を見せてくれている。見通しは全くきかず、周りに見えるのは同じような木々の葉だけ。平たいピークに上がる度に、地形図と磁石で方向を確認して進むことの繰り返し。地形図を読めなければ、どこかへ行ってしまうような、迷ってもおかしくないほどだった。広い尾根だった。

右に左に木を避けながら、ゆるい斜面を登って行く。12時はとくに過ぎていたが、だれも食事にしようと言ひ出さないう。このような右も左もわからない林のなかで腰を下ろして食事でもしたら、もう先へ進むのが嫌になるのではと、だれもが恐れているかのようにひたすら歩

てから、斜面を西へくたればよかったとわかったが、後悔してももう遅い。現在の位置が確認できたから、あとは斜面を左へ左へとトラバースするだけ。ホッとしてみれば、見違すと、そこは何処にもあるようなブナの大火があちこちに立っている原生林だった。くだる地点を間違えたおかげで、すばらしい光景に出会えたのである。

獣道を通って急斜面を横切り、尾根を一つ越えて西へ移動すると、伏採地の植林尾根へ出る。そこが標高点518計の尾根だった。そこから見ると、もう一つ左の尾根には、朝登る時に見た反射板が立っていた。あそこまで行けば道があると、送電線巡視路までくだる予定を変更して、反射板へと向かった。伏採植林尾根から左の林へ入ると、突然、「ド、ド、ド」という音と共に、二頭の鹿が目の前を横切った。それまでこんな深山におりながら、鹿の気配を全く感じなかったのでビックリ。反射板にたどり着き、やっと人心地ついたのだ。反射板からの道をくだる。高い木のいい見通しよ、駆け落ちそうな急斜面の尾根に直線的に付けられている道である。

進めている。広い尾根が少し狭くなり、勾配も急になった尾根を登ると、標高点804計の手前のピーク。そのピークを裏へ進むと杉の木が数本立っていた。ここからいったん東へくたると、黒谷の支流の楠ノ木谷の源流を渡り、登り返して、左へ登りつめると庄部谷山頂だった。12時50分の到着。やっと食事にありつけた。

庄部谷山、標高856・1計である。山頂広場の真ん中には3等三角点、点名「庄部谷」が立っていた。標石の頭の一辺は標準より5m長いだけだったが、ものすごく大きく見えた。向きは東南で、南から40度東に振っている。山頂は広く、あたりはブナの林に囲まれており、山頂からの展望は全くない。何はともあれまず食べて、それからゆっくりと飲みにかかると、つまみにと守山の板にもらいたいっものジャコ天を噛った途端、差し歯がポロリ。またまた、笑い話の種をつくってしまった。

山頂は見通しがないのに、吹いてくる風が冷たい。汗に濡れたシャツを着ていたのでは寒いほどで、覆えさえるようだった。それでも、初めて会えた三角点

それでもやぶ尾根をくだるよりはるかに楽。道にはキンミズヒキが点々と咲いていて、ヌズビトハギもある。道の両側のやぶにはハギやチンニンソウが咲いており、ガマズミの実も赤くなりかけている。気がつくとい、山頂での寒さがウソのように陽が微笑んでいた。尾根から林に入りジグザグにくだると杉林に変わり、やがて、朝に迷い込んだ第一番目の鉄塔の所へと出た。もし、朝にこの道を登っていたら、反射板の上で嫌になり、山頂まで行けなかったかもしれない。

15時55分、無事、車へ戻り解散とする。岐阜の彼と別れ、京都・滋賀の4人は熊川廻りで帰途に着く。途中、比良の町宮温泉で汗を流した。

(平成14年8月31日歩く)

Aコースタイム

新庄どんぐり倶楽部前広場(45分) 第二鉄塔(1時間) 尾根送電線鉄塔(1時間10分) 庄部谷山(1時間30分) 反射板(50分) 新庄どんぐり倶楽部前広場(地形図) 2万5千 3万 駄口

旗振り通信の資料 I

柴田 昭彦

【旗振り山について】

★各地の旗振り山についての踏査報告は、連載当初は簡単なものであったが、回を追うごとに詳細となり、コースガイドの要素も加えるようになった。従って、初期のものについては、もう少し情報を加える必要を感じたが、旗振り通信ルートと関連のない追補は見送ったものが多い。ここでまとめて報告しておこう。

★石堂ヶ岡(57・58・63号)

平成14年3月17日、ゴルフ場(茨木高原カンツリー倶楽部)のクラブハウスを訪れて、前にある相場振りの記念碑と、建物の東側の小高い丘にある1等三角点を確認してきた。敷地内の無断立ち入りは

禁止されており、クラブハウスのフロントで必ず理由を申し出てからにしよう(不審な行動をとっていると係員が現れるので注意)。三角点の標石の上にはゴルフボールが載っていて、横の木柱には、「米相場京え知らずに旗振りしこが昔の相場たて山(鬼)」「昭和五十三年八月建立」とあった。係員によれば、このゴルフ場が完成したのは昭和36年とのことであった。当時、古老から相場振りの話が聞き取りされて、記念碑が建てられたということである。理由はよくわからないが、「京へ」ではなく、「京え」と刻んである。2万5千分の1地形図「高槻」(平成13年修正刷版)に「石堂ヶ丘」とあるが、

石堂ヶ岡山頂(1等三角点)に立つ木柱(昭和53年建立)(無断立入禁止区域)



茨木高原カンツリー倶楽部のハウス前に立つ記念碑と筆者



★小関山(相場山)(57・58号)

平成14年3月23日、三井寺より小関越ハイキングコースをたどり、小関峠から南へ縦走して、相場山の山頂に着いた。北側に切り開きがあって、大津市街と琵琶湖が見える。少し南に降りて、折り返すように北東へくだると長等公園に出た。相場山を逢坂山と記載する文献(角川地名辞典)があるが、逢坂山とは「逢坂の

関」の意味であり、適切ではない。

★小麻山十三仏・舟岡山(58・66号)

平成13年4月8日、近江鉄道八日市線市辺駅より舟岡山を経て小麻山十三仏のすぐ背後のピーク(岩戸山)へ登った。

二か所に通信方向を示す矢印を刻んだ岩があり、その一つは頂きにあって紅白のターバンが巻いてあり、野洲町の相場振山を指している(二つコブの山が彼方に見える、左が田中山、右が相場振山で少しだけ低い。もう一つは頂きへ登って左手、近江八幡市岡山方向(正確には長田町方向)にあり、一段低い所へ降りて下方をのぞくと松の木の間にあるが、ややわかりにくい。京都趣味登山会編『京都滋賀近郊の山を歩く』(京都新聞社、1998年)の182頁の上の写真の下部には、この低い位置の矢印を刻んだ岩が写っている。

縦走すれば箕作山・太郎坊山で、『滋賀県の山』(山と溪谷社、1995年)、『近江百山』(ナカニシヤ出版、平成11年)、『歩きま専門京滋の100山』(京都新聞出版センター、平成14年)にコースガイドがある。

平成15年11月23日、再度、舟岡山・岩戸山を経て、箕作山・太郎坊山へと縦走

した。道標が完備され、迷いやすかった箇所も改善されていた。朝の冷え込みのおかげで陽光に映える紅葉が色鮮やかですばらしかった。

★雨山(58号)

平成14年2月9日、JR石部駅より、雨山文化運動公園を目指して歩き、石部宿場の里から南へ遊歩道をたどって山頂の竜王山(雨山)に着いた。展望は抜群で、今でも旗振りに最適な条件の山頂である。北へくだり、運動公園の横から石部駅へ戻った。

★菩提寺山(58号)

平成14年3月30日、JR野洲駅前から北山台行き滋賀交通バスでびわこ学園前で下車して、菩提寺山の展望岩(雨岩)へ登った。参考にしたガイドは『山と溪谷』799号(2002年2月号)である。『京阪神から行ける滋賀の山』(かもがわ出版、2000年)には、みどりの村東口バス停からのコースが紹介されている。旗振り通信の行われた岩は抜群の展望が開けている。山頂からは西応寺にくだることが出来る(内田嘉弘『京都滋賀南部の山』ナカニシヤ出版、1992年)。

菩提寺山の展望岩(雨岩)から通信方向(南西)に日向山(手前)と安養寺山(奥)が重なって見える



【旗振り通信の資料】

★旗振り通信の文献については、本誌57号と74号でまとめて示し、連載の中でも逐次、主要なものを紹介してきた。今回、通信総合博物館所蔵の文献や筆者の収集した資料から、一般に紹介されることのないものを選んで、読者に提供することにしよう。なお、戦前の文献の引用に

際しては、漢字は新字体に改め、原文には全く付されていない振り仮名を新たに加えたが、文体と用字は原文通りのままとした。

●「陳列品目録」(通信博物館、大正六年)の第六室に徳川時代の旗振通信の解説があることは本誌62号で紹介した。その内容は簡単なものであるが、目につれる機会にはほとんどないと思われるので、その一四一―一四四頁から解説の一部を引用しよう。旗振通信と鳩通信については、「旗振信号の沿革及仕方 附伝書鳩の事」(明治42年調査、通信総合博物館蔵、本誌57・58号参照)からまとめたものである。

五、徳川時代

(甲) 問屋場及本陣 (省略)

(乙) 飛脚及早打

駕籠に乗りたるは早打と称する最急使なり(元禄十四年浅野長矩の妻を江戸より赤穂に報ずるに当り早打を以てせしに百七十里の行程(一里は三十六町なり)を四日半にて達せしが当時之を以て迅速の極となせり)人夫の肩に荷ひて疾走するは公用飛脚にして昼夜兼行各駅にて人夫を継替ふるもの、宝暦十三年の規定によれば京都江戸間の

最急を三日、中急を四日限りとあり(此の里程百三十一里)駄馬に乗りたるは東海道三度飛脚と称するものにして、徳川時代に於ける公衆通信の唯一の機関なりき

(丙) 旗振通信

当時相場飛脚のため旗振信号及伝書鳩通信あり、其の起源は未之を詳にせずと雖或は云ふ今より約二百年前に於て紀伊国屋文左衛門が江戸に於て色紙信号を用ひて米相場の高下を示したるに蓋しせりと而して安永二年徳川幕府は旗を振り其の外種々の相図を以て米相場を他所に報ずることを禁止したることあれば其以前に於て盛に行はれたる事知るべきなり、其の始めは堤上又は山頂に於て信号したるものにして、信号手は三里乃至七里を隔て、配置し眼鏡を使用したり其の区域は西は兵庫、姫路岡山を経て広島、東は京都、桑名、四日市を経て津、南は和歌山に至れり、旗は大小黒白の二種ありて上下左右に振り数字を以て符号を示す又伝書鳩通信は同時代に於て行はれたるものにして、其の方法は鳩の足に相場書を結び付けて放ち遣りしものなり、されど旗振信号の如く汎く行はざりしもの、如し

山の二本杉で受けて、これをまた同様の合図の旗で名古屋へ送った。名古屋では望遠鏡を用いてこの旗通信を受信し、商人たちは時を移さず触れて歩いた。」

●「津市史第二巻」(昭和35年)の二九七頁には次のようにある(ルビを加えた)。文中の八町は現在の津市加納町辺りである。

「大阪相場の知り方 当所の相場は毎夜戌亥の刻頃(八時―十一時)に立会するを例とす之を如何んと云ふに江戸、大阪の相場状夜に入らでは到君せず夫故立会時刻斯く遅ると云ふ又うつりと云ふ事を行ひ当日の大阪相場を知り始め堂島の相場をくらがりにてうつし夫より大和伊賀の山々へ取りつまり本郡長谷山にて行ふを八町の某家へ取ると云ふ是は山頂にて旗を振る其の旗の振やうを望遠鏡にて着て高下を知るとなり」

●「舌津野二編」(白子郷土史後編)(白子郷土史研究会、昭和35年)は本誌60号で紹介したが、旗振り山についての記述部分を示そう(二〇九頁)。

●岡長平「岡山太平記」(宗教文庫、昭和5年)は岡山県における旗振り通信に関する情報源で、本誌63号で紹介した。一般に知られることは少ないので、一四四―一四五頁を引用しておこう(原文はルビであるが、ほとんど省略した)。

其当時電信は、岡山の不思議なる存在であつたらしい。その時分に一番に電信でも利用しそうな客の「旗合紙」の人達が、不経済と電信を考へるよりは、モット正確で迅速なりと主張して「旗振り」を推奨したと云ふから面白い。「旗振り」と云ふのは、堂島や兵庫で米相場が立つと、その相場をスグに旗を振つて知らせるのだ、それを遠眼鏡で見ているものが、スグに復次へ旗を振つて知らせる、斯う云ふ具合にして次から次へと知らせる方法なのである。

堂島―尼ヶ崎―兵庫―須磨―馬金―龍野―赤穂―寒河―熊山―岡山橋本町以上十ヶ所、受次をやつたものであつたが、堂島から十五分ぐらゐで岡山へ来たそうであるから、馬鹿にならないものだ。旗は大巾二巾が定りで、右廻りが十位で、左廻りが一の単位に大体極つたものだそうだ。しかし此信号方法は最も

◇旗振り山

江島町の北に遊園地として最もよい愛宕山、稲荷山、天神山があつて、又愛宕山の北に富士山がある。更にその北に丘がつづいて居るが、これは岸岡山である。この岸岡山は、大古の墳墓が重なりあつている。さて岸岡山の東からよく見える小高くなつた旗振り山(一名見当山)がある。明治の中頃から桑名での米の相場を、朝日(三重郡)へ知らせ、朝日から日永へ知らせ、日永から高岡山(河曲郡)へ知らせ、高岡山から岸岡山に伝え、岸岡山から上野の山(竜雲郡)に通じ、上野の山から津に知らせた。これは旗の振りかたでその日の相場がわかると云う一種の旗信号で、陸軍、海軍のあつた頃の旗信号にやや似たものだが、旗はずっと大きく△三角形の小旗で、真鍮製の「とうめがね」と、時計と、旗が備品の大切なものであつた。今千代崎に旗振りという家もあり、とうめがねは浜中弥三郎さん宅に買いとつて持つて居られる。

●前文中にある河曲郡と竜雲郡はのちに合併して河芸郡となり、河芸郡と安濃郡

秘密を要するので、三日目には変わったものだと云つて居る。堂島の相場は、前場五筋、後場四面の内に「歩み」と云つて幾度も少い相場が立つたらしいので、一日に何度と此旗相場の回数は定つてなかつた様である。

安政頃からあつたものだそうだ。遠眼鏡のなかつた以前は、夜火繩を振つて、続から続へと信号したものだと云ふ話だ。遠眼鏡は明治になつてからなので、しかも其筋の許可を得て、取引所の後援の下に立派な職業になつたのは、明治十八年四月十八日からである。その営業者は滝本町の小林文吉と云ふ人だ。尤も十八年までは、取引所と云ふものが、グラゲラしていたので、従つて旗相場もなかつた理である。

その旗相場は、明治三十二年に岡山取引所が天瀬から現在の場所へ移る迄、重宝なる通信機関として存続して居つたものである。

●「桑名市史本編」(昭和34年)の三九四頁には次のような文がある。

「会所で相場が落ちると、すぐ屋上に登り色々の鮮やかな旗を振り、それを多度

際しては、漢字は新字体に改め、原文には全く付されていない振り仮名を新たに加えたが、文体と用字は原文通りのままとした。

●「陳列品目録」(通信博物館、大正六年)の第六室に徳川時代の旗振通信の解説があることは本誌62号で紹介した。その内容は簡単なものであるが、目につける機会にはほとんどないと思われるので、その一四二―一四四頁から解説の一部を引用しよう。旗振通信と鳩通信については、「旗振信号の沿革及仕方 附伝書鳩の事」(明治42年調査、通信総合博物館蔵、本誌57・59号参照)からまとめたものである。

五、徳川時代

(甲) 問屋場及本陣 (省略)

(乙) 飛脚及早打

飛脚に乗りたるは早打と稱する最急便なり(元禄十四年遠野長船の便を江戸より赤穂に報するに当り早打を以てせしに百七十里の行程(一里は三十六町なり)を四日半にて達せしが當時之を以て遠達の極となせり)人夫の肩に荷ひて疾走するは公用飛脚にして昼夜兼行各駅にて人夫を替替ふるもの、宝暦十三年の規定によれば京都江戸間の

最急を三日、中急を四日限りとあり(此の里程百二十里、駄馬に乗りたるは東海道三日飛脚と称するものにして、徳川時代に於ける公衆通信の唯一の機関なりき)

(丙) 旗振通信

当時相場飛脚のため旗振信号及伝書鳩通信あり、其の起源は未之を詳にせずと雖或は云ふ今より約二百年前に於て紀伊國屋文左衛門が江戸に於て色旗信号を用ひて米相場の高下を示したるに濫觴せりと、而して安永二年徳川幕府は旗を振り其の外種々の相図を以て米相場を他所に報ずることを禁止したることあれば其の以前に於て盛に行はれたる事知るべきなり、其の始めは堤上又は山頂に於て信号したるものにして、信号手は三里乃至七里を隔て、配置し眼鏡を使用したり其の区域は西は兵庫、姫路岡山を経て広島、東は京都、桑名、四日市を経て津、南は和歌山に至れり、旗は大小黒白の二種ありて上下左右に振り数字を以て符号を示す又伝書鳩通信は同時代に於て行はれたるものにして、其の方法は鳩の足に相場書を結び付けて放ち遣りしものなり、されど旗振信号の如く狭く行はれざりしもの、如し

山の三本杉で受けて、これをまた同様の合図の旗で名古屋へ送った。名古屋では望遠鏡を用いてこの旗通信を受信し、商人たちは時を移さず馳れて歩いた。」

●「津市史第二巻」(昭和35年)の二九七頁には次のようにある(ルビを加えた)。文中の八町は現在の津市加納町辺りである。

「大阪相場の知り方 当所の相場は毎夜戌亥の刻頃(八時―十一時)に立会するを例とす之を如何んと云ふに江戸、大阪の相場状夜に入らでは到着せず夫故立会時刻斯く遅ると云ふ又うつりと云ふ事を行ひ当日の大阪相場を知り始め堂島の相場をくらがり時にてうつし夫より大和伊賀の山々へ取りつまり本部長谷山にて行ふを八町の某家へ取ると云ふ是は山頂にて旗を振る其の旗の振やうを望遠鏡にて見て高下を知るとなり」

●「吾津園」二編「白子郷土史後編」(白子郷土史研究会、昭和35年)は本誌60号で紹介したが、旗振り山についての記述部分を示そう(二〇九頁)。

●岡長平「岡山太宰記」(宗教社文庫、昭和5年)は岡山県における旗振り通信に関する情報源で、本誌63号で紹介した。一般に知られることは少ないので、一四四―一四五頁を引用しておこう(原文はルビとあるが、ほとんど省略した)。

其当時電信は、岡山の不思議なる存在であつたらしい。その時分に一番に電信でも利用しそうな筈の「板合派」の人達が、不経済と電信を考へるよりは、モット正確で迅速なりと主張して「旗振り」を推奨したと云ふから面白い。「旗振り」と云ふのは、堂島や兵庫で米相場が立つと、その相場をスグに旗を振つて知らせるのだ、それを遠眼鏡で見てもるものが、スグに復次へ旗を振つて知らせる、斯う云ふ具合にして次から次へと知らせる方法なのである。

堂島―尼ヶ崎―兵庫―須磨―黒金―龍野―赤穂―寒河―熊山―岡山橋本町以上十ヶ所、受次をやつたものであつたが、堂島から十五分ぐらゐで岡山へ来たそうであるから、馬鹿にならないものだ。旗は大巾二巾が定り、右廻りが十位で、左廻りが一の単位に大体極つたものだそうだ。しかし此信号方法は最も

◇旗振り山

江島町の北に遊園地として最もよい愛宕山、稲荷山、天神山があつて、又愛宕山の北に富士山がある。更にその北に丘がつづいて居るが、これは岸岡山である。この岸岡山は、大古の墳墓が重なりあつている。さて岸岡山の中程に東からよく見える小高くなつた旗振り山(二名見当山)がある。明治の中頃から桑名での米の相場を、朝日(三重郡)へ知らせ、朝日から日永へ知らせ、日永から高岡山(河内郡)へ知らせ、高岡山から岸岡山に伝え、岸岡山から上野の山(奄美郡)に通じ、上野の山から津に知らせた。これは旗の振りがたでその日の相場がわかると云う一種の旗信号で、陸軍、海軍のあつた頃の旗信号にやや似たものだが、旗はずつと大きく△三角形の小旗で、真鍮製の「とうめがね」と、時計と、旗が備品の大切なものであつた。今千代崎に旗振りという家もあり、とうめがねは浜中弥三郎さん宅に買いとって持って居られる。

●前文中にある河内郡と奄美郡はのちに合併して河芸郡となり、河芸郡と安濃郡

秘密を要するので、三日目には変つたものだと云つて居る。堂島の相場は、前場五節、後場四節の内に「歩み」と云つて幾度も少い相場が立つたらしいので、一日に何度と此旗相場の回数は定つてなかつた様である。

安政頃からあつたものだそうだが、遠眼鏡のなかつた以前は、夜火繩を振つて、続から続へと信号したものだと言ふ話だ。遠眼鏡は明治になつてからなので、しかも其筋の許可を得て、取引所の後援の下に立派な職業になつたのは、明治十八年四月十八日からである。その営業者は滝本町の小林文吉と云ふ人だ。尤も十八年までは、取引所と云ふものが、グラグラしていたので、従つて旗相場もなかつた筈である。

その旗相場は、明治三十二年に岡山取引所が天瀬から現在の場所へ移る迄、重宝なる通信機関として存続して居つたものである。

●「桑名市史本編」(昭和34年)の三九四頁には次のような文がある。

「会所で相場が落ちると、すぐ屋上に登り色々の鮮やかな旗を振り、それを多度

が合併して、現在の安芸郡となっている。
『鈴鹿市史第三巻』（平成元年）の「米相場と旗振り」には次のようにある（本誌60号）。

「米相場は米市場で、米の値段を予想して、延取引を行う一種の投機で、江戸時代各地の港、城下町で行われた。とくにその中心は大坂の堂島で、すでにこのころから、一刻も早く米値段を知って売買するため、飛脚以外の旗で通信する方法が行われていた。」

「明治時代に入っても、電話、ラジオもない時には、各地にこの旗振り通信が行われていた。伊勢の米相場は、桑名・四日市・津・山田などの米市場で行われ、大坂堂島を中心とした米相場とも連絡していた。」

「千代崎では、明治の中期から館善次郎という人が岸岡山でこれに従事し、『旗振り』の家と呼ばれていた。その真鍮製の遠眼鏡は、同地の浜中家に所蔵されている。」

「旗振り用の遠眼鏡（全長48㍉）浜中克巳氏蔵」（望遠鏡の写眞の注記）

●川合隆治「旗振り通信について」（三）

が設けられており、赤旗・白旗を大きく振って鈴鹿の山を通してくる大坂相場の桑名取引所に知らせ、名古屋・岐阜に送信する「相場旗り」が行われていた。」

●「桑名の民俗」（桑名市教育委員会、昭和62年）には堀田吉雄氏による「桑名の夕市」の項目がある。

四日市、津、上野、松阪にも取引所があったが、桑名の米市が最も有名で、実力を持っていたという。それは、十粟の津といわれた中世以来の歴史的背景があったからに外ならない。三大河川の水運という地の利があり、濃尾勢の米が、桑名へ流れ込んだのであった。

そういう大きな背景があって、桑名の米市は、天下一の名をとどろかせたという。俗語の「桑名の殿さん時雨で茶々漬」という殿さんも、松平さんではなくて、相場師のことであった。殿さんとも、將軍とも呼ばれた。

一攫千金の筈へ相場師のこととて、食生活も贅沢三昧であったが、それに飽きると、名産の時雨始で、茶漬さっささ、これが一番うまいわいといたという。

重の古文化第48号「三重郷土会、昭和57年」については本誌59号で詳しく紹介した。この文献にしか掲載されていない資料があり、古老からの聞き取り内容も重要である。ここでは、本誌59・60号では紹介できなかった記述を抜粋して紹介しておく（62号で一部紹介）。

「明治初期より大正四年頃まで見通しのよい小高い山の頂上で信号旗を振り、順次つぎの山へ情報を送る方法で、桑名の米相場を津、大坂の商人に通知していた」

「桑名取引所構内報知合林定次郎が米相場情報を電報で会員へ通知していたがその電報の暗号表（報知合明治三十一年版）を筆者は所持しているがこの報知合と大坂の報知社との関係は明らかでない。」

「県下で旗を振った人で分っているのは次の四人である。桑名では新築町松岡栄吉（平岡氏のお話し）、河芸町上野では別府信男（河芸郷土史）、岸岡山では千代崎の旗振りという家の人（白子郷土史）、津千歳山では川村のぢいさん（倉田正雄氏のお話し）」

「西羽見著『桑名の歴史』によると「取引所の屋上や附近から旗を振ると多度山

つまり、花柳界から生れた言葉らしい。

市場も、北魚町、殿町、吉津屋と転々したが、しまいには新築に移っていた。午前と午後と相場を立てたが、その他夕市という臨時に何回でも市を立てた。それが評判であったという。」

桑名市文化財審議会の初代会長だった杉山和吉翁は、この夕市の状況をよく知っていた。女たちが、桑名の殿さんの袖にすがりつき、しきりに「してくれしてくれ」とせがんだという面白い話を、しばしば聞かせてくれた。もちろん、夕市を立てて、一丁はらしてくれという意味だ。それを女らがいちからおかしかったのであろう。多分大正頃の話であらう。

また、杉山翁は、ドイツ製の望遠鏡を大事にしている、私などに見せて下さった。この望遠鏡で、手紙番号を読み取ったのだと語られた。

多度の二本杉に手紙送信所があって、名古屋の相場を知ったという。ノロシを揚げたり手旗を振ったりして、堂島の米相場を知らせたのであった。

この有名な夕市も、昭和六年に廃止となった。戦争の雲行きが激しくなってきたが、米相場などやっていられなくなった

から望遠鏡でのぞいて」とあり、平岡翁様のお話では「取引所のコールタールを塗った黒いへいのそとで振り多度を経て名古屋の広小路のビルの屋上へ」杉山和吉様のお話では「桑名新築町の北西角、現在もある桑名神社の御祭所の裏から多度山へ」といわれた。」

「その他生駒連山の晴峠の北に「旗振り場」という俗称名（昭和四九・五・二朝日新聞記事より）」

★筆者は、昭和49年5月2日付の朝日新聞を調査したが、当該記事は見当たらなかった。これは本誌61号で紹介した「きんてつニュース」第299号（昭和47年1月1日）の記事と一致する内容である。多分、日付が誤植なのであろう。

●多度町教育委員会からいただいた「史料 二本杉の相場旗り」という手書きの資料（年代不明）については59号で紹介した。その内容は次の通りである。

「史料 二本杉の相場旗り
二本杉（現在の展望台）において電信、電話の敷設されていない明治の初め頃、大坂、桑名、名古屋の間を遠く旗振りによって米取引所の米相場を通信する信号所

ためだ。

杉山翁は、カネチョウ將軍（櫻）とよく口にした。津にはオカハン將軍（岡平）がいた。米騒動の時に焼討ちされた。

●滝野町ふるさと研究青年部編『滝野町拾遺集1』（昭和50年3月31日発行）の9〜10頁には鳴尾山における旗振りの話がある（本誌61号参照）。なお、編集の滝野町ふるさと研究青年部（旧町青年団活動組織）は平成12年には組織活動はもう行われていないという。

当時加東米穀取引所は現在の社町田町の東方にあって取引所数は六カ所であった。

取引所名は

イ	井岡芳之助商店
ミ	平川 義正商店
ア	宮脇 亀治商店
タ	泰井 商店

（名前不詳）
他に二商店は不詳

当時米相場は、大坂の堂島でたてられ、そのニュースが各地方の米取引所に連絡されていました。勿論電信による連絡が出来ない時代でしたので、通信はすべ

て高台から高台へ中継していく旗信号だ
けでした。

加東郡地方では、印南部志方の城山か
ら鳴滝山へ中継されていたとのことです
が、その後(明治四十年頃)城山から直接
社取引所の橋へ中継されておりました。
信号用につかう紅白の旗は一間ほどもあ
る大旗で、受ける側の橋には俗に「めが
ね屋」といわれる望遠鏡で察知する係が
あり、相手の旗の振り方でその日の相場
を読み取り、取引所に通告しておりました。

相場の情報連絡は、一日(朝九時頃か
ら午後四時頃まで)十回程度で、一回に三
種類(当日相場と一週間、半月先)の通報
がなされておりました。

取引所内には、當時得意先の旦那衆が
出入しており、通報を待っておりませ
新しい通報がはいると店の主人が来店者
に告げ、その場で取引し、また他の得意
先へは雇人が得意まわりをして、売り・
買いの注文を聞いて店主に得意まわりの
結果を連絡しておりました取引所の経営
は、この売買によって、店が得意先より
一割の手数料を受け取り、運営をしてお
り、米客の昼食接待(仕出し)は当然店

が賄っておりました。
ちなみに、当時(明治四十一年頃)の一
人前の番頭の給金は月十五円程度で、雇
人(子権者)は月三円の給料でした。(後
略)

口述者 上滝野 藤本松太郎氏
井岡商店に勤務経験あり
●社町の郷土史家、上月輝夫氏の「米相
場と旗振り」(「ふるさとやしろ」社町老人
会)は加東郡教育委員会から戴いた資料
である。全文を紹介しておこう(本誌64
号参照)。発表年代は不明である。

米相場と旗振り 社二区 上月輝夫
大正三年(一九一四)まで、大阪堂島
の米相場の値段が白黒の旗(たまり一枚
分の大きさ)を振ることで社まで伝達さ
れました。大阪・西宮の甲山・六甲山・
須磨の鉢伏山・神出の雄岡山・志方の城
山・社へと伝えられました。社田町の法
蓮寺の西の一角に加東米穀取引所があっ
て、高いやぐらを組み、その上に望遠鏡
をすえ付け、志方の城山で振る旗を見て、
大きなブリキのメガホンで下へ伝えてい
ました。その当時、田町には五・六軒の

米取引店があり、「泰井商店」「井岡商
店」「宮脇商店」などが繁昌していまし
た。加西・多可・多紀・米上各郡から多
くの人々が商いに来て「大黒屋」「米達」
「肥田文」「都亭」「松葉」等の旅館に泊
り賑わっていました。

旗の振り方は、はじめの相図は「たて」
に二回振る。十四円三十五銭の振り方は、
十円が右へ一回、四円が左へ一回、三十
銭が右へ三回、五銭が左へ五回振ったと
いわれています。雨天や、もやがかかり
志方の城山が見えにくい時は電報を用い
たといわれています。私が加西市の二、
三の神社の石垣に「泰井榎之蒸」という
名を発見した時、明治から大正の初めに
かけて繁昌した米相場の様子をうかがい
知ることができました。「泰井榎之蒸氏」
は泰井安一氏の曾祖父であります。

★以上の通り、種々の文献を紹介した。
読者のお役に立てば幸いである。次回も
旗振り通信に関連する資料を紹介したい。
(つづく)

(平成14年1月6日成稿、10月20日追補)
(平成15年11月24日補訂)
*筆者のHPを参照されたい。

阪急夙川駅より

甲山桜行脚

コースとコースタイム 阪急夙川駅(10分)→西田公園(25分)→広田神社(15分)→湯澤寺公
園(30分)→鏡水橋(30分)→北山ダム(10分)→神坂寺(30分)→
甲山(1時間10分)→甲山森林公園(20分)→関西学院花通・甲東森林(45分)→阪急甲東線駅
(14分、徒歩約5時間)

西宮戎と甲子園、西宮の酒と夙川の桜
は有名だ。甲山周辺の桜行脚を阪急電車
夙川駅から始める。夙川の桜は夙川駅の
上流下流3kmの両岸に、ソメイヨシノを
始め2300本の桜がある。

① 西田公園「万葉植物園」(西田町)
夙川駅から阪急線の北側を600mも
東へ歩くと西田公園で、18000平方
mの公園は万葉植物園として有名であ
る。

阪大名譽教授の犬養孝先生が「万葉
集」にちなんだ植物72種を選び、植樹さ
れた花の木に万葉歌の説明板が添えてあ
る。私たちはメイン通路を通り各人まか

中村敏文

せに鑑賞したが、一木の説明板を1分
読んでも1時間半もかかる万葉公園であ
る。

② 広田神社(大社町)
西田公園から北へ越水町の清楚な住宅
街を抜けると広田山の東麓、御手洗川の
右岸にこんもりとした神社森がある。松
の大きさが並ぶ広い参道を行くと、鳥居の
奥に旧宮幣大社の広田神社が鎮座する。
延喜式の名神大社で平安時代の神位は
従一位に昇叙していた古社である。西宮
戎の旧東社西宮神社は平安後期建立の当
社南宮の地に発展した社である。
当社は摂津四柱大神の一社として格式

夙川堤の桜



高い伝統を維持する古社だが、県指定天
然記念物コバノミツバツツジの大群落が
人々を引きつける。現在の両面する真新
しい社殿は西宮空襲で全焼後の再建で、
話題の豊富な阪神球団も戦勝を祈願し、
昨年はリーグ優勝報告もしている。

『日本書紀』には神功皇后摂政元年二
月の条に、皇后が三韓遠征の帰途、「我
が魂をば皇后に近くべからず。当に御
心を広田園に居らしむべし」という天照
大神の教えを受け、山背根子の娘、葉山
姫を祭主として広田の地に奉祭させたの
に始まるという。これと同時に現大阪市
の住吉社、現神戸市の生田社・長田社も



鎮座させたので無事航海できたという。史実云々はさておきこの四社は港神・航海神として崇敬を受けていたという。平安貴族は和歌に靈感ある神として広田詣ををし、武士の世では源頼朝が社領を寄進したので鎌倉武符の崇敬を深め、豊臣秀頼と徳川四代将軍家頼も社殿を修復している。江戸中期の享保年間に広田

川氾濫の被害で現在地へ遷座している。延喜式記載の広田神社一座は天照大神荒魂の一神で、平安中期頃から西宮と記載された古文書が数点残る。平安末期に高皇産靈神・住吉大神・八幡大神・武御名方大神を配祀したので、西宮空襲までは五社殿にまつられていた。再建後は天照大神を中心に一社殿に祭祀してある。

西宮市の市名の由来を西宮戎神社に結び付けるが、平安期から西宮と呼ばれた広田神社の別宮、南宮の境内社から発展した戎神社であることは確かである。

③ 滝池谷公園 (須知谷町)
 広田神社から西へくだり、越水浄水場の満開の桜の通り抜けに入る。大正13年に越水浄水場が完成すると桜の植え付けが始められた。探博士と称賛される笹部新太郎氏の綿密な指導を受け、昭和30年頃には桜の園となり、市民の憩いの場となった。

④ 夙川堤・銀水橋 (夙川・甲陽園町)
 満池谷場を西に眺めて夙川堤の遊歩道に入ると、夙川両岸に桜並木が続く。数十年前で植えられている桜は二、三十年生が多く四、五十年生と推定される桜も混じる。満開の桜の下を歩き、対岸の桜並木を眺める散策は感慨無量である。桜花散る頃の夙川の花は、夜はすばらしいという土地の人の話を聞き、半時間近く川辺を散策すると、夙川短大の校舎が見え、遊歩道の終点銀水橋に着く。

手だけの休憩施設で昼食をとる。

⑥ 北山貯水池 (北山)
 北山公園から山陽新幹線の北側へ抜け池畔の遊歩道へ入ると、池畔の南下一帯は一面の桜で埋められている。花びらの一枚一枚がよみとれるほどの近くの板瀬戸内の町を包み込むような遠景の桜もよい。

⑦ 摩尼山宝珠院神呪寺 (甲山町)
 北山貯水池から東へ10分も車道を行くと神呪寺前に着く。形のよい半円形の甲山南山麓にある真言宗密宗系で、甲山大師と呼ばれる。20万平方尺の広大な境内の南端から開口の広い石段を上ると仁王門、その奥に本堂・大師堂・不動堂・護摩堂などの建物が並ぶ。本堂に安置の本尊如意輪観音と聖観音、不動堂の不動明王、大師堂の弘法大師像は国の重文である。

⑧ 甲山登山 (甲山町)
 甲山へは三筋の登山道が通じるが、私たちは神呪寺白髭大明神の横から登る。山頂へ最短の道というが、急坂の階段が続くジグザグ道で、10数回も息つきながら汗まみれで山頂へ到達する。健脚なら10分で登れる400m前後の山道だが、気温が高いので高齢者の多い私たちは半時間も費やした。

⑨ 奥立甲山森林公園から甲東園駅
 北山貯水池を離れ、神呪寺前を通り森林公園前バス停に出る。予定時間を超えたのでシンボルゾーンへ行き、愛の像や野外展示の彫刻を見学して上ヶ原浄水場へ回る。旧大師道筋を関西学院正門へくだり、ソメイヨシノが満開の学園花通りを抜けさせてもらう。上品な大学として定評のある関西学院は校内の植木までよく手入れしてある。桜並木の端は整備のゆき届いた甲東園林で、36種200本の桜が咲く頃はすばらしいという。北山貯水池から阪急甲東園駅までほぼ最短経路を伝って1時間の行程であった。

⑤ 北山公園「緑化植物園」(北山)
 北山公園は標高200mの台地にある80万平方尺の広大な自然公園で、銀水橋から西宮市緑化植物園へ上る山道に入る。段差不揃いの階段、急勾配の山坂も混じる山道が続き、ツツジ・カエデの多い自然林を見分ける余裕もない。銀水橋から小1時間もかけて植物園へ着く。園内の黒根付きの休憩施設はいずれも立ち入る余裕もなく満員。園内の一帯奥隅のベン

高野山奥の院へ詣でて

松永恵一

高野山
「天下の總菩提所」の名で、宗派にかかわらず納骨の霊場として信仰を集める高野山。高野詣をする人の大部分が納骨か供養を目的にしていることは、幽鬼のただようような、陰鬱な、かびくささのただよう奥の院の森が如くに物語っている。この山の暗い、湿った雰囲気は、祖霊と死霊のこもる霊場に特有のものである。このたまらなくて逃げだしたくなるような陰鬱こそが、高野山の魅力の正体である。

弘仁七年(816)、空海は高野山の下賜を頼頭天皇に願い出た。
「空海少年の日、好んで山水を渉覽しき。吉野より南に行くこと一日、更に西

に向かひて去ること兩日ほどにして、平原の幽地有り。名づけて高野と曰ふ」と。

願いを認められた空海は山中に庵家を設け、真言密教の根本道場として金剛界曼荼羅、胎藏界曼荼羅に基づいた伽藍造営に取り組んだ。
木津川・吉野の大河が泡を噛み、和泉・紀伊の峰々がそばだつ高野の霊場は、人々を惹きつけた。御堂関白藤原道長、白河上皇、鳥羽上皇、後宇多法皇、うやうやしく頭を垂れた。豊太閤は母の供養のために青巖寺(金剛峯寺)を建立、石田三成は奥の院に高麗版の一切経蔵、福島正則は六時の鐘を寄進した。
真言宗の本尊は大日如来。教典は「大

奥の院「高野山案内」



目録「金剛頂経」「理趣経」。人間の持つ限りない可能性を讃え、来世よりも現世を重視し、この世を密厳浄土と化すことを理想とする。さまざまな行の修法を通して、真理とする大宇宙と自己の小宇宙を観法によって一体化し、悟りの世界を達する「即身成仏」(生きながらにして仏になる)を目的とする教えである。

空海の入定

午前6時、石畳に足音が響く。奥の院維那を先頭に檀子という白いマスクをした2人が、御願と書かれた白木の箱を担ぐ。大師の食事である生身供が納められている。弘法大師御廟の前にある燈籠堂で箱を開け、ご飯を器に盛り食事をすすめる。大師は御廟で生きておられる。
天長九年(832)秋8月、空海は万燈万華会を厳修した。永遠の誓願として名高い「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、我が願いも尽きむ」の願文が読み上げられた。

承和二年(835)3月15日、空海は住まいの中院(龍光院)に弟子たちを集めた。二十五か条の遺詔状を渡し、入定の日は21日の寅の刻(午前4時ごろ)であると告げた。入定とは精神を統一し、静かに瞑想すること。その日から洞窟に籠もり、21日、精進伏坐し、大日如来の定印を結んで口に真言を唱え、生きるが如く入定されたと伝えられる。62歳であった。弟子たちは遺言により密勒宝号を唱えた。入定した洞窟の上には、三間四方の宝形造りの廟が建立された。弘法大師御廟である。

空海の姿

延喜二十一年(921)、醍醐天皇は空海に弘法大師の謚号を贈られた。この大師号の勅旨と御下賜になった袷皮色の香衣一着を持った東寺の長官観智僧正が、奥の院の廟所を開いたときの描写が「今昔物語集」に残る。

曾孫弟子にあたる僧正が、廟所の扉を開くと霧が立ちこめ真暗で何も見えなかった。霧が静まるよ衣が濡って塵となつて風に舞っているのが見えた。塵の舞うのが収まって大師のお姿が見えた。生けるがごとく座禅の姿をとっていらつしやう。ひげは伸び、髪の毛は1尺ばかりに伸びていらつしやうだったので、僧正はおそれかしくみつつ身を淨め衣を替えて、新しい剃刀で剃ってさしあげた。水晶の数珠の緒が朽ちて落ち散らばっていたのを拾い集めて、緒をすげて御手におかけ申し上げた。御衣を着せ替へ申し上げて室を出ようとすると、おもわず涙がこぼれた。

それより以来、毎年弘法大師の祥月命日3月21日には、正御影供と呼ぶ御衣を献ずる御衣替の儀式が行われる。御衣は翌年3月16日に新法印に下賜される。

消えずの火

弘法大師御廟の拝殿燈籠堂は、全国の信者が大師に献じた幾万もの燈籠が埋め尽くしている。燃えることない読経、御香の煙の中で静かに静かに輝いている。大師が入定されてから今に燃やし続けられている消えずの火。点し始めたのは長和五年(1016)のこと。祈観上人が、廟前の書香のうえに点じて燃え上がったものをそのまま燈明として献じたことから始まったという。

和泉橋尾山のもと、坪井の里の孝女お照が、自らの髪を売って、そのお金で、養父母の菩提をとむらうために献じた「貧女の燈」。寛治二年(1033)白河上皇が御参籠のとき、お手づから点された「白河燈」。一千年來消えることなく燃えつづけている「燈と、昭和天皇が平和を祈念して献せられた「昭和燈」を合わせた三燈は常明燈とよばれ、永遠に生き続ける弘法大師の生命のシンボルである。ありがたや高野の山の岩かげに

大師はいまだおはしますなる
同行二人、弘法大師と共に歩む。
南無大師遍照金剛
大師の法号を、繰り返して繰り返して唱える。



奥の院「高野法界内」

コース概観

弘法大師が入定された真言宗の聖地、高野山(標高約800m)。松輪山・楳柳山・弁天岳・摩尼山など1000以上の峰の八つの峰は八枚の蓮の花弁にたとえられる。「八葉蓮華」に囲まれた東西5・5km、南北2・3kmの山上盆地は曇茶羅をあらわす盆地。大門、壇上御堂、金剛峯寺、奥の院。今も人々を見守る御大師様を訪ねて出かけてみた。

南海高野線終点高野駅でケーブルカーに乗り換え高野山駅へ。接続している奥の院行きのバス終点で下車。裏参道から奥の院弘法大師御廟までの最短コースを歩く。

一の橋からの表参道は老樹の間に墓石が林立し、冥界を思わせる雰囲気がつつむが、裏参道は新しく開かれた公園墓地の中を通っている。入口両側に並ぶ白い塔婆状の杭は、俳句が書かれている。新明和工業のロケットの出迎えを受ける。しろあり供養碑。「しろあり やすらかにねむれ」。お馴染みの福助、大きなストゥーバ。作業着を着たブロンズ像が立つ日産自動車記念碑。与謝野晶子歌碑。やはははのあつき血潮にふれも見でかなしからずや道を読む君

巨大なコーヒークップの上島珈琲。阪神淡路大震災物故者慰霊碑。そっと手を合わせる。第二次世界大戦戦死者供養英霊園。掘り出された小さな石ばとけをうず高くピラミッドのように積み上げた無縁塚。木の根元に置かれたお地蔵さんや五輪塔。頭巾やヨダレかけがかわいい。御供所では、御廟に住む大師の食事の支度をしている。生身供と呼ばれる温か

いご飯とお汁、季節の野菜をつかった御膳が1日2回、燈籠堂に運ばれる。納経所。味見・毒味をしていただく嘗試地蔵尊がまつられている。

炎天の空あしや高野山 高浜虚子
玉川は禊の場。水行場では、一心に殺若心経を唱えておられた。罪念を払い自らの身を清める厳しい修行だ。水田地蔵に手向けて水をそそぎ、亡き人々の冥福を祈る。

玉川に架けられた御廟橋を渡り、弘法大師の霊域に入る。御廟橋の36枚の橋板は金剛界三十七尊を表し、裏面に梵字が刻まれている。大師が迎え見送られる場所であるので、合掌一礼する。石重丸が父道心と初めて出会った場所でもある。御廟橋の左側の川床に卒塔婆が立てられている。流水滝頂は水難で亡くなった人の霊を供養したり、魚類を利益したりする。参拝者の心を浄めてくれる清流には毒虫伝説がある。「続紀伊風土記」は、空海が山中の毒虫を玉川源流に封じ込めたため、川水に毒気が混じるようになったという。

右側に英照皇太後の宝塔、春日局供養碑。左側に弥勒石。触ることで弥勒菩薩

と縁を結ぶ。笠地蔵尊。袖籠は霊元以降孝明天皇に至る歴代の皇族方の宝塔や爪塚が並ぶ。正面の高い石段を登ると燈籠堂。8月13日は、奥の院万燈供養会(ろうそく燃)。10万本のろうそくがいつせいに点火される。精霊に手向けられた炎が漆黒の奥の院を光の世界にかえる。左に出て御廟へ。六角形の建物は納骨堂。香煙の絶えることがない御廟の拝所。香煙に御大師様の御姿や御言葉が求め祈る。経蔵は重要文化財。石田三成が高麗版一切経とともに寄進した。堂の右側の老杉は樹齢約五百年、天然記念物に指定されている。

御廟橋で御大師様に別れを告げ一の橋までの2キロの墓原を歩く。ただひたすらまっすぐに天に向かってのびた杉の木。空を覆い尽くす杉木立。ほの暗い参道の両側に延々と続く苔むした藤塔や墓



- ① 高野山御大師御廟
- ② 水田地蔵
- ③ 春日局供養碑
- ④ 石
- ⑤ 高野山御廟
- ⑥ 高野山御廟
- ⑦ 高野山御廟
- ⑧ 高野山御廟
- ⑨ 高野山御廟
- ⑩ 高野山御廟
- ⑪ 高野山御廟
- ⑫ 高野山御廟
- ⑬ 高野山御廟
- ⑭ 高野山御廟
- ⑮ 高野山御廟

石。その数はじつに20万基に達するといふ。歴史の群雄が静かに眠る。右側に織田信長供養塔。石段を登った所に豊臣家墓所。玉砂利を敷き玉垣をめぐるした墓地に五輪塔が一行に並んでいる。重要文化財の越前松平家石廟。外壁に不動明王、毘沙門天、菩薩像などを浮き彫りにした石造建築。徳川家康が次男秀康のために建てた。左側に秀吉の深い帰依を受け高野山を今日に保護した木食上人の霊窟。芭蕉句碑は自然石に池大雅が書いたもの。父母のしきりに恋し地の声

杉木立にこだまする哀切な鳩の鳴き声を聴いていると、今は亡き父母がしきりと恋い慕われる。

高麗陣敵味方戦死者供養碑は、羅摩藩王島津義弘によって、朝鮮役における敵味方戦死者の霊を慰めるため建立された。中の橋のたもとに楳柳板がある。大師と関係の深かった楳柳天皇が崩御されたとき、御棺が空を飛んでこの板の木にかかっていたという。汗かき地蔵。姿見井戸。自分の姿が映っていますか? 重要文化財の上杉謙信堂は彩色豊かな木造入母屋造り。佐竹義重堂は、47本の木製の五輪卒塔婆を並べて建物の壁体を構築する。平致部墓手前に中山義秀の句碑がある。在りし日のかたみともなれかけららふ塚山口誓子の句碑

〈山のレポート〉
山の地名を歩く⑧
「高見山」
たかみやま
西尾 寿一

高見山と高見峠は、近畿地方でよく知られた三峰山と共に冬期は霧水の交しめる山として人気が高い。

このような有名な山の地名の解説を試みることも白痴に思われるかもしれないが、あえて、この疑問？に挑戦してみたいのである。平凡で単純なように思われて案外内容の複雑な様子が垣間見えているように手強そうである。

高見山は台高山脈（大台ヶ原と高見山を結ぶ山脈の意）の北端に位置し、1249呎の山はこの付近で突出した突峰であり、この山の北側は急激に落ち込んで室生の低山へ吸収されてゆく。高見山の南側には約350呎も落差をもつキレットがあり、同名の高見峠が大和と伊勢を結んでいる。

参勤交代で紀州藩が使ったり、伊勢参宮などで極めて重要な意味をもっていた。

を越えて人夫から多くの話を採集して「高見山近傍の口碑」に収録し、貴重な資料となった。

その文中に伊勢大神宮と春日社との間の領地争いを思わせる部分がある。しかし高見山は伊勢と大和の水分（水分界）であって、昔から政面として移動不可能な状況にあったから、この話は春日側（中臣氏のち藤原氏）の勢力の強大さが伊勢をも圧迫したことを物語るものといえよう。

さて筆者が標点を打った「越前」である。これは「越前」で高見山の別称とする「塞面山」とも同じで、境界を塞ぎす意味だから同じ境界でも厳しい郡類に属し、たぶん幕政時代には関所が置かれたのだろう。このように考えると、伊勢と大和の関係や、海拔900呎もの厳しい峠を越える必然性をもつ人たちが大勢いたことなどから、この山と峠の性格が浮きぼりになってくる。高角山・塞面山などが最も実態に近いが、それならなぜ高見山が流通したのか謎である。

そこで高見山の位置づけを考えてみたい。大和と伊勢の境にあって大和が伊勢を経て東国経営に乗り出す時期、この山

地形が厳しくとも利用の必然性は困難を越えていたのだ。

高見といえ、それはだれが考えても、物見・国見の山を思い浮かべる。四辺よりずば抜けて高い山頂からささざるものない眺望が得られるならば、その特徴を最大限生かす物見の性格、つまり軍事的望楼と通信的機能を合わせもつ極めて重要な施設といえる。

ところが、前出の物見・国見や、わが国の海岸地帯の山に多数設けられた海防関係のものはやや趣を異にしている。九州の離島や沿海に多い遠見岳・番所山などは海防のほかには漁獲の見張り所が含まれている。戦闘用の見張り台とも違う高見という表現は、明らかに国見山とも異なっている。

実は、高見山は全国に多数あるとみていたが、「コンサイス山名辞典」(三省堂)でも2例のみで、高峰(山)が14例あるのと対照的である。このあたりに高見山のもつ性格が隠されているように思われる。

これとは別に「高」を鷹につくる山名もある。漢字によって判断が左右させられるおそれも存在する。特に、高峰・

の重要性が一段と強まったと考える。伊勢から馬を走らせれば一日で大和へ通報が届くとすれば、山から山へ「ノロシ」や旗による通信の必要度は薄いと考えがちだが、実際はそうではない。

のちに米相場を知らせるのに、大阪堂島から白旗による伝信・名古屋へと通信があったという。大正時代、望遠鏡で手旗信号を送る人を見た人もあるくらいだから、この方法はアナログではあるが信頼する人々が超えたのだ。

もう一法はノロンである。これは歴史が古い。地名学者の池田末則氏は奈良の十三塚は元は「烽」でその基壇のことをトビ塚からトミ塚となり十三塚となったと述べている。

さらに「日本書紀」の天智天皇三年(664)に「防と烽を置く」とあり、半島情勢から都を近江へ移す前兆とも受け取れる緊迫した空気が感ぜられる。

さらに「続日本紀」和銅五年(712)には、「河内國高安峰を築き以て平城に通ぜしむ」とあり、「万葉集」には「射駒山飛火が嵐に疾の枝を……」とある。春日峠は現飛火野と関係が深いし、

高山などのうちいくらかは鷹に該当するものがあるが、ここではこれらを一応抜き、高見山と高見峠について考えてみたい。

先の「山名辞典」は「万葉集」のうちの和歌を採り上げて地名由来の一つとしている。「昔妹子をいざ見の山を高みかも大和の見えぬ園遊みかも」(石上原)、筆者が標点の部分が山名由来としているのだが、「日本山嶺志」は「去米見」を山名として否定する文獻「勢陽五路遺賢」を採り上げている。それは「延喜式内高兩神社山嶺二座、今ノ高見明神是ナリ、故ニ高角ト称ス、俗説ニ蘇我入鹿臣ヲ祭ルト云ハ非ナリ、然ルニ高見ハ俗稱ニシテ名ク高ナルヘシ、今ノ高見嶺ハ高角山ニシテ去米見山ニハ非ス」とあり、確かに去米見山説を否定している。また、文中に蘇我入鹿を山頂に祭る記述は高見山と多武峰との背競べ伝承によるもので、そこには蘇我と藤原(中臣)の氏族間の争いの一端がぞいでいて単純で素朴なものではない。多武峰の藤原鎌足を祀る立場が強く反映したものであった。

宣長は高見峠を越えていて和歌を詠んでいるが、柳田国男も荷持人夫と共に峠

「古今集」に「飛火の野守」とあるのは烽の役職にあった昔の存在を示唆しているという。高見峠は現在の生駒山と考証されているようで、都の周辺には多数の烽火があつて通信の早さを競う現在と何ら変わらない。烽は昼間は煙を使い、夜間は火を使つたといわれるが、くわしい技術は残されていない。

また遠都に於いて烽火も変わった。高安城の烽は藤原京から難波へ、高見峠は平城京から難波へ、杜山(現男山)は平安京と思われる。天智帝の近江遷都の折には杜山のほかにどの山に烽火置かれたのかは不明であるが、おそらく京都の東山の一峰が烽火であったことは確実のようだ。

烽火には通常13人の用人で構成されていたようで奇しくも十三塚と付号する。さて高見峠の件である。この烽はずいに生駒にあつたと考証されているのだが、他の烽がそれ以外の地名を名乗っているのに、なぜ生駒峰(射駒)とせず高見としたのか疑問である。生駒山の別称に高見山があつた可能性はないので、おそらく「高見」の称は特定の固有名詞でなく、「雲山」のように尊称に近いものだった。

た可能性が高い。

先にあげた「万葉集」にも「高み」と「遠み」が出てくる通り「み」は美で美称(たたえる)の意で「高」が実態である。高く見映えのする山なら「高見」の名称は受けられる資格があるのである。そこで高見山が、古代の人々にとってどんな性格の山であったかが問題となる。

高見山と背鼓べをした伝承をもつのは藤原鎌足の墓のある多武峰である。標高も山の風格も段違いの両山が背鼓べをしたことは、背鼓べという伝説に似せて別の深い関係を想起させる。そこに大和と伊勢の通信の必要性が隠されているのかもしれない。

また万葉時代に天皇の狩場であった宇陀は、大和にとって極めて重要な土地で、伊勢境の高見山と飛鳥の中間地点である。この地で人麿呂は「ひむかしの野にかぎろひの立つ見えてかえり見すれば月かたがきぬ」の和歌を詠んでいる。人麿呂は未明から狩の準備に忙しいなかで、東の高見の肩からあがる「かぎろひ」を見、返す姿で西の残月を見ているのである。当時において高見山がいかに重要な存

在であったかがわかる。現在この地は万葉の丘として毎年「かぎろひ」を見る行事が行なわれ賑わっている。

結論を急ぐ。「日本山嶽志」には別称として高角山の他に高倉山をあげている。この名もおそらく高見明神の別名とみてよいので、残るのは「高角山」が最もふさわしいものとなる。

しかし、高角社はなぜ高見明神になったのか、山頂と峠の関係はいかなるものかの説明がない。

高見山が最も美しく見えるのは大和宇陀である(舞田は吉野川下市)。その地から山名が生まれたとすると、大和の角(隅)で塞目となるから、高角(隅)はいずれの角度からも残ってくる。それが近代風の高見となったのは、それ相当の理由が必要である。証拠があるわけではないが、小生の直感を率直に表明するならば、おそらく峠を越える旅人の実感だったのではあるまいか。それは伊勢側から(舞田も喜長も)峠の飄々たる野景の彼方に大和の国を望見したときに発せられる安堵と希望と歴史への畏敬、それに絶対的な標高の獲得による異国への期待が一度に彼を高揚せしめた結果だったのだと

思われる。

従って高見峠が先にあってそれが山名に転化していった可能性を検討してみる。値打ちはあると思う。

さらにこの説を補完する別の状況証拠がある。それは「高見」が、高所からの眺望にかかわる独自の立場だけでなく、その山(特別な存在としての)を特定の低所から望見する立場をも意味しているのではないかと、いうことだ。

高角の神がなぜ高見山に祭祀されたのかの謎と連絡するのだが、神武帝が熊野から北上して宇陀の地へ到達する。宇陀の地は遠征軍にとって特別な土地であり、大和を支配する足がかりとなった土地であった。その土地から東に高見の連山が鮮かに見える。高角神(神武軍を先導した八咫鳥)をその山頂に祭祀したのも、「かぎろひ」の現象を体験したのも、宇陀の土地が特別な土地で神武勢に深い影響をもたらした結果ではなからうか。

神武勢が伊勢から高見峠に達し大和の眺望をしたのでなく、宇陀から高見山を見上げ「かぎろひ」を見たことによる「高見」であった可能性を提示しておきたいのである。

〈山のレポート〉

遭難は人ごとではない

山本 久雄

登山中に最も出会いたくないものがクマですが、あと一步という危険に遭遇したことがあります。登山中は「あれっ?」とか「何かおかしいな、やめようか、まあいいや、何とかなるだろう」程度の軽い気持ちで、自分のおかれている状況がそんなに危険と隣り合わせという感覚は全くありませんでした。しかし時を経て振り返ると、よくぞ無事で帰れたものと冷や汗を出しながら反省しています。一步間違えば遭難していた山行の話など普通は恥ずかしくて発表できるものではないのですが、新ハイ会員の参考にもなればと思います。一文をしたためました。コーヒープレイクにでもご笑読ください。

谷川連峰の松手山コースから登り始め、平標小屋・蓮峰小屋で泊まり、アルプスのような景色に見とれ、途中の避難小屋

を通過する度にかつてそこで起きた悲劇を思い浮かべながら、谷川連峰の山歩きを堪能して以来、すっかりこの山城の虜となりました。

通い始めて3年目のこと、マチガ沢下部(巖剛新道)を登り、谷川岳(一)の倉岳(蓮峰)湯掛谷川(下山)という計画で出かけました。いつもは盛夏に出かけますが、この年は梅雨前の残雪を見たいと思い、6月を選びました。

マチガ沢へ入り、途中から巖剛新道に取り付きますが、クサリ・ハシゴが多くあり、とても急な登りです。駅から3時間ほどかかってやっと西黒尾根道へ出て山頂を目指しました。それまでどんよりとしていた空に大きな雷鳴が響きました。どんどん暗くなり、雷鳴が近づいてきます。「これはマズイ」と思ったと同時にたたきつけるような大粒の雨が降り始めました。巖剛新道との合流点から上部は雨を避けられるような樹木はありません。雨具をつける余裕もなく急いで近くの岩陰に逃げ込んだのですが、雨を避けて見えるマチガ沢やシンセン沢があるみるうちに今までなかった流をいくつもかけ始めました。岩壁である谷川岳は雨が降れ

ば水分を吸収できなくてたちどころに流れ出すようです。雷鳴と雨の中でその様子を見ていましたが、雷鳴のき雨も小降りになった時は全身ずぶ濡れで頂上を目指す意欲も気力も萎え失せ、そぼふる雨の中、何も考えずに急な巖剛新道をくだりました。後から思えば西黒尾根をくだったほうがはるかに安全であったのに……。すさまじい稲光と激変する景色に少々動揺していたのでしよう。

その夜は「土合山の家」で泊まることにしました。同宿者に登山客はなく、ヘリコプターを使ってスキーリフトや送電線を監視する仕事関係の人ばかりでしたが、その中で「きょうの雷はすごかったなあ」「一合の倉沢から上流はクマがいっぱいいる。ヘリからよく見えるよ」「一年ほど前に芝倉沢で行方不明になった登山者はこの前見つかってさうだ」「アレンにやられて引きずりこまれたらしい」「だからあのコースは閉鎖しているようだ」などが耳に残りましたが、会話に入る気力もなく寝ていたのでとビールのおかげですぐに眠りにつきました。翌日はうって変わって快晴となり、心

も軽く山岳センターで登山届けを提出した時、何気なく芝倉沢の雪渓の残り具合を確かめました。係の人は「今年は雪渓の状態は大丈夫ですよ。途中で切れてはいませんが中芝新道はねえ——」とあまりよい返事ではありません。しかし緊急時以外は通るつもりはないので予定のルートでの登山届けを提出し、うきうきと西黒尾根を登り出しました。

途中、上越国境の山々、オジカ沢の幕岩、雄大な万太郎山、一の倉沢のルンゼなどに見とれていたため、一の倉岳到着は予定より一時間以上も遅くなっていました。このまま逢時を越えて行くと予定していた電車で遅れそうです。その次の電車までは長時間待たねばならず、夜行列車に乗ることが難しくなります。1日の予備日をとっていたので逢時で一泊すれば何でもないので何を急いでいたのでしょうか、中芝新道をくだれば遅れを取り戻せることに気がつき、早くくだることばかり考えていたようです。「ガイドブックによれば芝倉沢の雪渓は傾斜がさほどでもなさそう。山岳センターでは雪渓は切れていない」といっていた。アイゼン・ビッグセルとも持ち合わせていないがステッ

プカットで何とかなるだろう」と、予定のルートを変更することにしました。

しかし、山頂にある道標のうち中芝新道と思われる方向を指しているものはノコギリの切り口も新しく切り落とされていり、ありませんか。「あれっ?」いやな予感がしたのですが「まあいいか」と安易な気持ちでくだり始めました。このときは前夜の話など思い浮かびもしなかったのです。

堅炭尾根へと続くこの踏み跡は、右手の名だたる崖の上縁をたどる急な下り、瞬く間に一の倉岳の山頂が遠のいていきます。わりあいにはしっかりとした踏み跡を20、30分もくだった頃でしょうか、妙な胸騒ぎを覚え「やめようか」と思いましたが、見上げると稜線ははるかに遠のき、幽の沢からはクライマーの掛け声も聞こえるので「大丈夫だろう」と、引き続き急な堅炭尾根をくだりました。やがて踏み跡は屹立する岩峰を避けて左手の急斜面を芝倉沢へと急降下します。このあたりから怪しくなる踏み跡は途中までは何とかたどれましたが、背丈ほどもあるササ原になる所で見失ってしまいました。急傾斜のうえびっしりと生え込

んだササで足元はズルズルと滑り転がり落ちそうになりながらも何とか雪渓までくっついて雪面にのりましたが、人が通った形跡は全くありませんでした。登りにとれば雪渓からの尾根にある踏み跡へ登り着くのは容易なことではないと思われしました。

雪渓はそこそこの傾斜でしたが、この程度ならステップカットで十分くだれると判断し歩き出しました。しかし途中ブルジュと覚しき所で一段と傾斜が強くなり、ビッグセルもアイゼンもない状態で「何とかなるだろう」とステッパのみで慎重にくだります。左にクレバス右にシュルンドが大きく口を開けていましたが、スリップすることもなく無事通り過ぎました。このときも時間が気になり、周りの危険な状況がよく理解できていなかったと思います。いったんスリップすれば100%間違いないくクレバスの中へ消えたことでしょう。

やがて清水峠への旧道視路に出ました。この道は雪崩であちこちが飛ばされ一部

分は地図から消えてしまった道です。コヒーでも飲もうと湯を沸かし始めたのですが、気がつくのと近くの岩の上には放置されて時間が経つ様子のスニーカーが二足きちんと揃えてあり、そこには遭難碑が埋め込まれていました。

太陽は明るく差しているのですが何となく背筋が寒くなり、沸き上がった湯を捨てて大急ぎで荷をまとめ出発しました。すると右手山の中から大型犬の鳴き声によく似た動物の音がします。「犬かな?」と思つたのですが、その考えは全くの見当はずれであることがすぐにわかりました。下の谷から大きな動物が急いで駆け上がってくる気配がしたので、もちろん二本足ではありません。一瞬うろたえました。どうしようもないのでそのまま前を向いて無関心をよそおいひたすら歩きました。その動物は私から少し距離を置き平行して動いています。バリバリと小枝を折りながら歩く足音からするとシカのような軽快なものではなく、ノッシノッシとかなり重量のある動物のようです。生きた心地もなく頭の中は真っ白で呼吸も動悸も感じません。「走るな!」それだけを念仏のように唱えながら歩い

てゆくと小さな流れがあり、それを飛び越えた時なぜか「アレのテリトリはここまでだ!」、確信に近い思いが頭をよぎり、思い切つて振り返って見ると思ひ大きな背中が斜面をゆっくり上がってゆくのが見え、根元が雪の重さで曲がった直径10センチ位の木々が斜面の下から上へと順番にユッサユッサと揺れています。ぼんやりとその様子を見ていましたが、気がつくとその鳴き声は聞こえませんが、そのとたん意識したわけでもないのに脱兎のごとく走り出しました。背中がザックの重さも地面を蹴る感覚も全くありません。まどろっこしく夢の中を走っているようでした。(急兎のごとく)とか(足が地に着かない)とはこのことだと始めて知りました。

走って走って虹芝原の降り口にマイクロパスを見つければとして気が抜けてしまい、走るのをやめたのでした。一の倉沢出合のざわめきも人ごみにしか思えず途中1000人近くの名前を刻んだ慰霊碑を通り過ぎ、土合駅でトンネルから出てくる電車の「ブアーン」という警笛を聞いた時、「ひょっとしたらあの慰霊碑に自分の名前が入っていたかもしれない。

でも間違いない生きています」という実感が体のなかを駆け通り、あれほど怖かったことがおかしきもあり、こんな不思議な感覚は今まで経験したことのないものでした。あの背中の黒い大きな動物は何だったのでしょうか。

帰りがちから読み直した遭難関係の本の中に遭難救助隊員の言葉として「遭難する人は水が流れるように下へ下へと降りてゆく。なぜ踏みとどまらないのか、なぜ引き返さないのか」という一節が目にとまり、まさしくその通りだ、と恥ずかしくなりました。

いやな予感や胸騒ぎを何度も覚えながらもとどまることも引き返すこともせず物理的・精神的に安易なほうへと流れていったこの山行は冷静にみれば全く冷や汗もので、幸運に恵まれあと一歩を踏み出さなかつたことに感謝しています。この時から山に対してより敬虔に慎重な気持ちで扱ふようになりました。

以来、谷川岳には足を向けていませんが、あれからかなり時間も経ちノドもと過ぎれば何とやら……。またあの山城を歩きたいと思っているきょうこの頃です。

〈山のレポート〉
〈山・詩・夢〉

若狭富士青葉山

紀平 龍雄

青葉山その名に叶う峠風

季語は青葉で、夏。固有名詞に季語の役割も負わせている。「青葉」は「若狭」と同じだが、季節的に若狭よりいくぶん夏に開いた感じがする。と歳時記にある。暑い夏、汗を流らせながら、や々と峠にたどり着いた。折から一陣の涼風が顔を撫で、ここまでのアルバイトをねぎらってくれる。峠風であり青葉風である。木々も青々と繁り、やはりここは青葉山だった。初夏らしい青葉山への挨拶句。

ずっと以前、「越前竹人形」を読んでいた。著者の水上勉はてっきり越前(福井県)の人とはかり悪いこんでいた。ところが越前、この人の出世作『霧と影』を読む機会があり、同じ福井県でも若狭の出であることを知った。橋の木峠や木の芽峠などを境に、福井の北半分が越前であり、南半分、と言うより、福井県に

南半分はなく、西半分と言ったほうがいいだろう。そこが若狭。昔は別の国だった。ところがその『霧と影』の舞台は若狭、それも青葉山(699M)である。小説では青葉山になっているが、「若狭富士」とも言っているから、青葉山に相違ない。

『霧と影』をきっかけに水上勉の作品を少し読み進めた。北陸地方、とりわけ若狭を舞台にした作品が多いのに驚く。故郷への愛着が強いのだろう。若狭の貧農の次男は口減らしのために10歳で京都の禅寺の徒弟になった。以降、若狭を重ね、17歳で寺を脱走する。それから後、京都および東京で数十の職を遍歴し、40歳でやっと小説家として認められるようになる。わずか10年しか生活しなかった、それも喜び少なかっただろうに、なぜ故郷を舞台にした作品がこれほど多いのか。貧しかった、短かったがゆえに、父母の懐に抱かれた日々が温かく思い出されるのだろうか。

森鷗外は死の直前、「余ハ石見人森林太郎トシテ死セント欲ス」の遺書を残した。軍人としての肩書きも文人としての筆名も不要、ただ一人の石見人としての

暗くて、重い青葉の山がふるさとなのである。

青葉山は名前の清々しさに惹かれて登った。古い登山手帳を引っぱり出して見ると、1995年7月2日(祝)、義姉と妻と3人で登っている。

中山寺からスタートし、東峰―西峰を踏み、松尾寺に降りた。細かい時間なども書かれているが、最後に総括的にまとめられている。

曇り、夕刻より雨。天候で展望を心配したが、すぐ真下に青い若狭湾が広がっていた。船場、岩場など、変化あり、スリルもある山。ササユリ・ヤマボウシ・ギボウシ・タツナミソウなど、その時期の花の豊富さが思われる。

青葉山その名に叶う峠風

ところでこの「青葉山その名に叶う峠風」の句だが、作者名が記されていない。登山途中のどこかの掲示板か句碑にでもあったのか、あるいは気分がいいから思わず私の口から出たものか。作者不明である。句碑にあったものとすれば、なか

なかに初夏の青葉山の香りがする句だと思われる。しかしそうではなく、もし私の口をついて出たものだとすると、急に雅拙さが目につく。

福井県の北半分越前には越前富士がある。武生の日野山である。795Mだから、若狭富士の青葉山より100Mほど高い。万葉の歌人にも歌われ、JR北陸線からの眺めはなかなか魅力的である。その優美さに惹かれて登ったのは2001年7月下旬。夏の真々盛りの炎天の日だった。木陰の少ない直登の新道を登ったせいだろうか、しんどさだけが印象に残っている。(2003年5月22日歩く)

峠をくぐりぬけて、吉坂峠を若狭に入る境界に「松尾寺」という小駅がある。山はここらあたりから山容をととのえて、北にのびる。

海拔六九九メートル。山頂は三つの峯が屹立しているが、眺めは次の駅である「青葉」にさしかかるころから次第に変貌しはじめ、「高浜」の車窓からみると、崖面を半すぼめて逆立てた形になってうき上ってくる。

若狭富士といわれるのはこの眺望をいったのだろうか。……しかし、いずれにしても、若狭二十里のリアス式海岸をゆく小浜線が「松尾寺」から車窓に見せる青葉山の変貌ぶりは見事というはかばかではない。

子供のころ、私は、青葉山から白砂のつづいた海岸を十二キロほど東に行ったところにある若狭本郷という村に育った。入江が夕陽をうけてちりめん織の小さな波立ちをみせている頃、入江を黒くかげらせてうつつっていた三角形の青葉山の容姿は、子供心に一幅の額にはまった絵と思われた。私の望望のネガティブは、一幅の青葉山だったといってもまちがいはないようだ。

死を欲したのである。医学の勉強のため11歳で上京し、鷗外はそれ以降一度も故郷の土を踏むことはなかった。にも関わらず死に臨んだ鷗外の心には故郷石見(鳥根郡)が強く意識されていた。鷗外にとって石見は津和野である。しかし数多い彼の作品で津和野が少しでも描かれているのは「イタ・セクスアリス」ぐらいである。軍医として最高の地位に登りつめ、公私ともに超多忙であったということもあろう。故郷を訪ねることの術いがあったのかもしれない。水上勉と違い、出郷までの境遇が武家の子である鷗外は恵まれていたからだろうか。そう言えば同じく出郷まで恵まれなかった石川啄木に「ふるさとの……」の歌が多いのは水上勉と同じだ。不遇の少年時代は故郷への思慕を強く募らせるのだろうか。

水上勉の故郷の思い出は幼い日に眺めた青葉山に象徴されている。「青葉山」という、叙情詩のような紀行文がある。次のような書き出しで始まる。

若狭の西の端は青葉山である。

この山は若狭と丹後(京都府)に跨っているが、東舞鶴から登り坂になる山

特選コースガイド①

湖北

(里山シリーズ2) 木之本

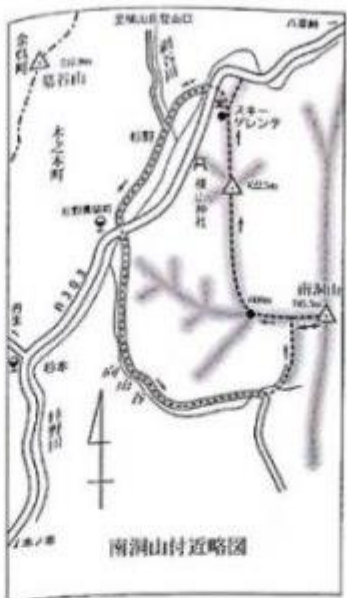
湖北の名山を展望する

南洞山

一般コース(★)
長宗 清司

滋賀県木之本町は、古代より仏教文化が栄えた所で、豊かな自然の移りゆく湖山の四季の彩りが美しい。

J R木之本駅から東北へ、国道303



南洞山村近略図

号線は滋賀と岐阜の県境にある八景峠に向かうが、高時川沿いは道筋のある川合・古橋を通過する。右手の己高山には仏教千年の歴史が漂う修験行者の山道、鷺足寺跡へのハイキングコースなどがある。秋ともなれば紅葉の美しい境内の遊歩道を散策できる。

バスは金居原に向かう。途中で、上丹生から墓谷山と田島原山の鞍部(丹生峠)下の丹生トンネルが出会う杉本集落を通り、やがて杉野集落に着く。杉野は、湖北の名山横山岳と墓谷山(杉野富士)への登山口でもある。

今回は、杉野川の左岸、国道沿いにある横山神社と小・中学校の裏山である南洞山から横山岳を望むことにする。

横山神社は、横山岳に降臨した大山板命を経ヶ滝の上に奉祀し、すきくら社と称した。天徳元年(957)に合祀していた馬頭観音を高月町に移し、永享十一年(1439)本社を宮ノ内に遷座した

杉野農協前を出発。杉野川を渡って南西の向山谷の林道に入る。集落の外れで振り返ると集落の背後に円錐形の墓谷山と、その尾根続きに双耳峰の横山岳が堂々とそびえている。

15分も歩くと畑跡がある。季節によっては野草摘みができる。ゆるい上りの林道が地図でも確認できるヘアピンカーブに差しかかると、左へ小谷沿いに山道がある。

山道を1000m程で小谷が二分する。道は不明瞭だが二股間のやせ尾根を登ろう。主尾根までの標高差350mを、何回か休憩を入れて登る。途中は杉が植林されていて細々ながら袖道ともいえない踏み跡が続く。赤いプラ杭も点々とあり、主尾根まで通んでくれる。

主尾根のT点に出て右へ、まず南洞山の三角点(3等・745・3m)に向かう。灌木帯で杉林越しに、横山岳と土蔵岳が横一線に鞍部を決んで望め、冬期はこれらの背後に真っ白に冠雪した三隅ヶ岳(1292m)が頭だけ見えている。頂上直下を急登して、杉林の明るい南洞山の台地に標石を確認する。

帰路は、再び先ほどのT点を通過し、

このままイワウチワやイワナシの花を見てゆるやかな長い美しい尾根をくだる。途中の4等三角点(422・5m)は大きい松の根元にあり、少し探索が必要である。

最後は、雑木をかきわけて尾根先まで出るか、左手に冬場の学童用のスキーゲレンデを見ながら急斜面をくだって園道に出る(脱園必要)。

(平成16年4月6日歩く)

Aコースタイム

J R木之本駅(バス25分) 杉野農協前(15分) 向山谷(30分) ヘアピンカーブ地点(5分) 二股谷(1時間) 主尾根T点(30分) 南洞山(15分) T点(45分) Δ422・5m(30分) 国道(25分) 杉野農協前(バス25分) J R木之本駅(同じ合わせ先)

木之本町役場産業課

☎0749(82)4111

湖国バス(長宗)

☎0749(64)1224

伊香タクシー ☎0749(82)2135

杉野山の会 ☎0749(84)0386

山頂尾根から見る横山岳の土蔵岳(遠く三隅ヶ岳も)



と伝わる。承応年中(1652-55)の横山本宮大明神神社頭図(伊賀郡志)によれば、横山岳南斜面、墓谷川の支流白谷川上流の五鏡子滝の傍らに神明降臨の霊木と奥の院、下流の御経の滝に本宮など多くの堂宇が描かれている。

標高1132mの横山岳は、古くより山岳信仰の聖域として栄え、多くの参拝者があったという。

山の本紹介

監修 村長昭毅

編集 鈴鹿の山花放策会

発行 今村悦子(自費出版)

「鈴鹿の山で見られる花」

B6判・200頁
価値 2000円

鈴鹿の山に咲く花たちの魅力を紹介する絶好の入門書。これまであまり知られていなかった貴重な植物も数多く、504種のすべてがカラー写真で紹介されている。山に持っていききたい花の図鑑では一押し。

左記宛申し込んでください。本代+送料共2000円(郵便振込用紙を同封で直接送本します)。

〒51010226

鈴鹿市岸園町2626の24

☎(FAX共) 0593(87)2761

今村悦子まで

2等三角点のある山 蛇峠山・大川入山

山形 歳之

蛇峠山(2等・点名蛇峠)

初級コース(★)

三河(愛知県)から信濃(長野県)に通ずる三州街道(国道153号線)沿いの山を訪ねる。このあたりは名古屋からの日帰り圏で、山で出会った人はみな名古屋からであった。

三州街道を飯田方面に走り、治部坂峠に向かうと、行く手に大きく山が盛り上がる。なかなか立派な山容だが、多くのアンテナが立ち、大阪の生駒山の感があるが、登山の山としては少し格が落ちる。蛇峠とは崖崩れの峠という意味だが、十二支の山として人気がある。



のなかにのびていた。あの点貼り紙を見落としていたら、三角点としていたら、そのままりアップ上へ行ってしまおうとこころであった。道に入ると小沢を渡る。



登山口は治部坂峠の「宿り木の湯」の前で、馬の背の道標に従って林道を登る。別荘地から森林公園となり、回転しながら高度を上げ、視界が広がる。八合目の馬の背に到着となる。アンテナがある

ので、車道は山頂まで通じているが、ここで閉鎖されている。馬の背はよい展望台で、GPSやベンチ・遊歩道が設けられ、10合くらいは駐車が可能である。車道とは別に登山道がのび、山頂近くで合流する。何本かのアンテナを過ぎて、雨量計ドームで終わる。蛇峠山(1663・9合)山頂は右手の小高い丘で、登山道がのびる。

少しくだって登り返し、林のなかの展望台に到着する。足元に2等の標石が入っていた。展望台に登ると、北には大川入山が太陽に輝き、振り返れば南アルプスの山々が長々とのびている。登った山はどれだろうと、目で追った。

平日だったが中高年の人たちの姿があり、大阪の生駒山のような。 (平成15年10月9日歩く) Aコースタイム 馬の背(45分) 蛇峠(車25分)

水場はここだけとある。後はゆるやかに尾根を登って行く。高度が上がれば稜線も近づく。左手に大川入山がこんもりと盛り上がりを見せる。一面ササ原で穏やかである。稜線ピークに登りつき、一度大きくくだつての登り返しとなる。この斜面全てがドウダンツツジの紅葉真っ盛り。真赤に染まり、花よりも美しく、秋、秋の実感が迫ってきた。

山頂は何一つ遮るものもない大展望。北には中央アルプスが縦に圧縮されて見える。ひととき大きな山容は空木岳か、その肩あたりに突出するのは室剣岳らしい。中央アルプスを横に見ることなど初めてである。左には御嶽・乗鞍岳、さらに北アルプスの山々が続き、右には逆光の南アルプスが黒々とのびていた。北・中央・南の三大アルプスが望まれ、その間に伊那谷・木曾谷が覆んでいる。ベンチ代わりの板に坐り、広大な景色を楽しみながらにぎり飯をかじる。山に登る者のみが味わえる快楽である。一組の夫婦が登って来た。治部坂峠から3時間余りだと言う。ちなみにガイドブックには2時間30分とあるが、これは少しきつい。きょうはこの一組に会った

だけである。治部坂峠には「宿り木の湯」(木曜休み500円)があり、登山後の汗が流せる。駐車場も広くきれいなトイレもあり、私たちはここで車泊した。西にくだると、平谷村にも「ひまわりの湯」(水曜休み500円)の道の駅があり、車泊もできる。

△地形図V2万5千1:混合

大川入山(2等・点名大川入)

初級コース(★)

蛇峠山の北に向かい合う大川入山(1907・7合)は、同じ治部坂峠から道がある。分岐登山ガイドの「長野県の山」にも記載の山で、よく知られている。

通常は治部坂峠から登るのだが、インターネットで調べてみると、北東側のあらぎスキー場からの記録が目についた。それによると、治部坂峠から登るより時間も短く、コースも楽とある。体力の落ちている身としては楽なほうが良いと、スキー場から登ることにした。

治部坂峠を飯田側にくんだり、寒原峠から恩田川沿いであらぎスキー場に入る。無雪期の今は、広い駐車場に車の影もない。入口の登山案内板には、2時間30分〜3時間。治部坂峠からは4時間と記載されている。また少し先の建物(保管庫)のガラス戸には、上部リフトの三本目と四本目の中間あたりが登山口とある。無人のスキー場に入り、指示されたあたりの左手の林に向かうと、登山道が林

帰途、日本百名滝の「田立の滝」を訪れる。国道にも大きな案内板があり、地図を見なくても簡単に導いてくれる。滝見物だと簡単に考えていたら、何と駐車場からメインの天河の滝まで1時間も登らされた。これは全く登山に等しく、単なる観光のつもりでは見ることができない。しかし、日本百名滝に選ばれるだけにすばらしく、一見の価値はあった。

(平成15年10月10日歩く) Aコースタイム 大川入 2時間45分

△地形図V2万5千1:混合

大川入山

大峰前衛の静かな山 大峰のジャンダルム

しちめんざん
七面山

中級コース(★★★)

金谷 昭

大峰主峰八経ヶ岳と釈迦ヶ岳との中間から西に派生する尾根に立ちほだかり、その南面は大岩壁の鋭でガードされている鋭峰七面山(1624m)。その山容は大峰主峰のジャンダルム(連兵)といっても過言ではない。岩壁と原生林、そして高原と、大峰の良さを全て集約したような山だが、大峰の深南部にあって今まではアプロチが困難であった。しかし、林道が整備され、車を使えば京阪神からでも日帰りが可能となった。

五条より国道168号線を南下し、辻堂の大塔村役場前で左折し、林道殿野原線に入る。尾根乗越の高野辻の緑のビューポイントで大峰連峰の大景観を

見て宮谷沿いをくんだり、名瀑「宮の滝」を左に見上げて麓原に入る。舟ノ川を左岸に渡って村有橋原林道を行く。スピノセにて七面谷左岸を渡る。湯の又で右岸に渡り、しばらく走ると橋が出てくる。橋を渡った対岸にゲートが設けられ、これから奥は王子緑化(株)の私有林道となっているので、許可が無ければ車の乗り入れはできない。橋手前の村有林道終点の道路脇に駐車する。

ここから林道の登山口まで5・5あり、周りの自然林を愛でながらの歩きとなる。大きなつづら折りを登ると、右から小流が二ヶ所出てくる。上部に水場がないのでここで補給しておこう。ジグザグを繰り返して登って行くと、林道分岐に出て、ここは左をとってしばらく行くと、右山腹に大塔村の設置した登山口の道標が出てくる。林道はさらに奥へとのびているが、ここから右のやや広い山道に入っていく。奥にある小沢の砂防堰堤のための道である。30分も入ると右に急登する登山道が出てくる。

登山道は小さな尾根に付けられた古い作業道で、最初は雑木林のなかをつづら折りに登って行く。やがて杉の植林帯に

七面山東峰と遠く仏生ヶ岳(アケボノ平より)



なっている。やがて左に大きく山腹を掘くが折り返して元の尾根に戻ってくる。間伐材が放置されたままで踏み跡がわからなくなる所もあるが、幸い下生えはななく見通しがきき、テープが付けられていて助かる。下山時にルートを外すと、林道には着くものの、林道脇の断崖をおりるはめになるので注意が肝要だ。杉林のなかを登って行くとササやぶに



七面山付近略図



七面山東峰頂上

ぶつかり、その手前に白い境界杭が出てくると左に折れる。杉林の上辺とササやぶとの境界を捲いて少し行き、今度は右に折れ、南に向かって登って行くと、七面山の稜線に飛び出す。

今までの植林帯と違い、ブナの巨木を交えた原生林となり、ここに道標が立つ

ていて、七面山へは左(東)に向かう。右へ七面尾のかすかな踏み跡をたどれば麓原辻を経て下辻山に達するが、このコースは読図力を要する熟練者向きである。左への七面尾の稜線はササが切り開きされている。次の1397m峰の登りとなると尾根はやせ、木の根の絡み合った大峰らしい尾根道となる。野生動物の糞も見られ、彼等の棲息地に入ったことに

なる。

このあたりからは、シャクナゲやアケボノツツジを交えた木の間越しに、右に七面山西峰から西に派生する尾根の三角点峰・楡の尾が、左に大峰主峰の一つ明星ヶ岳が見えるようになる。

ここを過ぎ、さらに二つの小ピークはいずれも左側(七面谷側)を捲いて、アツブダウンを繰り返す。七面山西峰直下の鞍部から、向きをやや東南に振り急登すると傾斜もゆるみ、ヌク場のあるミヤコザザの明るい疎林の斜面に出てくる。展望の広がる斜面をひと登りすると、七面山西峰(1616m)に達する。明るい気持のよい疎林の山頂である。

七面山本峰の東峰へは露岩凝じりのやせ尾根をなお東に向かう。いったんくたつて次の岩峰とさらにもう一つのピークはともに稜線直下の北面を捲く。やがてミヤコザザの原が出てきて、奥駆道への分岐を見て右にとって南に向かう。急登すぐで東峰頂上に飛び出す。

原生林の幽深な頂上で三角点は無く、展望は木の間越しにしか得られないが、少し西に行くと露岩があり、その上からは南面の眺望が開け、釈迦ヶ岳を始めと



アケボノ平と槍の尾 (七面山東峰より)

する大峰南部の山々が見られる。

東峰から引き返し、西峰から槍の尾に向かおう。西峰から明るい疎林のササ原に付いたゆるやかな踏み跡をたどって行くと、広々としたササ原の鞍部「アケボノ平」が出現する。いま登ってきた七面山東峰の大岩壁を前にして、宇無ノ川の源流と、その背後の釈迦ヶ岳や仏生ヶ岳。振り返れば明屋ヶ岳や赤山の雄大な展望

が得られる。大峰でも最高の景勝地の一つと言ってよく、幕営したいすばらしい所だ。このアケボノ平を突っ切りササやぶに入り、鞍部の左側(宇無ノ川側)に付いた踏み跡をたどり、頂上近くで右に折れると半壊した郭師小屋が出てくる。さらに30分程西に行くとも樹林のなかに3等三角点標石(1556m、点名七面山)が置かれている槍の尾だが、展望はさかない。下山は往路を忠実に引き返す。

なお、七面山東峰から奥駈道へのルートであるが、東峰の手前の分岐からササ原の踏み跡は尾根鞍部まで付いているが、それから先のゆるやかな登りの、地形図の点線路が現在は無くなっている。しかし、鞍部からは明るいブナ疎林で下生えもなくどこでも歩ける。鞍部をともかく、東に向かっても歩ける。鞍部をともかく、間て奥駈道に出会う。

奥駈道に出でからの窮泊と交通の便の問題は差し置いて、七面山往復の場合でも、もし時間が許せばこの鞍部まで足をのばして往復されるのをすすめる。明るいブナ疎林の庭園風の景観が展開し、展望もよい。特に鞍部高原のバイケイソ

ウの大群落は大峰でも屈指のものであり、秘境といってもよい。東峰から往復するのに1時間も要しない。

(平成15年5月2日歩く)

▲コースタイム▼

村有林道終点(1時間10分) 登山口(50分) 七面尾分岐(1時間) 七面山西峰(20分) 七面山東峰(20分) 七面山西峰(25分) 槍の尾(30分) 七面山西峰(45分) 七面尾分岐(35分) 登山口(50分) 村有林道終点

▲地形図▼ 2万5千尺速ヶ岳・辻堂

*道標は分岐のみあり。テープあり。

(問い合わせ先)

大塔村役場 ☎07473(6)0311

*交通 辻堂と篠原間の村宮バスは通学

用で、マイカーに頼らざるを得ない。村有林道終点道路脇に4

台駐車可。

*篠原に民宿あり。

特選コースガイド④

鈴鹿

1 続・近江側から登る鈴鹿の山々

神崎川を遡り

御金明神から銚子ヶ口へ

健脚コース(★★★)

磯部 純

御金明神へ登るルートは、岩野さんが新ハイへ連載した「近江から登る鈴鹿の山々」の第一番目に紹介されている(本誌20号・41頁)。そのルートは最近の御金明神への参拝ルートといわれているが、今回、それと違って、神崎川林道瀬戸峠登り口から神崎川を遡り、御金明神に参拝し、銚子ヶ口へ登って風越谷林道へくだる周囲ルートを紹介する。

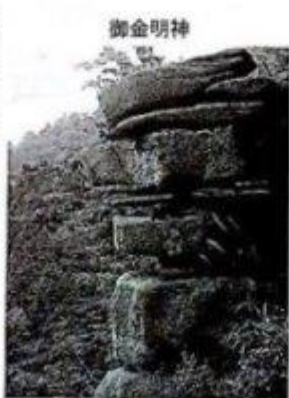
ところで、御金明神とは何だろうか？ それは次の信仰に基づく山中奥深くにある石塔のことである。「水瀧寺ダム湖の南に佐目の集落がある。その集落南の高台に若宮八幡宮が祀られているが、この神社に合祀されている塔尾金社の祭神は

《金山比売命》であり、この神は鉾山・金屋精錬・鍛冶に携わる人達が崇めた神である。佐目集落が水瀧寺ダムの完成前は佐目子谷付近にあり、村が鉾山に携わっていたことから、お金村と呼ばれていた。この頃から、佐目子谷奥の鉾山開発地近くにある立派な立岩を見て、これを御神体となす信仰が生まれ、塔尾金社とした」といわれている。ご神体である「御金の塔」の位置は佐目の古老の間では知られていたが、公になったのは昭和62年のことだという。

その「御金の塔」は、今でも神崎川沿いから比較的楽に行くことができるが、昔は佐目子谷を通り参拝に通ったといわれ、簡単には行けない場所である。

風越谷林道分岐へ一台置き車して、神崎川林道を奥に入り、瀬戸峠登り口まで走る。この日のルートは、平成14年10月に新ハイ例会で歩いたものである。

きれいに手すりまでつくられた階段をくだり、古道を歩く。この道は紅葉尾、風越谷から瀬戸峠を越えて神崎川や朝明へ向かう道で、古くは釣り人や柚人に利用されていた道であった。あたりは静かな雑木の林で、屋根を越えると神崎川へ



御金明神

向かってくだる。谷が近くなると、谷沿いにアップダウンを繰り返して上流へ進む。右手からのウソクラ谷、ジュルミチ谷を渡ると、やがて、神崎川と白滝谷出合。神崎川が水音を立てて流れているが、橋はない。何とか石を伝って対岸へ渡る。

ここから神崎川右岸の道を歩く。急激に登り、くだりにかかると徐々に水音が高くなってくる。くだり切った所で右下を見ると、4分程の落差の天狗滝がゴウゴウと音を立てていた。再び登り返してくだると、ヒロ沢出合。羽鳥峠へ向かう分岐である。谷を神崎川左岸へ渡り、踏み跡を上流へ向かうと、道は谷を離れて山腹を捲くように登っていく。右手に小さな谷を二つ見て進むと、平坦な林へ出る。周りはシロモジの林で、炭焼き窯

の跡も残っていた。その先で、右手から落ちてくる広い谷がオカネ谷で、この谷を右手へ登ると、登るに従い谷が狭くなり、両側の斜面も急になる。やがて、右下に杉の木立が見えると、そこが「御金の塔」が立っている場所。急斜面を登って行くと、石塔の下部に突き当たり、その横を登ると、それまで杉の木に隠されていた石塔の全容を初めて見ることができた。「御金明神」、それは40×60cmの厚さのある石板を幾重にも積み重ねたような石塔で、見る角度によっては、天狗の顔に見えることほない。この石塔が神聖なものとして崇められたのも不思議はない。塔の中段には鉄の小さな鳥居が置



御金明神・鏡子ヶ口付近略図

かれていた。塔の側のほんの小さな広場には、「古米よりここはお金の森と崇められ、塔尾金大明神様の神域です。書き記した掲示版等一切禁止します。遊覧水源地町大字佐目 大字相谷」と書かれた立て札が立っていた。貴顕等か下に下がっていたという個人

名の書かれた標識や、登山記念の標識は一切残っていなかった。

ここでの食事もよいが、場所が狭いので、西のコリカキ場までくだったほうがよい。すぐ上の支尾根へ登り、塔の峰のピークを抜いて東斜面を登って行くと、オカネ谷源頭の鞍部だ。ここが御金峠で、峠には古い標識が下がっていた。その峠を乗り越え西へくだる。

ガレた小石がゴロゴロの瀬谷をくだると、下谷尻谷の広い河原へ出た。周りは二次林で、秋が深まればすばらしい紅葉になろう。その河原から北へくだと北谷尻谷との合流点。そこには2km程の滝があり、一坪程の滝壺が満々と水を溜めている。

コリカキ場と呼ばれる所で、昔、佐目子谷から大峠を越えてやってきた御金明神の参拝者が、ここで口をすすぎ、身を清めて御金明神へ向かったという場所である。昼食にはこの河床の林がちょうどよい。

コリカキ場の上流で谷を渡り、北谷尻谷の右岸を登る。このルートはめったに人が歩かないのか、踏み跡が微かに残っているだけ。右下に滝を見ながら急斜面

を横切ると、やがて平坦で静かな林へ入る。これも二次林が美しい。炭焼き窯跡も残っていた。

平坦地を突っ切り、谷を渡って右手へ廻り込むと、右手からの谷に合う。この谷が右からくる二つ目の谷で、鏡子ヶ口の登り口に当たる谷である。左岸の急斜面を登ると、やがて谷に入る。

岩のゴロゴロした谷で、その岩を乗り越え登って行くと、やがて、両側の急斜面が近づき、谷が狭くなりV字の谷へ変わる。巻き道はなく、谷底を滑らないように登るしかない。

その谷を抜けて、二、三度右左したのち、谷が大きく左へ曲がる所から右手の浅い谷を鞍部へ登り、鞍部から北へ杉と小さなアサビの木の尾根を登り切ると、鏡子ヶ口東峰へ出た。

このピークに立つと、御在所山から釈迦ヶ岳へと続く鈴鹿主稜線の山並、鈴鹿北部に横たわる山々も見える。せっかく東峰まで登ったのだから、三角点まで足をのばそう。5分もかからない距離である。

展望のない山頂広場に、三角点と山名標識が立っているだけ。その中の一つの

POWER ZONE ガイド登山プラン

- 表示の金額はガイド料(税込)です。ご参加に伴う宿泊代(テント泊を除く)、集合前後の交通費は含まれていません。各登山プランは旅行業法上の主催旅行ではありません。
- 戸隠山～西岳縦走**
 - 7月24日(土)～25日(日) ■7月25日(日)～26日(月)
 - 集合 JR長野駅 ○31,500円(ペンション)
 - 早登駒ヶ岳～御岳縦走**
 - 7月30日(金)～8月1日(日) ■8月2日(月)～4日(水)
 - 集合 JR伊那市駅 ○39,800円(旅館・テント)
 - 鹿沼ピストン縦走**
 - 7月31日(土)～8月1日(日) ■8月3日(火)～4日(水)
 - 集合 JR伊那市駅 ○27,300円(テント)
 - 北ア・東沢谷～水岳縦走～赤牛岳縦走**
 - 8月2日(月)～5日(木) ■8月13日(金)～16日(月)
 - 集合 JR信濃大町駅 ○48,200円(山小屋)
 - 八峰キレット越え・蓮松岳～新ヶ岳縦走**
 - 8月6日(金)～8日(日) ■8月10日(火)～12日(木)
 - 集合 JR白馬駅 ○31,500円(山小屋)
 - 飯島・北谷尻～大日岳～飯島山縦走**
 - 8月25日(月)～26日(水) ■8月27日(金)～30日(月)
 - 集合 JR新発田駅 ○48,300円(旅館・避難小屋)
 - カムイエクウチカウシ山(北海道)**
 - 7月6日(火)～8日(木)
 - 集合 JR帯広駅・帯広空港 ○39,800円(テント)
 - ベテガリ岳ピストン縦走(北海道)**
 - 7月9日(金)～12日(月)
 - 集合 JR秋田駅 ○39,900円(民宿・避難小屋)
 - 神威岳ピストン縦走(北海道)**
 - 7月12日(月)～13日(火)
 - 集合 JR秋田駅 ○18,900円(民宿)
 - 横海新道越え 朝日岳～日本海縦走**
 - 7月16日(金)～19日(月) ■7月20日(火)～23日(金)
 - 集合 JR入善駅 ○48,300円(山小屋・避難小屋)
 - 朝日連峰 以東岳～竜門山～大朝日岳縦走**
 - 7月22日(木)～25日(日) ■7月26日(月)～29日(木)
 - 集合 JR鶴岡駅 ○48,300円(山小屋)

＝お申込み・お問合せ・パンフレット請求＝
パワーゾーン TEL052(788)7575 FAX052(788)2423
 e-mail/pzan@aa.aries.or.jp http://www.e-powerzone.com
 名古屋市中区栄山田5-113号(ラビA)02-484-0827 営業 月～金曜日 10～18 土曜日 10～15

「鏡子ヶ口岳」と書かれた山名標識が気にかかる。

下りのルートは登山道ではないが、トロッコ道をくだる。急斜面をトロッコレールにつかまりながら、滑らないように注意してくだる。レールをつかむ手が汚れるので、手袋が必要だ。45分もくだると風越谷林道へと降りる。その後は、林道を周りの風長を眺めながらくだるだけだ。

もし置き車がない場合は、神崎川林道の瀬戸峠登り口まで車で入り、風越谷林道の瀬戸峠登山口から、峠を越えれば車の所へ戻れる。ただ、最後の急坂を登る体力を残しておかなくてはならない。
 (平成15年10月2日歩く)

- Aコースタイム**
- 神崎川橋広場(車15分) 瀬戸峠登り口(40分) 白海谷合(1時間) ヒロ沢出合(15分) オカネ谷出合(30分) 御金明神(40分) コリカキ場(1時間40分) 鏡子ヶ口東峰(5分) 鏡子ヶ口(トロッコ道45分) 風越谷林道(45分) 風越谷林道分岐
 - △地形図V5万 御在所山

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

登山電車

京都バス
▽三角点トレック「福徳山」 7月3日(出)・14日(出)小南谷行(大雨・荒天は7月24日(出)に延期) (集合) 出町橋駅コンコース8時〜8時30分(コース) 出町橋駅(バス) 出町橋駅(約8分) 参加定員200名(申込制1ヶ月前より) 無料 (バス代別途) 京都バス連絡部営業課075(871) 75211

江若交通

▽「うさぎ」Mt.ハイキング「湖北武家ヶ嶽」 7月15日(雨)中止 (集合) JR安芸川駅9時55分(コース) 安芸川駅(バス) 近江川(光明寺) 赤岩山(武家ヶ嶽) 上石田(光明寺) 角川林道(近江川) (バス) 安芸川駅(約8分) 電話申込制(1ヶ月前より) 参加費3000円(バス代含む) (申込先) 江若交通本社077(573) 2701

神戸電鉄

▽火曜ハイク「有馬三山ハイク」 8月3日(雨)中止 (集合) 有馬口駅 逢坂山 茶臼山 橋谷 高橋谷山 灰形山 蓬草山 有馬温泉(約8分) 参加自由・無料 神戸グループ総合案内所078(592) 4611

尾瀬登山ハイキングに一番近い温泉宿

ヴィラ風花 2004年の御案内

取付での登山、ハイキングは遅れるものです。山に登る前に温泉に入って充分に湯氣をとって下さい。東京駅から2時間20分で宿に着きますので仕事が終わってから出発。お車でおいでの方は深夜チェックインOK!
当宿前より焼肉のバスが出ます。(朝5:00から 料20分)
集合 JR湯元(南) 上越新幹線 上毛高原駅 21:40分頃 (東京発 20:30分頃 吾川号オール自由席)
お帰りは 16:00発 新宿直行高速バスを御利用下さい。(¥3,700)
催行日 週末の金・土曜日 11月1日迄 1名様から(1名は相部屋です)
5/28~6/19日 7/9日~8/21日 9/17~11/1日
宿泊料金 前泊り 4,000円 朝食付 5,000円 弁当 600円 入浴料 別
(朝食弁当可 健脚の方は尾瀬ヶ原から尾瀬湖→大清水迄 日帰可能)

平日特選 谷川岳の湯沢トレッキングと尾瀬ヶ原1周又は至仏山へ
懐れの山日本三大岩壁を見ます。

JRで集合(送迎無料)
初日 上毛高原駅 11:15分 → 谷川岳集合 → 一の倉沢温泉 → 沢別の滝 → 戸倉 風花 宿り
2日目 至仏山又は尾瀬ヶ原へ各自で(ガイド料 相談可)
尾瀬ヶ原から 三条の滝を見て新湯方面へ抜けられます。 湯沢温泉を見て会津松坂駅方面へ出られます。
催行日 月・火・水曜日 5/31~6/16日 7/12~8/18日 9/13~10/28日 (2名様以上でお申し込み下さい)
費用 ¥11,500 (1泊2食と焼肉バス代一の倉沢ガイド料含む)

歴史をたどる峠越の旅
旧街道に秘められた歴史のドラマをたずねる山旅です。上州と会津を結ぶ旧街道に戊辰戦争のロマンをたどります。
沼田 → 戸倉 → 大清水 → 尾瀬湖 → 沼山峠 → 松枝峠 → 解散
催行日 6/7~8日 7/19~20日 8/3~4日 (集合は平日コースと同じです。)
費用 ¥13,500 (1泊2食とお弁当、ガイド料込)

群馬の日本百名山をのんびりと登りましょう
毎日温泉に入れて浴衣でくつろぐ登山です。

至仏山 日光白根山 武尊山 皇海山 谷川岳 赤城山
(20分) (35分) (30分) (60分) (60分) (60分) ()内は温泉から登山口迄の時間です。
◆ 同宿ですので朝いざっくで出発 ◆ 荷物は宅急便で送り、行き帰りは軽快で
◆ 毎夕食に食べた山の地酒サービス ◆ この頃天候が安定している時季です
催行日 8/17~22日 9/1~6日 費用 ¥77,000 (15泊15食・送迎費・ガイド料・ロープウェイ代)
集合 第1日の10:30分頃 上越新幹線高崎駅 集合のち赤城山に登ります。

2004ゴールデンウィーク春山スキー
至仏山大湯降及尾瀬ヶ原一両ウオーキングスキー
日 第1日 4月29日~5月1日
第2日 5月2日~5月4日
料 2日、5000円
(前泊2泊4食 朝食1献・登山バス代・ガイド料)
特選 至仏山スキーコースは山スキーの経験者またはスキー経験3年以上の方(スキー場での練習の経験参加をお祈りする事もあります)。尾瀬ヶ原XCスキーコースは山歩き経験者であれば初心者でも可。
この時期、至仏山は閉鎖ですがとても盛りやすいです! 登山のみの方も参加可。5/10~7/10の期は入山禁止です。大清水温泉の景色も見えます。

山旅案内人
尾山武志
北海道生まれ尾瀬山に入って40年 春山スキーでは至仏山を1日3回、1週間で20回登りました。



☆施設のご案内 天然温泉で山の疲れを
取除 30分
洋室 6 び(ストイレ付3)
和室 3
広間 10帖
ホール 30坪

やせろ

題字・小林玻璃三

3月10日、新ハイの友だち9人と故郷の山錫杖ヶ岳(三重県)に登ってきた。私としてはこれがこの山への20回目の登山。当日は快晴、すばらしい登山日和に恵まれ、娘さんたち6人はワイワイガヤガヤ賑やかなこと。3日前に降った残雪もあり、低山ながら鎖・ロープ・岩場ありと、ちょっぴりスリルを楽しんで山頂に。

秋・冬にはすばらしい展望が望まれたのに、きょうは残念ながら鈴鹿山系・伊勢湾は霞のなかだった。また、毎日登っておられる女性とも話ができた。

下山は錫杖湖Bコースへ。徳川家康も歩いたという榎之木古道は、2年前までは完全な廃道

で苦労したがすっかり整備され、きょうは楽しい山行になった。これからも故郷の山、錫杖を体力の続く限り登りたく思っている。

4月4日のKリーダの山行が降雨のため中止になり、青春18きっぷが10日迄に使い切れなくなったので、急に思い立ち5日、岐阜県根尾の薄墨桜を見に行った。

自宅を7時に出て樽見駅に11時過ぎ着。樽見鉄道は空席なく、4時間立ちっぱなしで駅に着いたときには、少々グロッキー。薄墨桜はまだ三分咲き。人間の英知で千五百年を承らえてきた老木も、私の目には杖を頼りに生かされている老人のように

見えた。湯浅、根尾川の上流、紺碧の空に白銀の嶺を輝やかしていた、能登白山の美しい姿が長旅の疲れを癒してくれた。(宇治市 中村英雄)

3月13日、三度目の三河本宮山に登った。1等三角点にはいずれの時も行っているが、13日は三角点の南の大きな柱が気になってよく見てみた。

柱の高さは2尺、少し埋まっているので1・5尺程が地上に出ている。太さ65cm・一辺27cmの八角形。埋まっていた見られないが、基礎の基石は厚さ50cmで一辺140cmの正方形であるようだ。銘板には「天測点」とあった。

天測点とは星を観測して緯度経度の座標を決める測量に使用した観測台で、インターネットで調べてみると、1956年に設置されていた。沖繩を除く全国45ヶ所に設置され、全て1等三角点に併設されている。

愛知県は三河本宮山、三重県は伊勢朝熊山、岐阜県は大洞山(郡上)にあって、各県1ヶ所

位ある。北海道には8ヶ所、無いのが東京・滋賀・奈良・鳥取・愛媛・香川・福岡で、京都・兵庫・大分には2ヶ所設置されている。

三角点・水準点・基準点・電子基準点・天測点など、測量のポイントにもいろいろあるものですね。1等三角点の山に行かれたら三角点の近くを探してみてください。天測点に出会えるかも。(南濃市 山田明男)

西内氏の本を見たら、山腹を通るようにと記されていた。山の神曰く「先に茶んどかな」ことも。しかし、立木にやたらテープを付けたままにしておくのは止めてほしいものだ。(松阪市 藪木伸人)

4月早々、京都東山の清水山(243m)へ登った。寒さ嫌いのため冬の間は敬遠していた山歩きだが、再開後二回目になる。伏見稲荷と蹴上間の「京都一周トレイル東山コース」を利用したので、単純標高差では210mに過ぎないが、前半には稲荷山四ツ辻、後半には将軍塚への登り下りがあり、その他も含めると累積標高差としては350m以上の登りを果たしたことになる。ますますの踏み出しだったと思う。今後は逐次標高を高め、標高差も上げていき、夏場には、例年のように北アルプスの高山へチャレンジする予定である。

山山頂の三角点を確認したのは今回が初めてである。山頂自体は樹林のなかにあるので見晴らしはきかなかつたが、それを補ってあまりあるすばらしい展望が、将軍塚跡間の西・北の両展望台にて楽しめた。

関西に住みついて50年になるが、将軍塚を訪ねたのは初めてであるし、その他、いろいろと見聞を深められたのも今回の収穫である。そしてここで満開の桜を美しく眺められたのもこの時期なればこそその山歩きのお蔭だったと感謝したい。(枚方市 東谷 忠)

山行報告(2月、3月)
以前本誌で紹介された野洲町の田中山(鷹坂山)は、手軽に登れ、見晴らしもよかった。ただ、三角点の周りは、植えられたエニシダがのびて異様だ。麓の銅鑼博物館が、なかなかおもしろかった。

7年ぶりに訪れた阿見町の横山は、「創造の森」なる公園に花木が植えられ、展望台までは長いスロープも設置されていた。英虞湾の眺望は言うことなし。

笠仙山西南尾根は、福寿草が素敵だった。平日とあって、出会ったのは4人だけ。尾根上の岩と木立には難儀したが、後で

とところで、懸崖造りの舞台で有名な清水寺はこれまでに何度も訪ねているのであるが、清水

本郷の又兵衛桜を今年も見に行きた。ファンになって久しい私は、満開をねらって二回も訪れたこともあったくらいだ。

シーズンには直通バスが運行されるが、私たちはあえて路線バスに乗り込んだ。大宇陀高校前で下車、春の柔らかな陽ざしを身体中に浴びながら、このたおやかな風景はいにしえより変わらぬに思えるだろうと感ずる気持ちを抑えながら、心を染めてゆくようにゆっくりと歩いてい

○新ハイ関西サービスチェーン

子・娘・二軒登山 小白山(大白森1号) 福島・二岐温泉 日観連 大和館 〒960221-0602 福島県白河郡大和町二岐温泉 電話 0248-941129 0248-941270 0248-941270	富士登山・第17号 京都府向日市多摩 (石巻山・ハルモミ林) 三原山の麓 ペンション コットホテル 〒4011-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 電話 0555-651851	大宮・磯原山中駅か、足尾根分岐点 大宮・磯原山中駅か、足尾根分岐点 JR中央本線山崎駅下車徒歩14分 バス20分(山崎山下車後徒歩10分) 山小屋 樺ちゃん荘 〒404-0022 山梨県山崎町上原 (山小屋) 電話 0555-331463 0555-331463	尾崎 平ヶ岳探検と約りの山小屋 尾崎 三山(尾崎山・六ヶ所) 清四郎 小屋 ほんもの手打そば 美奈店 樹 海 〒946-0000 新潟県北魚沼郡湯谷村湯谷 電話 0990-225585 0990-225585 期間外(11月~4月) 0255-791215 0255-791215
--	--	--	--

ハイカーの宿・池の平温泉 ナガサキロッジ 百名山を二つ登れる山小屋 黒沢池ヒュッテ 〒944-1210 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉 電話 0255-18612261	休養食入浴も歓迎 10名以上マイクロバスで送迎 箱根 松石原温泉 福 島 館 〒250-0663 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139 電話 0460-0419041	尾崎登山ハイキング入山口 天然温泉 山の寝れを 水芭蕉の湯 ウィラ風花 (KAZAHANA) 〒337-0411 三重県津市津島町片倉445 電話 0777-815817051	四季織り女子浴衣部頭風のハイイク 上高地・乗鞍山へ、冬はスキー けのこ造りと味の宿・日観連 温泉旅館 けやき山荘 〒390-1500 長野県南安曇郡安曇村高良原 電話 0263-193129051
---	---	--	--

た。
まず、かぎろひの丘に立ち寄り、ならかな起伏の芝生でしばし休憩をとる。ここで楽しみにしてる本家イヌノフグリに今年も出会えた。絶滅の危惧にさらされているとはつゆ知らず、野の花として自然に溶け込むように可憐に咲いていた。

又兵衛坂の周辺は環境整備が進み公園のようになっているが、春の風に揺れる龍桜はどこから見ても美しい。ただ、後ろの畑の桃の花の濃いピンクがあまりにも華やかなのが、近年気になっていた。

町の観光協会の人に、「桃の生育が強すぎて又兵衛さんが色褪せて見えるのは可愛想や」と、缶チューハイ二本の勢いを借りてさっしり抗議してきた。

どうぞ来年も、ずっと先の樹齢四百年〜五百年までも変わらぬ姿で人々を迎えてほしいものだ。

咲ききってひとり淋しき龍桜
(生駒市 井上久子)

山行短歌
3月2日 宿業笹ヶ岳

山行実施を決定した後の参加取り消しは、バス代などのキャンセル料を要しますので、ご理解をお願いしたいと思います。

さらにこの際、申込みはがきの件で細かいことですが、皆さんにお願いをしたいと思います。

私の古い印刷機は、宛名の貼付や往復はがきのテープ閉じの粘着跡が苦手で、印刷ミスを招きます。できれば、宛名の貼付や往復はがきのテープ閉じは避けていただきたいと思っています。

「生年月日」は、できるだけ年号でお書きください。私の頭は古くて「西暦」ですとこんがらがってしまいます。住所や氏名で驚しい読み方にはぜひふりがなを添ってください。また、携帯電話番号を記載される場合は、ご自身のものかご家族のものか明記ください。失礼のないようにしたいと思っています。

最後に、申込みの記入欄にあるように返信はがきのご自分の氏名の下には「様」とつけてください。世間では自分自身の氏名に「様」などつけないのが常識ですから、「行」と書かれる

長き園から救うササユリの頃に
純深の花に迷いに来たきもの
3月5日 播州日名倉山
限りある未来とびたつ鳥もあれ
残り雪溶けずあれ水鏡に

3月14日 熊野大塔山
友よあれが頂かだ駆けらせつろ
一の森から胸高鳴らせつろ

3月18日 播州日名倉山
ミツマタの淡き光のすきとおる
春染めあげよ谷から尾根へ

3月27日 果無安堵山
はてしなき果無の山脈めざす
いきつく夢の地があるよう

3月27日 果無冷水山
青に登む遥かなる大空の下に
果つることなき縦走路つづく

3月31日 六甲山上渡雲台
見晴らしの塔に登りて雲の果て
まだ見ぬひとへ愛を叫ぼう

4月1日 六甲有馬連山
桜小唄ねね橋渡りめぐり逢はむ
しだれ桜のしおらしき君に

4月6日 台高松塚
耐えしのびまき長き冬去れば
萌える草原へ登ってみようよ

4月15日 丹波夜見四十八滝
岩稜のテラスで越う我がため
ヒカゲツツジよ山を染め歌え

4月18日 台高松塚

（各務原市 賢夏守康）

気持ちはおよくわかるのですが、敢えてお願いいたします。「行」を消して「様」と書き改めるのは、やっぱり面倒です。

以上、例え山行の係からのお願いでした。

花通り山行を今年から行っています。この場を借りてお願いします。

メール申込みの関係上、新ハイ誌到着後に短期間で定員がオーバーします。5名程度を超えた時点でHPのトップにテロップでその旨を流しますから、その後の返信はご容赦ください。

なお、定員内の方は即日メールにてお知らせしますが、メールが届かない方はキャンセル待ちになったとお考えください。もちろんキャンセル待ちとなった方につきましてもその後も逐次HPを確認していただき、キャンセルが発生した旨のお知らせが流れた場合は、速やかにメールにて再度の意思表示をお願いいたします。

たてがみなびかせ友上尾根走れ
迷わないように僕を先導し
(吹田市 木村太郎)

簡号のこの「せせらぎ」欄で、田中明さんが自然観察山行は「毎回キャンセル待ちが出る」と記されてしまったが、それは次第に過去のもの(?)となりつつあります。現在、私の山行計画でキャンセル待ちとなるのは限られた山行で、半数以上は申込み段階で定員ギリギリか定員割れとなっています。申込み段階で当初の定員を超過するときには、可能なかぎり宿泊やバスの規模を大きくするなど対応でキャンセル待ちの解消を図っています。新たな別な問題が浮上していますが、それは参加取り消しの問題です。

定員ギリギリか定員割れの状態のままで何とか決行に漕ぎつけたとき、参加取り消しは正直のところ痛手です。他の参加者の会費増につながらねず、実施上の大きな支障となってしまう。そのため、最近はお断り切ってキャンセル料をいただいています。

「せせらぎ」欄は、ハイキングに関する諸々の情報を集め、読者に発信するコーナーである。読者は常にいろいろな事柄を知りたいと願って購読されているので、このコーナーの充実を切に願っている。しかし、新しい人からの寄稿が少ない。毎号特定の人からではさびしいかぎりである。

主観の入る意見文もいろいろありますが、もっと客観的な生の情報、報告文が欲しい。山で発見したり出会ったりしたこと、また、人に聞いたニュースなど何でもよい。

制限は300字程度(15字詰×20行)で、何かを知らせようとするばすく文になる字数である。現在は投稿が少ないうので字数をかなりオーバーしているも掲載しているが、東京本社の「新ハイキング」誌はこの字数制限をきっちり守っても毎号10数ページにのぼるほどの盛況である。(編集人 村田智徳)

さわやか信州
霧天原山・山吹の湯
湯田中温泉(穂波)
日野屋旅館
〒381-0440 長野県下
高井郡山ノ内町湯田中温泉旅館
0269-333578

標高2000m 田舎上の温泉
湯の丸高野自然休養林
ハイキングにXCスキー
高 峰 温 泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰温泉
0267-252000

ハイキングにノスキーにノ
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯温泉バス
0269-342421
東京本社・東京都新宿区新宿3
1-20-15(新丸の内ビル)
例スポーツサービス
03-33341021

塩の道 千両街道
百八十七体(観音原)
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-0300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
0261-724452

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新築増築完成全館個室
木の香あふ新着豪華生木温泉
オーレン小 屋
1泊2食付 6000円
4月2日〜11月末日開設
〒391-0213
茅野市豊平2-7-20 小車勇夫
温泉旅館

北八ヶ岳の登山道 冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口ま
で送迎します
温泉旅館
プチホテル カナール
〒391-0300
茅野市北八ヶ岳村温泉大平5-5
1-3の1
0266-672258

日本百名山の密
信州戸隠山
森の宿めるへん
高梨山・黒根山登山口まで送迎
タロカン・コースご案内
〒381-0400
0266-254208

日本唯一の女人禁制の山「大
峰山」(白雲山)の登山口
温泉・名水の里
旅館 紀の園屋 基八
1泊2食付 7,000円から
〒638-0043
奈良県宇陀市大川村川
07476-40399

山行計画
(7・8月)
新ハイキングクラブ編

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確約のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代を支払ういただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすでに連絡していただきます。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加費全額に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額50円と救護対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支払っていただきます。
傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社相模屋保険ジャパンと契約)

- 死亡・後遺障害保険金額 1000万円
- 入院保険金 5000円
- 通院治療金 2500円

保険の対象は集合時から解放時まで。事故があった場合は解放までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷登はんを目的とした山行 ④遊歩道内での事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 千

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自己の住所氏名に「様」を必ず入しておいてください。

自然観察山行151
霧峰・川上岳から位山
(中級向き)

期日 7月2日(夜)〜3日(夜)
集合 前夜発日曜日
コース (2日) JR岐阜駅25時00分
(3日) 岐阜駅(バス)
(3日) 位山荘
(朝食休憩・バス) 林道
登山口 1617村川
上岳・位山天空遊歩道
位山・小ピークスキー
場・モンアクス飛騨位山
道の駅(バス) 岐阜駅

費用 約10000円(岐阜駅からバス代等)
地図 2万5千・位山・山之口
申込み 岐阜駅
〒504-0828
各務原市藤原村岡野1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名

位山三山の川上岳(百名山)から位山(二百名山)へ縦走します。雨天決行(コース変更あり)
期日 7月3日(日) 日帰り
北沢・湯谷ヶ岳(一般向き)

奥北前登山に
愛知山溪谷歩きに
山好き仲間が集う前
朝明茶屋
山小屋 朝明茶屋
〒501-1251
三浦町三浦野町下車
電話 0593-9311789

三浦町三浦野町下車
電話 0593-9311789

那岐山荘
〒708-1330
岡山県田原郡赤松町高門
電話 0868-3614154

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安藤登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県鹿嶋郡屋久町安藤
電話 0997-4161302

山行例会の実施について
山行例会は保険を掛けたたり、登山届けを出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。

集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時55分②JR栄本
駅緊急バス1番のりば9
時40分

コース 栄本駅(バス)湯谷口―
玉依神社―湯谷ヶ岳―住
宅地―銭原(バス) 栄本
駅(解放10時20分)

費用 約8000円(金堂アリー
パス使用、名古屋から)

地図 昭文社「北沢・京都西
山」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10

週末ハイイク
台高・明神峠から検校
(中級向き)
期日 7月3日(日) 日帰り
集合 近鉄大和八木駅8時10分
コース 大和八木駅(バス) 大又
―明神峠―明神峠―奥松
―松原―明神峠―朝松
―大蔵池―大又(バス)

大和八木駅(解放10時20分)
費用 約3000円(バス代、
保険代)

地図 昭文社「大台ヶ原」
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員22名(会員に限る)
プナの新鮮ななか、明神峠から
東にのびる検校へと足をとります。
縦走コースから外れているた
めなかなか行けない山です。
雨天中止

近畿百名山に登る(新71回)
大峰・稲村ヶ岳(中級向き)
期日 7月4日(日) 日帰り
集合 近鉄大和八木駅8時10分
コース 八木駅(バス) 清浄大橋
―レンゲ辻―山上江―稲
村ヶ岳―山上江―法刀峠
―母公堂(バス) 八木駅
(解放10時30分)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「大峰山脈」
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10

村田野良まで
*定員22名
オオヤマレンゲの咲く稲村ヶ岳
へ登ります。雨天中止

給養登山
七人山から三人山(一般向き)
期日 7月4日(日) 日帰り
集合 武登峠西下駐車場7時45
分
コース 武登峠―郡界原―クラ
谷―七人山―イナノコ
―三人山―郡界原―
武登峠(解放)
費用 参加費100円+保険、
車・タクシー代ワリカン
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10

新ハイキング関西まで
マイカー山行
*車に乗る人は近鉄湯の
山温泉駅7時20分まで
(事前に開井まで連絡
要、携帯090657
87603)

す。せせらぎの湯で汗を流します
(洗浴・水着必要)。小雨決行

フアミリーハイイク40
加藤・赤鬼山(一般向き)
期日 7月8日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅1時止面口
構内7時00分
コース 新大阪駅(バス) 小原林
道登山口―小原峠―赤鬼
山―赤池―赤鬼遊歩道―
(往復) 登山口(バス)
新大阪駅(解放20時30分)
費用 約4000円(バス代)
地図 2万5千―藤原山
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB
12の29 木村太郎まで
*定員20名(会員に限る)

美しいプナ林、ニッコウキスゲ
の群生、赤い標根の小嵐、ロマン
漂う山歩きを楽しむ。雨天中止
約道を歩く197
元福谷(沢歩き健脚向き)
期日 7月11日(日) 日帰り
集合 国道477号線元福谷林
道入口手前広場8時30分
コース 広場―元福谷林道―元福

谷方(後)一級滝(根)大
洞の頭(仙)ノ谷(元)蔵谷
林道(上)場(解散)
装備 ショールズか地下クビ
ワラジ必須
費用 交通費採石場外・救護
のため採石場外・救護
対策費50円

地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
係 ◎岩野 明 ○山田三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年・夏前例の元禄谷(伏歩きで
す。湧き水をたっぷり味わいます。
雨天中止

北摂・明ヶ田尾山から鉢伏山
期日 7月11日(日) 日知り
集合 ①JR名古屋駅6番ホー
ム6時15分 ②大阪市宮
地下鉄千里中央駅10時00
分
コース 千里中央駅(バス) 雲間
事務所前→高山集落→明
ヶ田尾山→鉢伏山→みの
お記念の森→宮原敷→大

上ヶ岳(其面の滝)緊急
解散(16時頃)
費用 約7000円(貸車フリー
バス使用、名古屋から)
地図 昭文社「北摂・京都西
山」

係 ◎小山良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
昨年行くのをあきらめた三ヶ岳
の堂尾敷が下山途中にあるので、
ピークを踏んでから天上ヶ岳に行
きます。雨天中止

期日 7月15日(日) 日知り
集合 JR新幹線神戸駅
前「滝ノ広場」8時50分
コース 新神戸駅→引ノ端→布
引貯水池→桜ヶ原→市ヶ
原→エニチエ→シエール道→
林公園前→シェール道→
標高湖→そま台→カス
ケイド・パレー→渡田神
社(バス) 緊急六甲駅
(解散16時頃)
費用 約11000円(大阪から)

地図 昭文社「六甲・摩耶・
有馬」
係 ◎志井恒夫 ○川上久登
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

六甲折戻分を歩くとピピラー
コースです。雨天中止
自然観察山行152
南アルプス
費用 三ヶ岳と赤石岳(中級向き)
期日 7月16日(日) 20日(日)
前夜3泊4日
集合 (16日) JR岐阜駅23時
00分
コース (16日) 岐阜駅(バス)
(17日) (バス) 畑畑ロッ
ジ(朝食・バス) 畑畑第
一ダム(送迎バス) 横島
ロッジ→千枚小屋(泊)
(18日) 千枚小屋→千枚
岳→黒岩岳→荒川岳→荒
川小屋(泊)
(19日) 荒川小屋→赤石
岳→赤石小屋(泊)
(20日) 赤石小屋→横島
ロッジ(送迎バス) 畑畑
第一ダム(バス) 赤石温
泉(朝食・バス) 岐阜駅

期日 7月18日(日) 日知り
集合 ①JR名古屋駅6番ホー
ム6時15分 ②阪急池田
駅9時55分
コース 池田駅(バス) 北摂信愛
学園前→法輪寺→光明山
→天台山→鉢伏山→熊野
電停見台駅(解散16時40
分頃)
費用 約1800円(貸車フリー
バス使用、名古屋から)
地図 2万5千円広根
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

(解散)
費用 約45000円(岐阜駅
からバス・宿泊・資料代
等)
地図 昭文社「境見・赤石・
雲仙」
係 ◎豊見守康
申込み 〒504-0826
各務原市藤村雨町1の
19の5 豊見守康まで
*定員20名(6月30日ま
で)

三度目の正産で、高山のお花畑
を楽しみながら、南ア・南部の3
000m峰をゆったり歩きたいと
思います。雨天中止

期日 7月17日(日) 日知り
集合 JR大木駅9時40分
コース 木之本駅(タクシー) 柳
ヶ瀬→柳ヶ瀬山→行市山
→今市(バス) 木之本駅
(解散)
費用 約6000円(大阪から)
地図 2万5千円中河内・木之
本
係 ◎高島洋祐
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
雨天決行

鈴鹿首山58
期日 7月18日(日) 日知り
集合 近鉄湯の山温泉駅8時25
分
コース 湯の山温泉駅(車) 朝明
→根の平峠→上水原谷→
クラ谷分岐→七人山→東
雨ヶ原→雨ヶ原→根の平峠→
クラ谷分岐→根の平峠→
朝明(車) 湯の山温泉駅
(解散)
費用 車代500円
地図 2万5千円御在所
係 ◎山田明男 ○宮岡秀彦
申込み 〒503-0535
海津郡御油町山崎の19
山田明男まで
*定員20名
*マイカーの方はその旨
記載ください
朝明から入る少し長いルートで
す。雨天中止

期日 7月18日(日) 日知り
集合 ①JR名古屋駅6番ホー
ム6時15分 ②阪急池田
駅9時55分
コース 池田駅(バス) 北摂信愛
学園前→法輪寺→光明山
→天台山→鉢伏山→熊野
電停見台駅(解散16時40
分頃)
費用 約1800円(貸車フリー
バス使用、名古屋から)
地図 2万5千円広根
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約3500円(バス代)
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
係 ◎中西信行 ○磯野重治
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員22名
鎌ヶ原から東へ展望の良い尾根
をゆったり歩きます。雨天中止

雨天決行
期日 7月25日(日) 日知り
集合 ①JR名古屋駅6番ホー
ム6時15分 ②JR大木
駅9時40分
コース 熊取駅(バス) 大岡山→
本堂下→高城山→高城山
→本堂→大岡山(バス)
日根野駅(車) 大岡山
(16時15分頃)
費用 約2000円(貸車フリー
バス使用、名古屋から)
地図 2万5千円内畑・粉河
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

駐車場：桜峠一みのわ平
一舟伏山一舟伏山一阿
野陀如米石像の峠一あ
の森駐車場(車)西岐草
駅(解散)

費用 車代1000円
地図 奥村さんの絵地図を用意
申込み 〒503-0535
海津郡南濃町松山64の19
山田明男まで
*定員20名
*マイカーの方はその旨
記載ください
暑い季節になりますが、何が吹
くのでしょうか。小雨決行

比良を歩く33
八瀬の滝めぐり(中級向き)
期日 7月25日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時30分
コース 近江高島駅(バス)ガリ
バー修行村一鶴川林道出
合一魚止の滝一大瀬跡一
貴船の滝(カラ岳北西
尾根)カラ岳一シヤカ岳
分岐一旧リフトシヤカ岳
駅一旧リフト山麓駅一比
良駅(解散16時30分頃)
*歩行6時間

費用 約2200円(京都から)
地図 2万5千北小松・比良
山
昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

涼感を求めて、魚止の滝から障
子ヶ淵・大瀬跡・小瀬跡・原風ヶ
淵・貴船の滝・七瀬返しを流を深
訪したいと思います(本誌54号参
照)。雨天中止

花巡り山行ア
伊吹北尾根(中級向き)
期日 7月28日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅9時10分
コース 関ヶ原駅(バス)伊吹山
頂駐車場一燕堂一静馬ヶ
原一御座峰一大亮山一因
見岳一金岩の清水一寺本
(バス)近鉄掛菱駅(電
車)大原駅(解散)
費用 約6000円(京都から)
地図 2万5千美濃
係 ◎山中 明
申込み HPからメールのみ受付
http://hana04.jp.
infoseek.co.jp

*定員10名
猛岩を承知でアルプスと変わら
ぬほどの山野草をいっぱい楽し
みましよう。下山口まで水場はあ
りません。暑さ対策が必要です(70
号22頁参照)。雨天中止

自然観察山行153
北アルプス・乗鞍連峰
(中級向き)
期日 7月30日(日) 日帰り
集合 JR岐阜駅23時
00分
コース (30日)岐阜駅(バス)
(31日)(バス)豊平一
雨ノ小屋一剣ヶ峰一高天
ヶ原一岳谷本沢一野麦の
藪尾根一野麦集落(バス
岐阜駅(解散)
費用 約11000円(岐阜駅
からバス代等)
地図 昭文社「乗鞍高原」
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市藤原村雨野1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名

昨秋例年の逆コース。豊平でこ
米光を仰ぎ、剣ヶ峰からコマクサ

の吹き乱れる高天ヶ原と美しい野
麦の森尾根を越え、野麦集落へと
高度差1700mの大下りです。
時間があれば野麦峠でゆっくりし
ます。雨天決行

横州・東見山(一般向き)
期日 7月31日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅6番ホー
ム6時15分②JR瀬十
駅10時40分
コース 瀬十駅一春日神社一京見
山一泣き坂峠一白毛山一
トンガリ山一才木智集
駅(電車)大阪駅(解散
15時44分)
費用 約3000円(奈良18き
つ使用、名古屋から)

近畿百名山に登る(第72回)
神戶新聞社出版の「はりま歴史
の山ハイキング」で紹介されてい
る山で、小ピークの続く楽しい山
です。雨天中止

大峰・大菅登岳(中級向き)
期日 8月1日(日) 日帰り
集合 近鉄大和上野駅8時30分
コース 上野駅(タクシー)和佐
又山ヒュッテ一壱ノ尾尾
根一大菅登岳一小菅登岳
一女人峠一伯段谷観一
上谷分岐一上谷林道(タ
クシー)上野駅(解散18
時30分頃)

費用 約5000円(タクシー
代)
地図 昭文社「大峰山系」
係 ◎村田智俊 ◎安倉正勝
◎長比悦美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員25名

壱ノ窟・石の鼻から大菅登岳に
登り、伯段谷観を見て上谷にくだ
ります。雨天中止

場一ヒミズ谷一左僕一打
者コバ一水無尾根一広場
(解散)
費用 交通費各自(沢歩き山行
のため保険対象外・救援
対策費50円)

装備 溪流シューズか地トクビ・
フランク必携
費用 交通費各自(沢歩き山行
のため保険対象外・救援
対策費50円)

手頃な滝群がどこまでも続く、
夏の沢登りを十分に楽しめます。
雨天中止

白滝谷道から蓬萊山へ登り、涼
風に吹かれてゆっくりします。
雨天中止

紀泉・奥南飯盛山(一般向き)
期日 8月11日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅6番ホー
ム6時15分②南海みさ
き公園駅2番ホーム10時
30分
コース 南海多子駅一高仙寺一飯
盛山一淡輪分岐一みさき
公園駅(電車)南海難波
駅(解散15時50分)

白滝谷道から蓬萊山へ登り、涼
風に吹かれてゆっくりします。
雨天中止

費用 約3800円(奈良18き
つ使用、名古屋から)

費用 約3800円(奈良18き
つ使用、名古屋から)

紀泉・奥南飯盛山(一般向き)
期日 8月8日(日) 日帰り
集合 JR堅田駅8時40分
コース 堅田駅(バス)坊村一牛
コバ一白滝谷一比谷キヤ
ンブ場一熊手(リフト)
蓬萊山一金ピラ峠一ゴン
ドラ山麓駅一志賀駅(解
散17時頃)

花めぐり山行ア
伊吹山三合目(一般向き)
期日 8月11日(日) 日帰り
集合 JR近江長岡駅8時30分
コース 近江長岡駅(バス)上野

登山口一三宮神社・三谷目一帯と大目までの花巡り一三宮神社・上野バス停(解散)

費用 約4000円(解散料)

地図 明文社「御在所・吉備・伊吹」

係 ①山中 明

申込み H/Pからメールのみ受付
http://hana04.jp
info@hane.co.jp
*定員10名

今回は三日のお祭を中心にくくりとくまなく探して、感動を分かち合います。(本誌77号32ページ参照) 雨天中止

福州・橋原山(やや健脚向き)

期日 8月12日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅6番ホーム6時15分/②JR御着駅10時20分

コース 御着駅→大森神社→登山口→橋原山→ラックの背→高野山山への縦走路→市ノ池公園→古根駅(電車) 大阪駅(解散16時29分)

費用 約3000円(古根駅まで)

時20分(切符は谷川駅まで)

コース 谷川駅(タクシー)で、公園→イタリ山登山口→イタリ山→川高坂→石金山→小新屋観音→前川(タクシー) 谷川駅(電車) 大阪駅(解散18時06分)

費用 約3000円(古根駅まで)

地図 2万5千・柏原・谷川・丹波和田・中野町

係 ①小出良春

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

本誌97号に紹介されている山です。標所の天狗岩の雄姿をすくすく平山な樹林の道から石金山に書いて見れば、実感あふれる大展望に思わぬ来客が来たので、雨天中止。

播磨・善防山から笠松山

期日 8月15日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅6番ホーム6時15分/②JR知古川駅6番ホーム10時20分

地図 2万5千・姫路南部・加古川

係 ①小出良春

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

講師 アルプスといわれる高野位山の隣の山、岩壁と好展望のすばらしいコースです。雨天中止

自然観察山行154
北アルプス後立山連峰
五箇岳・悪島嶺ヶ岳・鏡ヶ岳

期日 8月13日(日) 夜〜16日(明) 前後発2泊3日

集合 (13日) JR岐阜駅23時00分

コース (13日) 岐阜駅(バス) おみスキー場(コンドレ) アルプス平→小滝見山→大滝見山→五平山(電車) (15日) 五平山→一五岳→鹿野嶺ヶ岳→新引山→冷滝山(電車) (16日) 冷滝山→一踏ヶ岳→神尾山→扇沢(バス) 岐阜駅(解散)

費用 約3900円(岐阜駅まで)

(切符は栗生駅まで)

コース 栗生駅(電車) 北条鉄道 播磨中駅→下出自然公園→善防山→吉法寺自然公園→笠松山→熊野堂→北条鉄道駅(電車) 加古川駅(解散16時34分)

費用 約2900円(古根駅まで)

地図 2万5千・電線

係 ①小出良春

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

岩尾根の続く縦走路があります。雨天中止

期日 8月21日(日) 日帰り

集合 JR豊後駅9時40分(京都駅発) 時7分・米原駅発8時20分

コース 笠松山(タクシー) 池河内峠(タクシー) 池河内峠→池河内山→池河内峠→池河内山(タクシー)

費用 約6000円(大阪まで)

地図 2万5千・中河内

係 ①船橋信浩

からバス・宍泊・資料代等)

地図 明文社「鹿島嶺・黒部湖」

係 ①鷺見守康

申込み 〒504-0828 各務原市森原村南町1の19の5 鷺見守康まで

*定員20名

昨夏の白馬三山から唐松岳コースを引き継ぎ、北アを南へ、後立山連峰の核心部を歩きます。雨天代行(コース変更あり)

中道山地の山々

期日 8月13日(日) 15日(日) 2泊3日

集合 (13日) JR新大阪駅1階止出口7時30分

コース (13日) 新大阪駅(バス) 蛇川/滝登山口→Cコース→那岐山→最高峰→Aコース→善徳寺キャンプ場(バス) 湯原温泉「桃葉荘」(泊)

(14日) 湯原温泉(バス) 久柄一五合目→七合目→天狗の森→櫻ヶ山→竜頭

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

雨天代行

美濃・8月の舟伏山 (随脚向き)

期日 8月22日(日) 日帰り

集合 JR西岐阜駅8時35分

コース 西岐阜駅(車) あいの森 駐車場→桜峠→みのわ平→舟伏山→小舟伏山→阿波尾如堂石像の峠→あいの森駐車場(車) 西岐阜駅(解散)

費用 東代1000円

地図 奥村さんの絵地図を用意

係 ①山田明男

申込み 〒503-0535 海津郡南町松山19の19 山田明男まで

名高い山頂の麓に降り、岡山・鳥取の三山に登ります。また、三種山の投入室にも登拝してみます。雨天代行

フファミリーハイク41
比良・白雲山(一般向き)

期日 8月26日(日) 日帰り

集合 JR豊田駅8時40分

コース 豊田駅(バス) 坊行→牛コバ→白滝→大滝→首羽池→長池→白雲山→ツサビ大滝→明王台谷林道出

の順に久納(バス)三徳山→投入室→三徳山(バス)三朝堂→フアンナー(バス)三朝堂(バス)河内→安威峠→鷺見山→古根谷(バス) 鹿野温泉(入浴・バス) 大阪駅(解散18時06分)

費用 約38000円(バス・宿泊代等)

地図 2万5千・日本版・大野・鹿野・三朝・城部

係 ①村田智俊 ②安倉止勝 ③奥比呂美

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

兵衛丹波・イタリ山から石金山

期日 8月14日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅6番ホーム6時15分/②JR大阪駅福知山線1番ホーム9

集合 JR名古屋駅中央改札口7時10分

コース 大井川鉄道福知山線→地蔵峠→神尾山登山口→T字路→神尾山→T字路→福用分岐→姥塚山→福用分岐→林道終点→大井川鉄道福知山線(電車) 名古屋(解散17時12分)

費用 約3000円(古根駅まで)

地図 2万5千・八高山

係 ①小出良春

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

大井川鉄道の山です。雑木林のなか落ち葉を踏みしめて静かな山になると思えます。*青春18きっぷのない人は用意します。雨天中止

110

合1坊村(バス)堅田駅
(解散16時30分頃)
費用 約2000円(堅田駅よ
り)

地図 昭文社「比良山系」
申込み ◎木村太郎
〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
小説「比良の水底」に描かれた
伝説の池と山池に灵感を求め、比
良の別大地をめぐる。雨天中止

鈴鹿谷山59

入道ヶ岳(健脚向き)
期日 8月29日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅8時25
分
コース 湯の山温泉駅(電)宮妻
峠一滝ヶ谷一尾根道一入
道ヶ岳一池の谷一林道一
宮妻峠(車)湯の山温泉
駅(解散)
費用 車代500円
地図 2万5千1御在所
申込み ◎山田明男 ◎高原芳彦
〒503-0535
海津郡南町松山6の19
山田明男まで
*定員20名

*マイカーの方はその旨
記載ください。
尾根道から入って谷をくだる。
イワタバコが見られるか?
雨天中止

朽木・雲洞谷山(一般向き)

期日 8月29日(日) 日帰り
集合 J R京都駅八条口団体バ
スのりば7時20分
コース 京都駅(バス)朽木大野
(急野越)一4等三角点
一鷹ヶ峰一大彦峠一雲洞
谷山一大彦谷林道一上岩
瀬(バス)京都駅(解散)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千1急野野・北小
松
申込み ◎森脇真直 ◎中西信行
◎藤原直治
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員22名
暑い時ですが、がんばって登り
ましょう。山頂は東方面の展望が
よい。自然林のなかを昔の道が続き
ます。天候がよければ東山へ足を
のばし、明渡取をくだって朽木小
学校前へ下山します。雨天中止

北摂・行春山(一般向き)

期日 8月29日(日) 日帰り
集合 ①J R名古屋駅中央改札
口6時55分/②J R亀岡
駅10時00分
コース 亀岡駅(バス)奥条一瑞
巖寺一千手寺一行春山一
松尾神社一千代川駅(電
車)京都駅(解散14時35
分)
費用 約2800円(電車代1600
円、バス代1200円、名古原から)
地図 2万5千1亀岡
申込み ◎小出良吉 ◎中村英雄
◎藤本桂吉 ◎相原 章
◎市野博文
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

本会のリーダーとして最後の山
です。7年300回お世話になり
ました。記念として100回・2
00回と同じように寄せ書きして
ください。大切にします。*名古
原の人で青春18きっぷのない人は
用意します。雨天中止

例会参加の注意点

山行例会参加の場合、新ハイ
キングの規定があります。(90
ページ山行社案内)。これを十
分にご理解のうえ申し込んで
ください。規定に反しますと、
係や参加の他の人にも迷惑を
かけることとなります。気分よ
く山行するため、みんなで規定
を守りましょう。
特に次の2点をよろしく。

★計画を早めに決め、必ず7日
前には申込先に到着するように、
往復ハガキに必要事項をすべ
て記入のうえ申し込んでくだ
さい。直前や飛び込みはお断り
します。また電話やファクシミ
リでは、名簿作成や山行案内の
返信に困ります。
★雨天に歩くのが嫌な方は始
めから小雨決行・雨天決行の
計画には申し込まないでくだ
さい。また、当日の決行が中止
かは、返信案内の降水確立を見
て、必ず前夜の気象情報で確認
し、判断ください。

山行報告
(3・4月号)

新ハイキング73737373

スノーハイイク

中宿・入笠山 (白馬観音山行140)
3月5日(日)夜16日(出)
◎磐井守康
*都合により中止し、3月14日(出)
の日月山に変更しました。
海山・横山(3)道の山72)
3月6日(出) 小笠山
(集合) 1道の駅海山19・30
(車) 便の山9・40(車) 木津
(車) 水無峠10・40 林道登山口
11・20 清五郎池(第二)12・00
(解散) 12・40 第一の池12・55
一林道下山口13・40 水無峠14・
20 1便の山(穂長橋の池)15・00
(解散)
雪の舞う美しい天気となり、メ
インを清五郎池にしほる。雪化粧
の山々がこのはかきれて幻想的
だった。写真はさぞ印象的で、
落差40分の滝もすばらしいもので

熊登ヶ峰(鈴鹿を歩く180)

3月7日(日) 吹雪
(集合) 大原駅「かもしか荘」広
場9・00(車) 崎川林道登山口9・
30 一の茶園11・10 アセビの園
11・40(解散) 12・15 1758
13・00 林道14・30 広場15・00
(解散)
白良谷分林道封鎖のため雨を浴か
ら野登ヶ峰に変更。大雪にもめげ
ず30名参加。取付きから雪の岩壁
の急登が続き、鹿の姿は深い霧
と急坂で別世界。アセビの園で
昼食。稜線を758まで縦走し
て林道においた。霧と吹雪とよか
ぶかの雪の情景々々峰は一期一会か
ら最高の冬登山となった。
(参加者) 白木卓弘 白木やす子
後藤康幸 大石智美 奥野太一郎
池田明美 伊藤明美 伊藤久男
永田英治 岩本彰子 石橋たか子
栗田朝子 武村千鶴 石田真由美
村田生 水谷俊之 朝木美智子
北村つねみ ◎山田屋三

◎急野 明

(計20名)

3月7日(日) 吹雪時々くもり
(集合) J R総路駅10・40(バス)
泉南前11・00 伯母ヶ谷峠11・50
一吉福山12・02(昼食) 12・35
本池等13・05 J R英賀駅13・
16(電車) J R首根駅13・32 北
山(夫婦岩) 14・45 日笠山14・
51 白根天(急登) 15・17 山頂層板
駅15・25(解散)
バスを降り、歩き始めるが道を
間違えたようだ。バス停で待って
いた人が、私をよければ案内しま
すと喜んでくれたのでお願いした。
下見の時よりはるかにすばらしい
コースだった。その人とは福山
で別れて日笠山に向かった。雪が
降ったりやんだりのおかしな天候
だったが、日笠山は62ほど低いの
で安心して歩けた。
(参加者) 尾崎光子 小池一郎
橋原康彦 藤本桂吉 中村英雄
若林文夫 片山克博 片山喜代子
林 信男 岡本佳子 小坂きぬ子
上田久子 高田和美 井川一美子
フリッツ知重子 他1名
◎市野博文 ◎福原 章
◎小出良吉 (計19名)

北摂丹波・白樺岳

(近畿列名山に登る第65回)

3月7日(日) くもり時々雪
(集合) J R新大阪駅7・40(バ
ス) 住山10・00 林道登山口10・
30 白雲山11・30(昼食) 12・10
一松尾山13・10 住山14・10(バ
ス) 鹿の子温泉15・20(集合) 16・
30(バス) 大阪駅18・40(解散)
雪の舞う白で白の寒さ、解り
そうな山頂直下の岩場を慎重クリ
アして白雲岳に登った。まあまあ
の展望に恵まれ、午後には歩く松尾
山への稜線コースがよくわかった。
この日は藤山マラソンと重なり、
行きのお供が滞ったが、予定
通り歩けた。
(参加者) 宮本真幸 宮本悠子
田中善雄 長原明子 木村 豊
川田洋子 山根敦美 桂 久美子
加藤元彦 佐野信江 武部美智子
堀川常雄 澤田浩治 金谷勲子
西村文男 本郷幸夫 仲谷礼司
白田孝子 西 豊子 加地美代子
岡 徳隆 井上孝子 上坂知子
宮野静子 宮野静子 安吉正樹
◎若比良美 ◎村田賢俊(社名不
詳) 他1名
栗比叡・横高山から大尾山
(雨天ハイイク)

3月13日(日) 晴れ

(集合) JR京都駅 8・20・35 (バス) 登山口 9・25・35 横川 越10・40・50 横高山11・00・05 水井山11・20・25 仰木峠11・55 (昼食) 12・45 大尾山13・45 14・05 伊香谷14・55 15・05 1古知谷バス停15・35 (解散) 1週間前の降雪でマンサクがわずかに開花してただけでタンコウバイは全く見られず、例年より春が遅い奥比叡であった。御木峠の日溜りで琵琶湖を眺めながら昼食をとり、大尾山の先の投石広場では北山や比良の山々を眺めて休憩した。人数の割には足並みが揃い予定よりかなり早く下山できた。

(参加者) 徳谷行司 小林 桂 後藤康幸 大東 哲 山縣勝美 船越利明 奥村昌裕 馬籠忠男 堀江勇樹 若原健子 井林秀孝子 本間 謙 本間賢子 小坂さゆり 大村 隆 前田栄三 中上白代子 上田久子 長尾勲子 竹内喜久子 山岸陽雄 竹田正司 武田和巳 藤田理子 渡部和美 橋本賢二郎 山本博子 川上友登 堀江八重子 山田幸子 三浦 勝 中嶋日出男 小倉和子 上田正子 三浦賢孝子

小山晴美 岩崎健司 塩原香織 稲葉大太郎 稲葉美知子 神 伸 ◎狩野東彦(計42名)

敦賀市・天岡山

3月13日(日) 晴れ (集合) JR敦賀駅 9・40・50 小牧かまぼこ10・10 25 舞鶴山 10・35 40 野島園11・00 天岡山 11・20 (昼食) 12・30 1月見御殿12・55 13・00 金ヶ崎宮13・10 20 山の神13・55 14・05 敦賀駅14・45 (解散) 低い山をゆっくり歩き、天岡山からは敦賀湾、敦賀市街を見下ろし、敦賀半島の西方ヶ岳が形よくそびえていた。早春の一日、敦賀の山と町を楽しんだ。

(参加者) 木下朝子 穴戸喜久江 吉徳孝次 光川伸史 光川一美子 矢野 隆 谷 守 伊丹朝子 ◎宮崎伸浩 (計9名) 美濃・員月山 (自然観察山行140) 3月14日(日) 晴れ (集合) JR大垣駅 9・00 (バス) 掛川駅前スキー場10・25 40 1ふれあいの森ゲート11・05 登山口 11・25 員月山12・25 (昼食) 13・

35 1日見晴 登山口14・50 1スキー場15・15 30 (バス) 池田温泉16・35 (入浴) 17・05 (バス) 大垣駅 17・30 (解散) 3月5・6日入笠山は最少催行人数に達せず、2月7日のリベンジを兼ねて本山行に変更。この時期は雪も稀まり、天候にも恵まれて全員登頂。奥美濃の重畳たる雪嶺を眺めた。

(参加者) 金森節子 藤野美紀恵 栗橋泰吉 栗橋君子 砂原恵美子 長尾一令 布施信美 庁 すみ子 宮本真幸 宮本悦子 三上美恵 宮路重香子 ◎森脇貞義 (計14名) ◎鷺見守康 静岡・高天神山から樽蔵地山 3月14日(日) 晴れ (集合) JR掛川駅 9・20 (バス) 土方9・43 高天神城道手門10・10 1本丸10・20 馬場道10・40 1樽蔵地山11・17 林の谷池11・55 (昼食) 12・30 土方13・14 (バス) 掛川駅13・41 (電車) 名古屋駅15・45 (解散) 土方でバスを降りると目の前にこんもりとした山が見える。これが戦国期「高天神城を制す者は遠江を制す」と言われた高天神城。

城址は国指定とあり立派に整備されていた。馬場道から「大丸り・猿尻の段」「甚五郎坂道」に入る。木の間に吹いてくる春の風が気持ちよく、やせ尾根ながら快適な山道だった。

(参加者) 富田博子 前田喜久子 前田悦子 原文子 宮路ちへ子 炭田明美 森澤厚子 岡本美千子 渡辺美代子 石田真由美 ◎藤本桂吉 ◎小出良春(計17名) 武蔵ヶ岳東尾根(比良を歩く28) 3月14日(日) 晴れ (集合) JR比良駅 8・45 (バス) リフト・ロープウェイ 山形10・30 八雲ヶ原10・45 50 イブルキノコバ11・07 直道・冬道合流点11・30 武蔵ヶ岳12・10 (昼食) 12・45 1広谷13・25 30 1イブルキノコバ13・40 1八雲ヶ原13・55 14・00 山上駅14・25 30 1カモシカ台15・18 23 1大山口15・50 55 1正面谷(開地)16・05 15 (解散) 1イン谷口16・20 (バス) 比良駅

日曜日としては5週間ぶりの快晴。1週間前に降った雪がたっぷり残っており、鈍白の東尾根ぐんだり快道だった。

(参加者) 仲谷礼司 佐々木穂子 山縣勝美 山科地彦 武藤山幸子 吉村 昭 磯部 純 市井ユリエ 蓮井洋子 三上祐夫 武部美英子 武部 剛 上山正二 松井明忠 長尾一令 白木良弘 白木やす子 川田洋子 藤野暢子 砂原恵美子 多賀久子 谷 守 谷川俊一 長尾信美 川崎敏雄 山本京子 本下朝子 山口弘弘 聖田美弥子 ◎宮下淳一 ◎血坂利明 (計32名) ◎桑 康夫 (計32名)

播州・日名倉山 (ファミリーハイイク35)

3月18日(日) くもりのち晴れ (集合) JR新大阪駅 7・00 (バス) 千利町至エーガイヤちくま9・30 45 林道終点10・40 45 奥海船付近道標11・20 25 日名倉山三の丸12・10 (昼食) 13・00 林道終点14・10 15 1エーガイヤちくまの湯14・55 16・10 (バス) 新大阪駅18・40 (解散) 夜来の雨も歩き始める頃にはあがり、残雪の消え失せた春山の雰圍気にひたれた。奥海船付近から尾根道を登り、一の丸を過ぎると播磨山地や瀬戸内海まで展望が開けた。三の丸頂上からは後山や三

室山などの名だたる雄峰がくつわを並べた景観に酔いしれた。

(参加者) 松村賢子 渡部和美 川上友登 妹尾一正 成川みさお 松井明忠 柏木孝子 安田文美江 本宮美夫 榎 賢司 榎 美奈子 白田昌彦 中谷賢子 中澤ちよ子 山科地彦 澤田浩治 金藤千恵子 前田一代 保田 正 本間昭彦 村上嘉子 宮野聡子 西 悦子 吉藤孝次 加藤浩二 山中あさみ 網 徳彦 東中次夫 本田久美子 中江清剛 藤井洋子 砂原恵美子 ◎秋吉正人 ◎木村太郎(計32名)

中宿・鉢巻山 (自然観察山行141)

3月19日(日) 21日(日) 前夜降った雨 3月19日(日) 晴れ (集合) JR岐阜駅 23・00 (バス) (20日) くもりのち雪 (バス) 奈川村駅 3・50 (朝食休憩) 7・45 (バス) 野妻峠スキー場 8・15 (リフト) リフト終点 8・40 50 1小鉢巻山10・40 鉢巻山下 鉢巻11・50 (昼食) 12・30 1小鉢巻山13・30 1野妻峠スキー場16・05 25 1奈川村駅16・40 (バス) (21日) 晴れ 8・30 (バス)

自然観察の森なら湯遊11・30 (バス) 宿12・10 (入浴・昼食) 14・00 (バス) 岐阜駅18・10 (解散) 積雪期しか歩けない小鉢巻経由の解走往復コースはスキー場リフトの使用が不可欠。そのためリフト営業時間の8時から16時20分までには歩き回ることがあるが、今回雪質や天候などに恵まれず山頂直下斜面で時間切れ撤退。けれど2000mを超える雪の尾根の解走は充実していた。

(参加者) 榎方由子 砂原恵美子 金森節子 熊木秀雄 船本裕子 栗橋君子 佐々木三三子 多田朝子 徳田暢子 宮路ちへ子 村井秀和 若松朝子 武藤山幸子 森 美香子 ◎栗橋泰吉 (計16名) ◎鷺見守康 丹波・高野ヶ岳 3月20日(日) くもりのち雨 (集合) JR加古川駅 8・00 08 (バス) 高野寺登山口10・25 40 1登山口駅11・00 小ヒコケ11・55 1高野寺ヶ岳12・10 (昼食) 12・50 1林道分岐13・15 1射ヶ畑登山口13・45 55 1シルク温泉14・15 (入浴) 15・35 (バス) 加古川駅 18・10 (解散)

麓から仰ぐ山肌には残雪が見えなくてやや拍子抜け、雪山に用意したものはバスに預けた。取付きからは落ち葉の堆積した溝状の道をいきなりの急登にあぐく。積雪に近づくと残雪があり、踏み締める感覚が心地よくなった。雪解けを持って咲いた清楚なバイカオウレンにははし足を止めた。帰りはシルク温泉美人の湯に浸かった。

(参加者) 須藤尚子 光川一美子 森本 勝 森本淳子 口石おる 島田京子 石田賢一 前田喜久子 松村賢子 柳川常雄 前田悦子 山崎義治 森 瑞代 岡田恵美子 高橋中男 フリッツ知恵子 若橋健司 前川 一 土井あつ子 竹田豊英 美村三枝 河本美千子 上田直代 ◎岡田 昇 (計25名) ◎千賀慶一 (計25名)

室生・額井岳(尾道山行142)

3月20日(日) くもり一時晴 (集合) 近鉄腰原駅 10・00 10 (バス) 香静峠10・30 45 1両西尾根の峠11・20 額井岳11・50 (昼食) 13・00 1反射板13・20 1成平山14・10 1或長寺14・30 40 1山部赤人墓15・00 10 1天満台 東 15 15 40 42 (バス) 腰原

駅16・05(解散)

駅の便りが聞かれる季節だが冬に逆戻りしたような寒さだった。香粉峠からの登りはササやぶの急登。柳井原からは大峰の山並がよく見え、地形図の読み方とコンパスワークを勉強した。

美濃・3月の舟伏山

3月20日(祝) くもり一時小雨 (集合) JR西岐阜駅8・35ー夏坂林道入口9・45ー55ー榎峠11・00ー舟伏山12・10(昼食)12・50ー石仏13・45ーあいの森駐車場14・25ー夏坂林道入口15・15(車)西岐阜駅16・40(解散)

北山・焼杉山から天ヶ岳

(平日ふれあいハイイク43) 3月25日(祝) くもり (集合) 地下鉄国際会館8・10ー20(バス)古知谷8・50ー9・10ー焼杉山10・35ー天ヶ岳塔塔広場12・10(昼食)13・05ー天ヶ岳13・15ー三叉路14・05ー525514・40ー東濃バス駅15・55(解散) イワカガミがもう花開くのもあり、また3月だとこいいたくもなかった。天ヶ岳の鉄塔広場はいつ来ても気分よい所だ。鞍馬までの尾根歩きは少し道悪かった。

そらだ。カセシカの密猟と悲しみ

跡が二箇所と死体(自然死?)も見られた。(参加者) 山田妙子 中谷美菜子 馬場祥子 亀井悦子 伊藤直孝子 下村孝子 吉村 昭 福原三子代 段下由子 堀江房樹 大須賀 實 白木良弘 白木やす子 伊藤喜久男 今井みき子

残雪の御池岳・奥の平

3月21日(祝) 晴れ (鈴鹿を歩く189) (集合) 御池林道小文谷分岐広場8・20ーノタノ坂9・10ー土倉尾根10・05ー土倉尾10・30ー奥ノ平11・00ーボタンブチ11・25(昼食)12・10ー南峰12・25ー東のボタンブチ12・55ーボナ橋13・30ー御池林道15・15ー広場15・45(解散) おだやかな登山日和。早春の奥ノ平の雪取と大バノラマは最高。ボタンブチで昼食し、南峰と東のボタンブチからの眺望を楽しんだ。T字尾根をくぐるとマンサタの花、林道にはフキノトウが芽吹き、楽しい山行となった。

南赤山は一等三角点の山なので

山頂までは歩きやすい道だったが、後半の千石峠までは木の断段が崩れていて歩きにくかった。山頂で新ハイの会員に会った。尾路は駅まで長距離を歩いたが、周りに自然が残っていたので堪えと歩けた。(参加者) 栗橋君子 砂原恵美子 井上久子 村瀬和子 六角喜久江 大須賀 實 宮路ちへ子 藤野美紀恵 岡本美千子

栗本敏夫 白木良弘 白木やす子

木村止弘 原田勝利 武村千鶴 原 光一 原 幸三 西村文明 鈴木 浩 鈴木友子 奥野太一郎 佐伯孝江 池田隆一 石田真山美 永谷鉄治 谷 久雄 伊藤喜久男 杉山繁久 大西啓郎 灰田明美 吉岡 仁 ○山田登三

鈴鹿・釈迦ヶ岳

3月21日(祝) 晴れ (集合) JR京都駅7・40(バス)朝明ヒュッテ10・10ー20ーハト峰分岐11・40ー途中の広場12・00(昼食)12・40ー嶺岳13・15ー釈迦ヶ岳13・40ー50ー松尾尾根の頭14・00ー産屋の滝15・20ー30ー朝明テント村入口16・00ー15(バス)京都駅19・35(解散) 腰巻に恵まれ、雪崩のついた国見岳と勢ヶ岳がカメラポイントだった。産屋の滝ではヤブツバキがきれいだっ。

ロングコースを無事歩き終えた。

(参加者) 宮下淳一 西原俊弥 尾崎光子 島田孝子 小池一郎 君塚敏子 船越利明 船越りよ子 山本武臣 山本令子 田所昌雄子 冨田善子 岩田育士 柴田チヨコ 中島 隆 栗橋君子 小林優子 高田 雄 美村三枝 松尾勝子 秋田勝郎 三輪孝子 栗原昭吉 小田悦子 井上水治 小田勝子 小谷和子 松本忠雄 中村静香 岩城善子 角田一江 馬橋幸男 岡田恵美子 ○岡田 昇 ○大和 絃 ○須藤隆 絃

高比栞美 寺田久広 桂 久美子

高橋舞治 井上恭子 菅 ヌヤウ 布地清美 白原忠子 榎井清之 三井絃一 ○磯野重治 ○森脇貞義 ○中西信行(計30名) 紀泉・城ヶ峰から三峰山

足山の山行になった。

(参加者) 春日東美 中谷美菜子 段下由子 首藤孝子 伊藤直孝子 本間 隆 東林文夫 石井千恵子 大西幸孝 若中次夫 斉藤よし子 鈴木 浩 鈴木友子 山野志保江 林 正義 白木良弘 白木やす子 大石智美 北村 稔 森 美香子 原部 舜 山田妙子 今井みよ子 馬場祥子 佐治光江 的場たか子 坂口久子 栗本敏夫 ○西村文明 ○吉村 昭 ○山田明男(計23名) 京都西山・天王山から水無瀬

3月28日(祝) 晴れ

(集合) JR米原駅8・00(車) 鞍馬峠8・40ー50ー御池谷(一般) 9・20ーヒルコバ10・20ー10の平 10・40ーヒルコバ10・50ー鈴ヶ岳 11・10(昼食)12・00ー榎峠12・30ー赤野12・55ー塚の下尾根14・00ー大岩ヶ畑14・25ー40(解散) ヒルコバでは雪が残っていてフタジュンフワは咲いていない。これからの季節であったが、思ってもいなかった場所のでフタジュンフワの大群落が湧えてくれた。みんな大満

湯口三郎 奥村裕格 井上由紀晴
本間 隆 高木忠夫 原 みとえ
山岸勝雄 堀田輝子 橋本賢二
若林文夫 森 和久 松井トキ子
宮崎紀正 木下朝子 中嶋日出男
宮野孝子 山本勝雄 石田武由美
妹尾正 荒島孝子 宮村孝次郎
和田直樹 蓮水 保 高岡富美子
嶋田 誠 岩村春子 松本美智江
武田元可 武田和己 山本千鶴子
福見陽子 安良陽子 吉野美子
○谷 守 ◎真山三三(計37名)

六甲・有馬連山
(ファミリーハイク36)

4月1日(休) 晴れ
(集合) 神鉄有馬温泉駅9・40
50―美原寺10・00―落葉山10・20
25―灰形山10・55―11・10―湯
橋谷山11・50(昼食)12・40―高
尾山13・00―逢ヶ山13・25―40―
水無山14・10―鬼ヶ島14・30―水
無川林道出合15・00―05―神鉄有
馬口駅15・25(解散)
高尾寺の満開の赤桜に励まされ
有馬三山に取付く。落葉山で有馬
湯の町を、灰形山で六甲最高峰を
眺め、主峰湯橋谷山への急登を挑
む。裏六甲別山の高尾山以降では
だれひとり登山者に出会うことが

なく静かな山歩きができた。
(参加者) 西條良彦 松井明忠
西 悦子 木村 豊 田所真里子
中江清剛 須藤浩子 本田久美子
フリック知恵子 田中三恵子
栗崎崇吉 栗崎君子 砂原忠美子
加藤浩二 若林文夫 中澤ちず子
木下朝子 松村輝子 田中善雄
河野 正 嶋田民彦 飯田良子
加藤元彦 中川光郎 市野博文
東中次夫 藤井孝子 山根弘美
古川正子 柏木孝子 吉塚孝次
川上久登 光川徳史 光川二葉子
緒方由子 ○磯部 純
◎木村太郎 (計37名)

鈴鹿・藤原岳

(自然観察山行142)
4月3日(出) くもり時々晴れ
(集合) JR関ヶ原駅8・40(レ
ンタカー) 西藤原小学校下観光駐
車場9・20―40―東登山道―合
目10・00―三合目10・30―六合目
11・05―八合目11・35―藤原山荘
12・20(昼食)13・00―大御堂13・
25―八合目14・25―30―表登山道
―西藤原小学校下観光駐車場15・
30―40(車) 西藤原駅17・00(入
浴)17・30(車) 大垣駅18・30
(解散)

4月2・3日の大日ヶ岳は最少
健行人数に達せず、本山行に変更。
久しぶりの春浅い藤原岳で、フク
ジュンウ・セブンソウ・スハマ
ソウなどに会えたが、藤原岳の
変化した姿に驚かされた。
(参加者) 尾崎光子 荻野美紀恵
加納由紀子 北村つねみ
栗崎君子 小崎由利子
◎栗崎崇吉 ◎菅見守康(計8名)

笠置から柳生・奈良公園へ
(春のロングコースを歩く)

4月3日(出) 晴れ
(集合) JR笠置駅9・30―40―
笠置山10・10―何対の石仏10・40
―剣塚11・10―15―柳生寺11・
30(昼食)12・10―ほうそう地蔵
12・25―南明寺13・20―夜支布山
口神社13・50―14・00―由成寺14・
30―40―峠の茶屋15・40―16・00
―首切地蔵16・50―17・00―奈良
公園17・30(解散)
笠置山や方地等の満開の桜を堪能し、のどかな里山をめぐってお
寺や石仏・磨崖仏などを見て歩い
た。夕暮れの奈良公園に着いて美
しい桜の下で解散した。
(参加者) 吉塚孝次 三井弘一
山崎英治 山科邦彦 武部美英子

栗井洋子 岩崎健司 伊東ナナ子
藤原幹枝 川田洋子 橋本賢二
辻靖子 田中幸子 野里マコ代
宮下海一 角江朝子 中嶋日出男
藤堂國男 南 寛子 井林秀奈子
飯田孝子 谷 守 中上紀代子
井上恭子 山岸勝雄 岩本いすゞ
妹尾正 加藤元彦 宮路ちへ子
加藤謙計 山本博子 久保田玲子
高松雅子 佐野信江 鈴木輝雄
鈴木孝子 谷川俊一 岩村春子
西 悦子 洋美 中川光郎
辻田敏子 入江武史 ○安倉正勝
◎村田智敏 (計45名)

花の雲仙山西麓尾根
(鈴鹿を歩く190)

4月4日(出) 雨時々雪
(集合) 甲津倉袋口広場8・10
(車) 今畑8・35―笹峠9・20―
近江原野宮10・30―南宮野11・00
―南宮北原11・35(昼食)12・
00―雲仙山12・30―岩ノ峰12・40
―林道13・35―行者谷14・45―あ
げん原16・10(車) 広場16・25
(解散)
山は深いガスで何も見えない。
春雨は吹雪に変わった。思いもよ
らぬ春の新雪の雲仙山は幻想の世
界。スハマソウとフクジュソウの

花も雪の中で、早々に行着谷にく
だとシロドリコロ・マンザク・
ダンコウバイ等早春の花が待って
いた。

(参加者) 後藤康幸 池田繁美
吉村 昭 櫻田勝利 岩田智雄
馬場修子 山田朝男 山田妙子
酒田公明 木下朝子 今井みよ子
春見直美 栗本敏夫 稲葉三千代
高野芳彦 白木貞弘 白木やす子
岩木彰子 大西信郎 伊藤美英子
杉山修久 友田 毅 友田美保子
谷 守 小松志信 谷 久雄
赤井純治 ○山田三三(計29名)

◎岩野 明

兵庫丹波・向山連山
4月4日(出) ◎不出良彦
●雨天のため中止しました。
東播磨北部・霧ヶ峰
4月4日(出) ◎吉野屋一
●雨天のため中止しました。
飛鳥・御碕山
4月8日(出) 晴れ
(集合) 近鉄飛鳥駅9・45―鬼の
雲尾―亀石―甘梅―江原望台10・35
―石舞台五項11・25(昼食)12・
10―京都修徳院社―西門跡13・20

―多武峰最高峰13・45―西門跡―
御碕山14・35―談山神社本殿―
談山神社バス停15・15(バス) 桜
井駅南口15・32(解散)
昨年よりも春の訪れが早く、右舞
台の桜はすでに散り始めていたが、
談山神社は満開で十分楽しめた。
(参加者) 宮内和子 砂原忠美子
木村 豊 村川幸志 山中あさみ
吉川悦子 緒方由子 中村英雄
吉野孝子 田中敏子 川上久登
白黒忠子 藤 敏子 約場たか子
○井上由紀晴 ◎西上利和
(計16名)

静岡・雲爪山

(自然観察山行143)
4月9日(出) 10日(出)
前後発日帰り
(9日) 晴れ(集合) JR岐阜
駅23・00(バス)
(10日) 晴れ(バス) 静岡ロイ
ヤルホスト4・00(朝食休憩)6・
00―バス 焼津神社6・50―7・
00―美原寺8・12―文殊寺8・35
―9・10―別沢分岐9・20―若山
10・15―安徳街道踏切11・50(バス)
静岡温泉12・10(入浴・昼食)
14・00(バス) 岐阜駅17・10(解
散)

よく晴れて天気も澄み、雲仙の
富士山と南アの雲門三山・赤石岳・
聖岳、そして重畳たる安徳奥の山
並などを望めた。期待のミンパ
テナンションはサトイモ科特有
の仏炎燈の先を土筆のように地中
から出していた。ナガバノスミレ
サイシンもよく咲いていた。
(参加者) 岩崎孝子 荻野美紀恵
近江孝子 尾崎光子 砂原忠美子
佐々木三千代 森 美智子
栗崎崇吉 栗崎君子 竹田善美
徳田暢子 神谷弘司 宮本良幸
◎菅見守康 ○狩野東彦
(計17名)

六甲・石種花山

4月10日(出) 晴れ
(集合) JR三ノ宮駅9・40(電
車) 神楽谷下駅10・12―伏ヶ谷10・
28―石種花山11・50―展望台11・
55(昼食)12・30―市ヶ原14・25
―布引の滝15・10―新神戸駅15・
25(電車)三ノ宮駅15・40(解散)
谷上駅前でフリックさんが石種
花山に行ったことがあると云うので、
彼女を川上さんの後につけて
伏ヶ谷に入った。伏ヶ谷は明るく
て歩きやすい道だった。双子山の
分岐からコザサの狭く道に入ると、

潭木のなかに2等三角点の石種花
山があった。
(参加者) 栗井洋子 市井ユリエ
下村啓三 下村啓子 小塚きぬ子
フリック知恵子 河本美子子
岩田育士 若林文夫 岡本美千子
山下桂三 河合久子 岩本いすゞ
小林 健二 上田敏子 石田武由美
川上久登 立川朝夫 中尾美智子
大森康行 上田直代 水谷陽子
高藤孝子 西 悦子 ○林 信男
○和田直樹 ◎不出良彦(計21名)

大和葛城山から二上山
(笠置百名山に登る第66回)

4月11日(出) 晴れ
(集合) 近鉄御所駅8・55―9・
09(バス) ロープウェイ前9・24
―30―大和葛城山11・15(昼食)
12・00―葛城山13・15―岩屋山14・
00―10―座子石峠14・40―竹内峠15・
20―二上山雄岳16・20―30―雄岳
16・50―二上山社17・30(解散)
二上山社口駅17・40
大和葛城山からの大展望を楽し
み、午後はダイヤモンドトレイル
を下山上に向かって北上した。アッ
プダウンのあるロングコースで二
上山に到着する頃は脚に相当疲れ
が出た。

(参加者) 澤田高治 宮下淳一
山崎地彦 岩佐香織
前田初雄 若林文夫 極盛 栄
福澤 章 市野博文 前田栄三
鈴木吉和 鈴木輝雄 高池和美
磯野重治 上坂知子 武部英美子
角田一江 大和 敏 山崎佐知子
藤木秀雄 岩村登子 高岡富美子
森田久子 朝倉景雄 中嶋日出男
深木良雄 小谷和子 宮路ちへ子
山本博子 和田直樹 中島 隆
○山本博美 ○安倉正勝
◎村田智俊 (計35名)

小塚山・ボンボン山
(花道り山行)
4月13日(日) 晴れ
(集合) 阪急東向日駅 8:30~40
(バス) 春日日 9:00 天皇陵道
小塚山 10:35 カタクリ見学 11:
25 森の案内所 11:50 昼食 12:
35 一畑 14:00 木道分岐 14:40
一畑の森 15:00 キャンプ場 16:
30 はたる橋 17:00 長瀬天神駅
17:30 (解散)
係りの都合で急に靴上げ実地の
ため参加予定の方に迷惑をかけ
ました。また当日は不向き歩きで
ほろ苦い初山行となりました。ま
したが、大変楽しいです。今度は葉

しきぬれる山行を目指します。
(参加者) 谷川俊一 光川三美子
高松雅子 宮本真幸 西野加代子
原 幸子 木村 登 ○田中善雄
◎田中 明 (計9名)
丹波・霞見四十八滝
(ファミリーハイキング)
4月15日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅 8:00 (バ
ス) 四十八滝登山口 9:50~10:
05 長尾 10:25~30 岩壁テラス
11:20 (昼食) 12:00 一畑 12:
20 峠山三角点 12:45~13:00
キャンプ場への分岐 13:10 四十
八滝登山口 13:40~45 (バス) る
り池温泉 14:20 (入浴) 15:30
(バス) 新大阪駅 17:30 (解散)
多紀連山への登路四十八滝の道
は、優美に群生するヒカゲワラジ
など花いっぱい、美趣に富んでい
た。滝をめぐり終え、岩場を越え
た岩壁テラス上で昼食をとる。花
色に染まる山肌、深山や赤土部々
岳を眺め満足のいく日だった。
(参加者) 眞田久子 兼田幸子
中川光郎 吉野孝次 成川みさお
岩城和美 林尾一正 川上久堅
若原敏子 杉尾麗子 木下朝子
西條良彦 坂井克久 古川正子

三上仰夫 櫻田勝利 栗本敏夫
鈴木 浩 白木良弘 白木やす子
鈴木友子 一芝義雄 一芝美知子
高原芳彦 鈴木輝雄 堀たか子
水戸光治 佐藤光江 奥野太郎
原 鉄一 友田 孝子 山野志保子
村田紀生 友田 敏 友田美保子
磯部 純 神野孝允 石田眞由美
谷 守 大西信郎 栗本美恵子
杉山穂久 佐治 登 湯浅みや子
筒井光治 谷 久雄 ○山田三
◎吉野 明 (計36名)

柏木美子 村上寛子 中澤ちず子
本間順重 高野彰子 金藤一恵子
◎秋道正人 ◎木村太郎 (計37名)
高島・周ヶ岳と池木屋山
(週末ハイキング)
4月17日(日) 18日(月) 1泊2日
(17日) 晴れ (集合) 近鉄大和
八木駅 8:10~15 (バス) 周ヶ岳
神社 10:45 (昼食) 11:30 小峠
12:50 55 周ヶ岳 13:10 30 小
峠 13:45 新登山口 14:30 周
ヶ岳神社 14:40 15 (バス)
奥美濃温泉 スメール 16:30 (計
(18日) 晴れ) スメール 7:45
(バス) 宮ノ谷登山口 8:10 15
1 (ヘビ滝) 8:40 黒折谷合流休憩
所 8:55 9:05 高滝 9:15
25 湖邊 9:40 55 奥ノ出合 10:
30 40 池木屋山 12:00 (昼食)
12:50 奥ノ出合 13:50 14:00
06 宮ノ谷登山口 15:50 16:10
(バス) スメール 16:40 (入浴)
17:25 (バス) 大和八木駅 19:00
(解散)
小峠から周ヶ岳にかけては薄紫
のカタクリが咲いていた。山頂か
らは高島、俱利伽羅方面の山を見渡
せた。今回は高滝から上流の水屋

眞田久子 市野博文 兼田幸子
村崎和子 中村英雄 波部和美
本家流子 若林文夫 井上久子
宮村信夫 矢野 稔 栗本美子
原 文字 森 晴代 中尾美智子
和田文子 水谷陽子 ○林 信男
◎福嶋 章 ◎小出良春 (計37名)

が少なく奥ノ出合まで無事に渡渉
ができて池木屋山へ到着し、リベ
ンジを達成。黒折谷合流で見事な
アケボノワラジに出会い、奥ノ出
合から山頂までの急登はアケボノ
に加えミツバツツジ・タムシバ、
ハルリンドウが目を惹かせてく
れ、さわやかな風が苦しみを救っ
てくれた。22日に熊鷹から高滝方
面へ滑落して亡くなった2人の山
仲間のご冥福を祈ります。
(参加者) 船越利明 船越みよ子
上田初子 橋本正子 船木裕子
若松 寛 若松朝子 大園加代子
田田直規 深田高治 森 美恵子
村井寿和 萩野朝子 村田はる江
池田英美 松尾朝子 山根本恵子
関田登治 川田洋子 大和 敏
石川 敏 東中次夫 ○山吹利明
◎吉野東彦 (計24名)

山科・書羽山から若間寺
4月17日(日) 晴れ
(集合) 京阪大谷駅 8:30 書羽
山 10:00 千頭道 11:02 千
頭道 11:17 千頭道東麓 11:
30 大平山 12:00 (昼食) 12:55
1 奥ノ宮神社 13:55 岩間寺 14:
15 15:05 (バス) 石山駅 15:30
(解散)

初夏のような天候の下、主とし
て東海自然歩道の新緑のまぶしい
雑木林の静かな山行を楽しんだ。
(参加者) 後藤康幸 宮下淳一
堀及香織 田中善雄 東村由美
中島 隆 岩佐英夫 中嶋日出男
小谷和子 岩佐美子 角田一江
山本博美 白田幸子 木下朝子
谷 守 三浦 勝 三浦真佐子
原 文字 小松正信 ○磯部 純
◎安倉 昭 (計37名)

酒を呑み(鈴鹿を歩く19)
4月18日(日) 晴れ
(集合) 傍切谷旧林道入口 8:20
1 奥の畑合出合 9:35 1 奥ノ畑北
尾根取付 9:45 1 西畑を抜 11:55
(昼食) 12:40 1 雨乞岳 12:50 1
奥の畑 13:30 1 奥の畑合出合 13:
45 1 畑北 14:15 1 傍切谷 15:00
1 山頂 16:20 (解散)
山頂見下ろす。山腰・タムシ
バ・ミツバツツジ・キケマン・ヤ
マルリソウ・イワウチワ等の花。
新ルート奥の畑合出合にアタッ
クし、間尾根の急登が続いたが、
すばらしいルートだ。そして秘境
奥の畑合出合はバイケイソウの
緑が鮮やかだった。
(参加者) 後藤康幸 原 典

奈良・鳥ノ巻山
4月19日(日) 晴れ
(集合) 近鉄奈良駅 9:35 54
(バス) 千本橋 10:43 1 定録 10:
55 1 峠 11:15 1 鳥ノ巻山 11:
45 (昼食) 12:30 1 鉄塔 12:40
1 一畑 13:13 42 1 近鉄大和上市
駅 14:07 (解散)
鉄塔から鳥ノ巻山に取付く
急登だったがフェンスにつかまり
ながら登って行った。後ろを振り
返れば奈良の山々が見えていた。
奈良百連山の山頂であり、美しい
山名に惹かれて登って来たが、思っ
たよりやぶ山だった。
(参加者) 三角幸子 小原きぬ子
夜久美子 徳田朝子 栗本光雄

美濃・4月の舟伏山
4月18日(日) 晴れ
(集合) JR西岐阜駅 8:35 (車)
夏笠林道車止 9:50 1 奥の森 10:
15 1 峠 11:00 1 みのわ 11:25
1 舟伏山 12:10 (昼食) 13:00 1
阿波尾知茶の峰 14:00 1 原林道
あいの森駐車場 15:30 1 夏笠林道
車止 15:45 (車) 西岐阜駅 17:10
(解散)
10日に歩いたときに咲いていた
イワウチワ・タムシバ・アカヤシ
オはほとんど散ってなくなり、代
わりにヒカゲワラジ・シヤクナゲ
が咲き出しており、シロヤシオも
咲き出しそうなには驚いた。
(参加者) 全数参加 後藤久美子
兼田正栄 下村登子 今井みよ子
小峠朝子 小松正信 中谷美恵子
山田朝子 島井悦子 福澤三子代
馬場朝子 吉村 昭 伊藤美恵子
丹下由子 中川美子 伊藤久男

山田明男 (計18名)
京都北山・峰床山
4月18日(日) 晴れ
(集合) JR堅田駅 8:40 55
(バス) 葛学校前 9:35 45 1 林
道 10:20 20 1 中村乗越 11:25 1
1 八丁 11:35 40 1 オチロ坂 11:
55 1 峠 12:25 (昼食) 13:05
1 チセロ谷分岐 13:25 1 林道出合
14:15 25 1 峠 15:15 20 1
大塚山 15:45 (解散) (バス) 京
阪出町駅
全員が一回以上の参加のため、
地図読みのレッスンは慣習程度に
留めて山歩きを楽しんだ。ミヤマ
カタバミ・イワウチワの群生があ
り、木々の新緑がまぶしい一日だ
つた。
(参加者) 宮下淳一 兼田チヨコ
高木夫夫 前田初雄 山崎佐知子
橋原良彦 橋原久子 原 みえ
時光直一 森田久子 若本いすゞ
滝川敏雄 前田栄三 徳田千代子
◎中村 登 ◎原元一 (計19名)
湖西・湖北武奈ヶ原
4月18日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅 7:15 (バス)

石川ダム9・15・28・赤石10・37・50・武奈ヶ嶽11・20(集合) 12・50・74・9・13・17・17・スタ場 13・30・45・52・7・11(イオナスタ場) 13・57・14・30・南尾根登山口14・48(バス) 熊川道の駅15・00・17(バス) 高橋駅17・00(解散)

4月にしては余りにも早く、登山口からゆつくり登った。山頂は春の空、薄曇り日本海は見えないが、涼しい風が吹いていたのでたつぷりと昼食休憩をとった。下山の南尾根コースはカタクリの群落であるがすでに盛りを過ぎていた。イワカガミはまだ蕾だった。(参加者) 宮本貞幸 宮本悦子 神 伸 布施初美 安田文美江 岩本彰子 松村雅子 三井統一 使合礼司 武部 剛 武部美幸子 森 瑞代 多賀久次 岩田育士 加藤元彦 多賀久子 竹田清美 西尾俊彦 西原裕子 長谷川江 澤井洋子 木下朝子 長沢佑美 木村 聡 井上慈子 高橋寿治 繁田広美 入江武史 市橋千代子 小池一郎 首藤育子 青木一雄 三輪原文 岩根健司 川中 保 栗橋昌吉 栗納裕子 ○磯野東彦 ○中西信行 ◎高橋貞彦(計10名)

清滝から百無地蔵・神護寺(北山ちよと歩き56) 4月21日(水) ◎奥山繁三 *リーダーの都合で中止しました。 静岡・穴口山から山犬の段蹴走と高尾山と高尾山 (自然観察山行144) 4月23日(金) 25日(日) 前夜発1泊2日 (23日) くもり(集合) J R 岐阜駅23・00(バス) 24日(明) (バス) 寸又坂温泉4・00(散策・朝登) 5・30 沢口山登山口5・50 沢口山8・00 15 1 大木10・00 15 1 板取山 板取山11・30 40 1 八丁段12・25 山14・00 15 1 藪栗山南尾根登山口15・15 大木山登山口15・45 55(バス) 中川根町南16・25(日)

(25日) 晴れ 中川根町南7・20(バス) 大札山登山口7・45 50 1 大札山8・40 9 25 1 大札山南尾根登山口10・40 45(バス) 川根温泉11・50(入浴・昼食) 13・45(バス) 岐阜駅17・10(解散) 時間的な都合で高尾山はカット

したが、南アの雪崩や深淵部の山並を通過して沢口山から藪栗山まで縦走。翌日は大札山から富士山と前日縦走した長大な尾根を眺めた。アカヤシオの原生木の花が青空に映えていた。(参加者) 池田繁美 萩野英治 石川 敏 近江美子 砂原重幸子 岡田直規 金森節子 船本裕子 栗橋崇吉 栗橋裕子 森 美幸子 多田陽子 中川武人 原 文子 三井統一 村井寿和 村川幸忠 若松裕子 ○磯野東彦 ◎野宮守康 (計20名)

若狭の山・箱ヶ岳 4月24日(出) 晴れ (集合) 上中町役場10・00(車) 杉山10・20 1 箱ヶ岳11・30(集合) 13・00 1 不動高13・40 1 杉山区14・40(解散) 竹林はタケノコがニョキニョキ、「まんさくの道」はもう葉の緑が濃くなってきた。近辺の山城で一帯高い所があり、東に湖北武奈ヶ岳・三重ヶ岳・三三間山が、西に若狭三山の青峰山・飯盛山・多田ヶ岳が広がっていた。(参加者) 矢野 隼 井上由紀晴 石原野子 光岡徳史 光岡一孝子

谷 守 中山 男 池上小夜子 ◎高島伸浩 (計9名) 比良・釈迦堂(花道り山行2) 4月24日(出) ◎田中 明 *雨天のため中止しました。

生駒・高尾山から富安山 4月25日(日) 晴れ (集合) 近鉄下駅10・00 1 輝比売・輝比古神社10・10 1 高尾山11・03 1 高安山12・05(昼食) 12・40 1 高安山13・20 1 三峰14・12 1 水呑神社14・22 1 近鉄郡部川駅15・20(解散) 高尾山の岩場を登るのに足の短い人は苦勞されたみたいだが、無事に山頂へ着く。高安山では人が多くなったが、このコースはあまり知られていないようだ。(参加者) 橋原貞彦 前川和佳子 岩田育士 市野博文 四ノ宮陽子 岡田芳真 渡部和英 岡本美千子 水島律子 岩本いすゞ 中尾美智子 ○林 信男 ◎小出辰春 (計13名) 北山・若ヶ峰・釈迦ヶ岳・断木 4月25日(日) 晴れ (鈴鹿百山5)

(集合) 近鉄湯ノ山温泉駅8・25(車) 断谷分岐駐車場8・55 9・10 1 北山10・15 1 鐘石10・50 1 岩ヶ峰11・20(集合) 12・10 1 釈迦ヶ岳12・30 1 断木13・40 1 林道14・50 1 断谷分岐駐車場15・05 15(解散) 鐘石の上は少し怖かったが、見晴らしはとてよく、イワウチワ・イワカガミ・アカヤシオも咲かれてよかった。(記録) 北村つねお (参加者) 山田妙子 伊藤重幸子 以下山子 宮田伸子 中戸喜久江 山崎勇 林 正義 今井みよ子 吉村 昭 瀬江房樹 高合ひろ子 谷 久雄 宮崎信夫 的場たか子 栗本敏夫 村田紀生 宮路ちへ子 藤堂国男 白木良弘 白木やす子 西村文男 北村つねお 山野志保江 ○高橋芳彦 ◎山田明男 (計25名)

11・35(集合) 12・15 1 ホッケ谷口12・20 1 ホッケ谷分岐12・45 1 林道登山13・25 1 ホッケ谷出口13・35 45 1 小女峠登山口14・10 1 J R 湯沢駅14・40(解散) 谷ルートをとれば断谷のホッケ谷道だが、今回は人数が多いので尾根ルートを選んだ。林道歩きを短縮するため、道なき断谷の近道をとったので、最後の急な下りはややきびしかった。天候に恵まれ、全員足も揃っていたので、予定時間より早目に降りてくることかできた。(参加者) 吉橋孝次 尾崎光子 栗村悠格 澤井洋子 柴田チヨコ 三下伸夫 長尾一合 市井ニリエ 松原麗子 田中清雄 小原きぬ子 前田初雄 武部 剛 武部美幸子 若林文夫 川田洋子 中嶋日出男 鈴木吉和 佐野信江 松井明史 宮野信郎 宮野裕子 高岡美幸子 武村千鶴 大谷登子 竹内登久子 岩村登子 川崎雄雄 堀江八重子 谷 守 緒方由子 白田由子 ◎長 康夫 ◎宮下淳一 (計35名) 湖西・大谷山 (平日ふれあいハイクル)

4月27日(日) ◎寺井恒夫 *雨天のため中止しました。 北摂・若山 4月29日(日) 晴れ (集合) J R 高槻駅9・25 1 津賀寺9・55 1 金箔寺10・41 1 廣聖台11・20(集合) 12・00 1 若山12・06 1 四辻12・30 1 若山神社13・07 1 水無瀬の滝13・51 1 J R 山崎駅14・25(解散) みどりの日にふさわしく風がさわやかな一日だった。(参加者) 栗村由美 松井トキ子 嶋田民彦 飯田恵子 野里マン代 本間 隆 藤本桂吉 横川ゆり子 矢野 隼 松田 久 小坂さゆり 本家孝子 林 信男 山田陽子 北川段子 前田幸子 名倉マサ子 湯浅康夫 山田幸子 山根隆雄 渡部和英 小田陽子 ○市野博文 ○和田直規 ◎小出辰春(計20名) 美濃・伊吹北尾根 (自然観察山行145) 4月29日(日) 晴れ (集合) J R 大垣駅9・00(バス) 関白塚10・15 1 細砂原11・05 1 1 関白折11・20 1 大丸山12・00 1 御座館12・25(集合) 13・15 1 断

平14・45 1 静鳥ヶ原14・50 1 曹文 15・50(バス) ささ石公園16・00 1 20(バス) モリモリ村栗草嵐 16・40(入浴) 17・20(バス) 大垣駅18・06(解散) よく晴れたものの春霞で見晴らしはさなかつた。北尾根の花期は少し遅れ気味で、華やかさはなし。「山と溪谷」で紹介されてから歩く人が多くなったのか、北尾根の長さも少しずつ失われていくように思えた。(参加者) 伊藤恵子 大園加代子 伊藤 直 伊藤和代 萩野美紀恵 井上慈子 上田裕子 小原きぬ子 大東 哲 神 仲 加藤真佐子 尾崎光子 吉橋孝次 小崎由利子 栗橋裕子 中川武人 浦本由美子 原 幸子 瀬江房樹 森本真智子 松村理子 村川幸忠 花房真理子 山崎勝美 岡田直規 渡辺かつこ 林 えい子 ○栗橋崇吉 ○長尾一合 ◎野宮守康 (計20名) 鈴鹿・仙ヶ岳 (近畿百名山に登る第67回) 4月29日(日) 晴れ (集合) J R 京都駅7・40(バス) 黒田田川林道9・45 1 10・00 1 製谷登山口10・45 1 キレット通道

